

上野原市埋蔵文化財調査報告書第2集

大間々遺跡

上野原市庁舎等建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

上野原市教育委員会

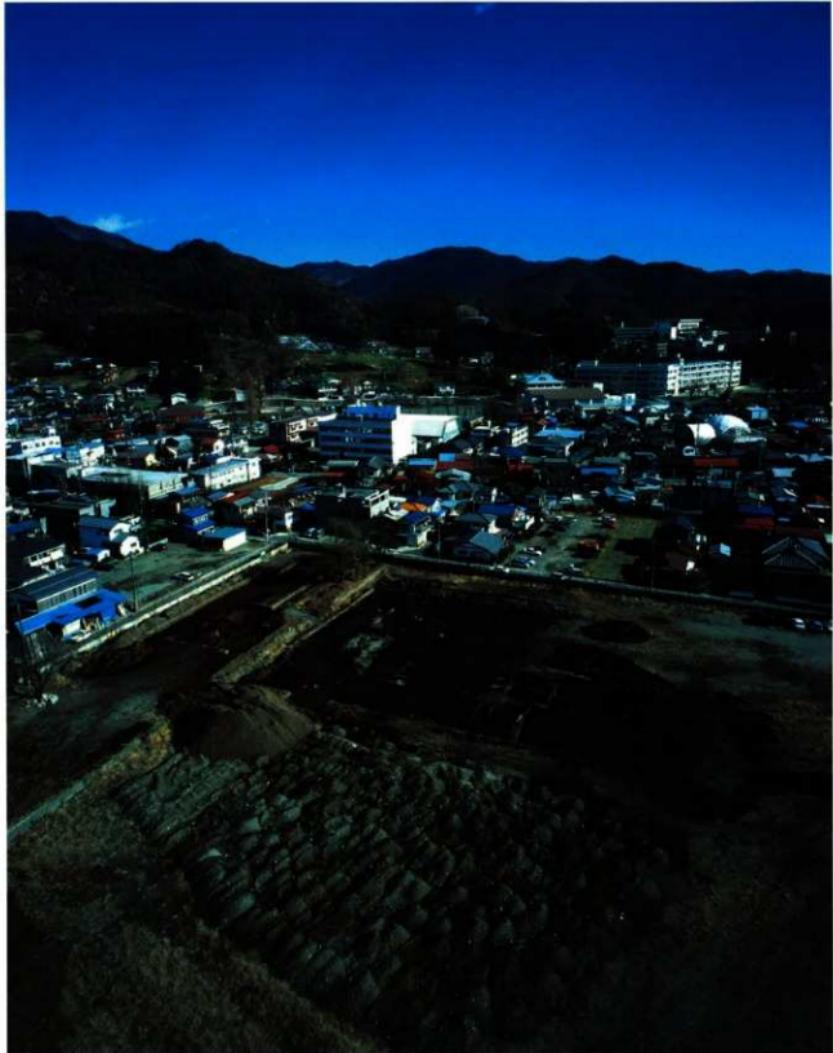
上野原市埋蔵文化財調査報告書第2集

大間々遺跡

上野原市庁舎等建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

上野原市教育委員会



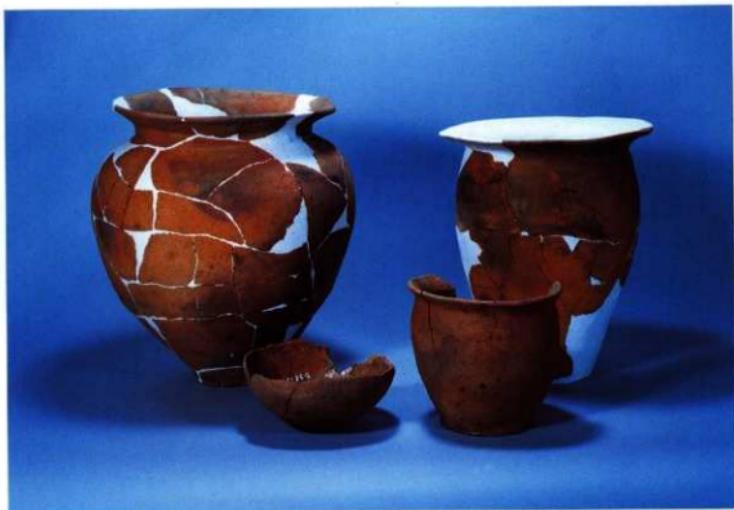
遺跡航空写真 西から



8号住居址カマドと土器の出土状況



11号住居址カマド



8号住居址床面出土の土器



小型壺（8号住居址覆土上面）



銅製鉢具（1号住居址）



須恵器甕（7号住居址）

序

本書は、平成13年、現在の上野原市庁舎等の建設工事に伴って実施した大間々遺跡の発掘調査報告書です。

大間々遺跡は上野原市街地の一角に位置し、発掘調査によって初めて存在が明らかとなりました。

本書は、この調査結果をまとめた記録報告書であり、おもに奈良・平安時代の人々が残した大小の住居跡や生活用具の数々が収められています。この中には大きな柱の穴がある建物跡や、当時の貴重品である銅製の帶金具、そして墨で達者な文字が書かれた器も含まれています。

これらの調査成果から、多様な階層社会のもとで、多くの古代人が上野原の台地上に集い、暮らしていたことが分かります。これまで不明確であった郷土の古代史に新たな1頁が加えられることでしょう。

最後に、これまでの調査にあたってご協力いただいた関係者、関係機関並びに調査・整理作業に携われた多くの方々に厚くお礼を申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の調査や保護に市民の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成19年3月

上野原市教育委員会

教育長 綱野清治

例 言

1. 本書は、山梨県上野原市上野原地内で実施された大間々遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、新庁舎等建設工事に伴う事前調査として平成13年度に実施された。発掘・整理は旧上野原町教育委員会が実施し、報告書作成は上野原市教育委員会が実施した。調査組織は次頁に記した。
3. 本書の執筆・編集は小西直樹（社会教育課社会教育担当）、早勢加菜（文化財土木）が行った。執筆分担は、遺物観察表を早勢が担当し、その他を小西が担当した。
4. 遺跡出土品の自然科学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果は付篇に示した。
5. 調査から本書の作成までを通して、つぎの機関・諸氏のご指導・ご教示をいただいた。記して感謝申し上げます。（教称略・順不同）
山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター、古代中斐国官衙研究会、坂本美夫・森原明廣（山梨県埋蔵文化財センター）、平野修（帝京大学山梨文化財研究所）、奈良泰史（都留市役所）、杉本正文・福川正人（大月市教育委員会）、田尾誠敏（大正大学）、河野喜映（かながわ考古学財団）
6. 遺跡の調査成果は、これまでに各種の刊行物他で報告されてきたが、本書をもって最終報告とする。
7. 本書にかかる出土品・記録図面等は、一括して上野原市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本書に転載した地図はつぎのとおり。
遺跡位置図：昭和56年国土地理院の承認を受けて調整した5千分の1地形図
周辺の遺跡分布図：国土地理院発行の2万5千分の1地形図
2. 遺構・遺物図版
(1) 遺構の縮尺は1/60、カマド1/30を基本とし、図版スケールに明記した。
(2) 遺構図の「240m」といった数値は標高を示す。
(3) 遺物の縮尺は1/3を基本とし、図版スケールに明記した。
(4) スクリーントーンは統一して用いておらず、用例は各図版で示した。
3. 表
(1) 表中の法量で（ ）内の数値は残存値を示す。
(2) 色調の判別には「新版標準土色帖」（日本色彩研究所色票監修 1988）を利用した。
4. 遺構番号の一部は整理作業の過程で変更している。新旧の対照表を次頁に付した。

遺構番号の対照表

| 遺構 | 報告番号 | 旧番号 | 遺構 | 報告番号 | 旧番号 |
|----------|------|--------|-----|------|---------|
| 柱立柱建物址 | 1 | 1 | ピット | 1 | |
| | 2 | 4 | | 2 | |
| 1号柱立柱建物址 | P 1 | A | ピット | 3 | |
| | P 2 | B | | 4 | |
| | P 3 | C | | 5 | |
| | P 4 | D (東側) | | 6 | |
| | P 5 | D (西側) | | 7 | |
| | P 6 | E | | 8 | |
| | P 7 | F | | 9 | |
| | P 8 | G | | 10 | 1 |
| | P 9 | H | | 11 | |
| | P 10 | I | | 12 | 2 |
| | P 11 | J | | 13 | 3 |
| 2号柱立柱建物址 | P 1 | B | ピット | 14 | |
| | P 2 | A | | 15 | 4 |
| | P 3 | C | | 16 | |
| | P 4 | D | | 17 | 1号ピット列A |
| 1号柱穴列 | P 1 | P 1 | ピット | 18 | 1号ピット列B |
| | P 2 | P 2 | | 19 | 1号ピット列C |
| | P 3 | 8号土坑 | | 20 | 2号ピット列B |
| | P 4 | 10号土坑 | | 21 | 5 |
| | P 5 | 10号土坑 | | 22 | 6 |
| 土坑 | 1 | 1 | ピット | 23 | 2号ピット列A |
| | 2 | 2 | | 24 | 2号ピット列C |
| | 3 | 3 | | 25 | 2号ピット列D |
| | 4 | 4 | | 26 | 2号ピット列E |
| | 5 | 5 | | 27 | |
| | 6 | 6 | | 28 | |
| | 7 | 7 | | 29 | |
| | 8 | 9 | | 30 | |
| | 9 | 11 | | 31 | |
| | 10 | 12 | | 32 | 23号土坑 |
| | 11 | 13 | | 33 | 7 |
| | 12 | 14 | | 34 | 2号柱立A |
| | 13 | 15 | | 35 | 2号柱立C |
| | 14 | 19 | | 36 | |
| | 15 | 21 | | 37 | 3号ピット列 |
| | 16 | 22 | | 38 | 3号ピット列 |
| | 17 | 24 | | 39 | 4号ピット列 |
| | 18 | 25 | | 40 | 4号ピット列 |
| | 19 | 26 | | 41 | 4号ピット列 |
| | 20 | 27 | | | |

※空欄は欠番

調査組織

平成 13 年度(発掘)

調査機関 上野原町教育委員会
事務局 教育長 水越偉成、社会教育課長 白井和文、係長 梅原秀雄
担当者 小西直樹
参加者 加藤文宣、閑口和男、長田貞大、富田 審、杉本征男、富岡ます美、安藤寿恵、和智革子、上條文子、古根村典子、和智瑞江(以上一般)、阿部宗一、清水正幸、高橋君子、小俣フジ子、溝呂木昭治、阿部文雄、東山晴男、小俣 章、熊崎君夫、阿部徳子(以上シルバー人材センター)、河野彰夫(国学院大学)、石塚宇紀、折原 覚、高見哲士(駒澤大学考古学研究会)

平成 14 年度(整理)

調査機関 上野原町教育委員会
事務局 教育長 水越偉成、社会教育課長 白井和文、係長 梅原秀雄
担当者 小西直樹
参加者 古根村典子、上條文子、和智瑞江、富岡ます美、小俣美鈴、築地文博

平成 16 年度(整理)

調査機関 上野原町教育委員会
事務局 教育長 水越偉成、社会教育課長 酒井信俊、係長 織田隆義
担当者 小西直樹
参加者 古根村典子、富岡ます美、草間正彦(帝京大学考古学研究会)

平成 18 年度(報告書作成)

調査機関 上野原市教育委員会
事務局 教育長 綱野清治、社会教育課長 小笠原徳喜、担当リーダー 尾形 篤
担当者 小西直樹、早勢加菜
参加者 古根村典子

目 次

序　　例言　　凡例

| | |
|--------------------|-----|
| 第Ⅰ章　遺跡の位置と周辺の環境 | 1 |
| 第Ⅱ章　調査の経緯 | 3 |
| 第1節　調査にいたる経緯と経過 | 3 |
| 第2節　調査の方法 | 3 |
| 第3節　遺跡の層序 | 3 |
| 第Ⅲ章　発見された遺構と遺物 | 6 |
| 第1節　堅穴住居址 | 6 |
| 第2節　掘立柱建物址 | 16 |
| 第3節　柱穴列 | 16 |
| 第4節　ピット | 17 |
| 第5節　土坑 | 17 |
| 第6節　溝状遺構 | 20 |
| 第Ⅳ章　まとめ | 23 |
| 第1節　遺物 | 23 |
| 第2節　遺構 | 24 |
| 第3節　炭化種子について | 26 |
| 第4節　まとめ | 26 |
| 付篇　大間々遺跡における自然科学分析 | 103 |

挿図目次

| | | | | | |
|------|-------------------|----|------|------------------|----|
| 第1図 | 遺跡位置図 | 1 | 第38図 | 8号住居址遺物分布図 | 60 |
| 第2図 | 周辺の遺跡分布図 | 2 | 第39図 | 8号住居址炭化材、焼土分布図 | 61 |
| 第3図 | 調査区配置図 | 4 | 第40図 | 8号住居址出土遺物-1 | 62 |
| 第4図 | 調査区全体図 | 5 | 第41図 | 8号住居址出土遺物-2 | 63 |
| 第5図 | 1号住居址、カマド | 27 | 第42図 | 9号住居址、東カマド | 64 |
| 第6図 | 1号住居址遺物分布図、接合図-1 | 28 | 第43図 | 9号住居址北カマド | 65 |
| 第7図 | 1号住居址遺物接合図-2 | 29 | 第44図 | 9号住居址遺物接合図、出土遺物 | 66 |
| 第8図 | 1号住居址出土遺物 | 30 | 第45図 | 10号住居址、遺物分布図 | 67 |
| 第9図 | 2号住居址(新) | 31 | 第46図 | 10号住居址出土遺物 | 68 |
| 第10図 | 2号住居址(新)出土遺物 | 32 | 第47図 | 11号住居址 | 69 |
| 第11図 | 2号住居址(旧) | 33 | 第48図 | 11号住居址カマド | 70 |
| 第12図 | 2号住居址(旧)カマド、炉、土坑 | 34 | 第49図 | 11号住居址遺物分布図、出土遺物 | 71 |
| 第13図 | 2号住居址(旧)掘り方 | 35 | 第50図 | 12号住居址、カマド、炉 | 72 |
| 第14図 | 2号住居址(旧)遺物分布図 | 36 | 第51図 | 12号住居址掘り方、遺物接合図 | 73 |
| 第15図 | 2号住居址(旧)遺物接合図-壺類- | 37 | 第52図 | 12号住居址出土遺物 | 74 |
| 第16図 | 2号住居址(旧)遺物接合図-甕類- | 38 | 第53図 | 13号住居址 | 75 |
| 第17図 | 2号住居址(IH)出土遺物-1 | 39 | 第54図 | 13号住居址カマド | 76 |
| 第18図 | 2号住居址(旧)出土遺物-2 | 40 | 第55図 | 13号住居址遺物分布・接合図 | 77 |
| 第19図 | 2号住居址(旧)出土遺物-3 | 41 | 第56図 | 13号住居址出土遺物-1 | 78 |
| 第20図 | 2号住居址(旧)川土遺物-4 | 42 | 第57図 | 13号住居址出土遺物-2 | 79 |
| 第21図 | 2号住居址(IH)出土遺物-5 | 43 | 第58図 | 13号住居址出土遺物-3 | 80 |
| 第22図 | 3号住居址、遺物分布図 | 44 | 第59図 | 1号掘立柱建物址 | 81 |
| 第23図 | 3号住居址出土遺物 | 45 | 第60図 | 2号掘立柱建物址 | 83 |
| 第24図 | 4号住居址、遺物分布・接合図 | 46 | 第61図 | 1号柱穴列 | 84 |
| 第25図 | 4号住居址出土遺物 | 47 | 第62図 | 1号柱穴列出土遺物 | 86 |
| 第26図 | 5号住居址、カマド、出土遺物 | 48 | 第63図 | ピット-1 | 86 |
| 第27図 | 6号住居址、カマド | 49 | 第64図 | ピット-2 | 87 |
| 第28図 | 6号住居址出土遺物-1 | 50 | 第65図 | ピット-3 | 88 |
| 第29図 | 6号住居址出土遺物-2 | 51 | 第66図 | ピット-4 | 89 |
| 第30図 | 7号住居址 | 52 | 第67図 | 土坑-1 | 90 |
| 第31図 | 7号住居址カマド | 53 | 第68図 | 土坑-2、出土遺物 | 91 |
| 第32図 | 7号住居址遺物分布図、接合図 | 54 | 第69図 | 溝状遺構-1 | 93 |
| 第33図 | 7号住居址出土遺物-1 | 55 | 第70図 | 溝状遺構-2 | 94 |
| 第34図 | 7号住居址出土遺物-2 | 56 | | | |
| 第35図 | 7号住居址出土遺物-3 | 57 | | | |
| 第36図 | 8号住居址 | 58 | | | |
| 第37図 | 8号住居址カマド | 59 | | | |

表目次

| | | |
|------|-----------------|----|
| 第1表 | 2号住居址(新)出土土器分類表 | 7 |
| 第2表 | 2号住居址(旧)出土土器分類表 | 8 |
| 第3表 | 3号住居址出土土器分類表 | 9 |
| 第4表 | 4号住居址出土土器分類表 | 9 |
| 第5表 | 5号住居址出土土器分類表 | 10 |
| 第6表 | 6号住居址出土土器分類表 | 10 |
| 第7表 | 7号住居址出土土器分類表 | 11 |
| 第8表 | 8号住居址出土土器分類表 | 12 |
| 第9表 | 9号住居址出土土器分類表 | 13 |
| 第10表 | 10号住居址出土土器分類表 | 13 |
| 第11表 | 11号住居址出土土器分類表 | 14 |
| 第12表 | 12号住居址出土土器分類表 | 15 |
| 第13表 | 13号住居址出土土器分類表 | 15 |
| 第14表 | 遺構出土遺物観察表 | 95 |

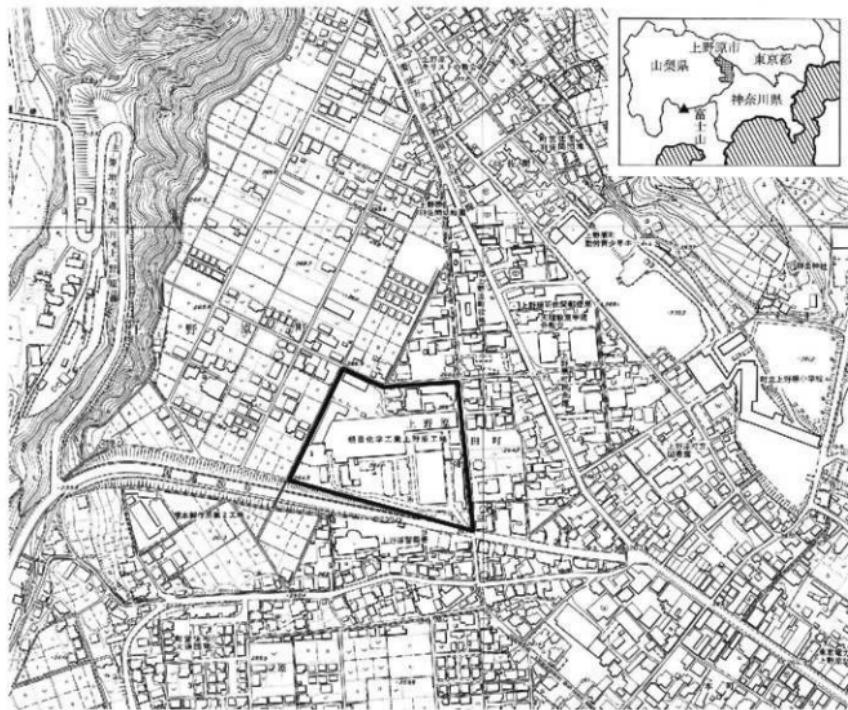
写真目次

| | |
|------|---------------------|
| 写真1 | 遺跡遠景、調査前近景 |
| 写真2 | 調査区全景 |
| 写真3 | 1号住居址 |
| 写真4 | 2号住居址 |
| 写真5 | 2号住居址(旧) 遺構出土状況 |
| 写真6 | 調査区南端の遺構検出状況、3号住居址 |
| 写真7 | 4号住居址 |
| 写真8 | 5号住居址、6号住居址 |
| 写真9 | 6号住居址カマド |
| 写真10 | 7号住居址 |
| 写真11 | 7号住居址カマド |
| 写真12 | 8号住居址 |
| 写真13 | 8号住居址カマド |
| 写真14 | 8号住居址遺物出土状況 |
| 写真15 | 8号住居址遺物、炭化材出土状況 |
| 写真16 | 9号住居址、北カマド |
| 写真17 | 10号住居址、調査区北端の遺構検出状況 |
| 写真18 | 11号住居址、カマド |
| 写真19 | 12号住居址、13号住居址 |
| 写真20 | 13号住居址カマド、1号掘立柱建物址 |

| | |
|------|----------------------|
| 写真21 | 1号掘立柱建物址柱穴、2号掘立柱建物址 |
| 写真22 | 1号柱穴列 |
| 写真23 | 1号柱穴列、ピット(P2~P4) |
| 写真24 | ピット(P5~P8)、P36断面 |
| 写真25 | 1号土坑、2号土坑 |
| 写真26 | 4号土坑断面、5号土坑 |
| 写真27 | 6号土坑、7号土坑断面 |
| 写真28 | 11・12、13、14、15、20号土坑 |
| 写真29 | 2・3・5・7・8号溝 |
| 写真30 | 調査風景 |
| 写真31 | 1号、2号住居址(新)出土遺物 |
| 写真32 | 2号住居址(新)、(IH)出土遺物 |
| 写真33 | 2号(旧)、3号~5号住居址出土遺物 |
| 写真34 | 6号、7号住居址出土遺物 |
| 写真35 | 7号、8号住居址出土遺物 |
| 写真36 | 8号、10号、11号住居址出土遺物 |
| 写真37 | 12号、13号住居址出土遺物 |

第Ⅰ章 遺跡の位置と周辺の環境

大間々遺跡は山梨県上野原市に位置する。上野原市は山梨県東端の県境に位置し、市域は関東山地や丹沢山塊に囲まれ、面積の約8割が山林で占められる。市の中央部を桂川（相模川）が流れ、支流の鶴川・秋山川の沿岸に狭小な河岸段丘地形が点在する。東京都・神奈川県に接する地理的要因から、古来より関東地方との関係が強い。近世には江戸・甲府・信州を結ぶ甲州街道の宿場が4宿置かれ、桂川の水運とともに東西交通の要衝地として栄えた。大間々遺跡は桂川と鶴川の合流地点に張り出した市内最大の段丘面にあり、周辺は旧甲州街道の上野原宿を中心に市街地化されている。調査地は、明治末から大正初期の大規模な耕地整理による開田以降、製糸工場や合成皮革工場が建設された場所である。



第1図 遺跡位置図 (1/5000)

市内の遺跡は河川沿いの段丘面や緩斜面地に多く分布し、現在までに 162 カ所が確認されている。遺跡の時期は縄文時代が最も多く、弥生時代は極めて少ないが、続く古墳～奈良・平安時代にかけて多く見られる。

大間々遺跡の周辺では、段丘背後の丘陵斜面部に遺跡が点在する。このうち上野原小学校遺跡（2）で縄文時代中期～後期の遺物包含層や古墳後期～奈良時代の竪穴住居址 3軒、大堀 I 遺跡（4）で平安時代の竪穴住居址 2軒、大堀 II 遺跡（5）で縄文時代中期の竪穴住居址 2軒が発掘調査された。一方、段丘平坦面の遺跡分布は希薄だが、大間々遺跡（1）で奈良・平安時代の竪穴住居址などが多数発見されたことにより、古代の集落址が段丘平坦面に広がる可能性が強くなった。



第2図 周辺の遺跡分布図 (1/25000)

第Ⅱ章 調査の経緯

第1節 調査にいたる経緯と経過

調査地は上野原市上野原字大間々3832-1、3832-9、3832-10で、朝日化学工業(株)上野原工場の跡地である。ここに、旧上野原町の庁舎(現在の上野原市役所)が建設されることになり、遺跡を確認するための試掘調査を平成12年(2000)10月30日～11月6日まで行った。この結果、平安時代の堅穴住居址や遺物が確認され、本調査の実施が必要と判断された⁽¹⁾。遺跡は字名から大間々遺跡とした。

発掘調査は、平成13年(2001)8月29日～12月27日まで行った。調査地は高低差1m程度の石積みで2段に分けられたことから、南側下段から調査を開始し、11月から北側上段の遺構確認と検出を行って行った。12月に航空写真撮影や遺跡見学会を行った。調査は12月末に終了し、翌年1月に残務整理を行って現場作業を完了した。

(1)『山梨県上野原市市内遺跡発掘調査報告書』2006 上野原市教育委員会

第2節 調査の方法

発掘調査は、工事予定区域 19,220 m²のうち約 3,000 m²で実施した。表土(整地層)を重機で掘削した後、磁北を基準に5m方眼の区画(グリッド)を設定した。表土直下で遺構確認面(第Ⅲ層上面)が検出されたが、第Ⅱ層が残る範囲は人力で掘り下げて遺構確認に努めた。遺構の番号は確認された順番で付けた。堅穴住居址の調査は、基本的に土層観察用の上手を十字に残して掘り下げた。カマド内や周辺の土壤はサンプルとして採取し、炭化種子等の選別作業を行った。遺物は原則として出土位置の平面・標高を計測して取り上げた。

第3節 遺跡の層序

調査地は高低差1m程度の石積みで2段に分けられ、各面とも平坦であった。旧建物による搅乱が広範囲に及び、基礎コンクリートの一部が堆山のローム層まで達するなど、上層の旧状をとどめた場所は少ない。

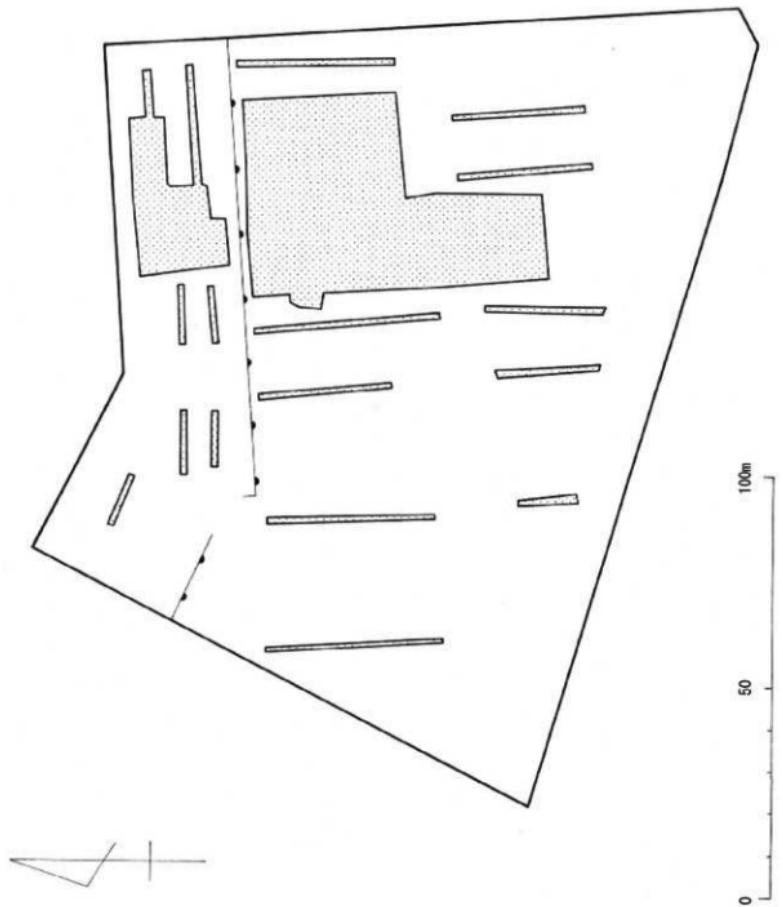
第Ⅰ層 コンクリートや砂利を含む整地層。層厚は20cm～100cm。

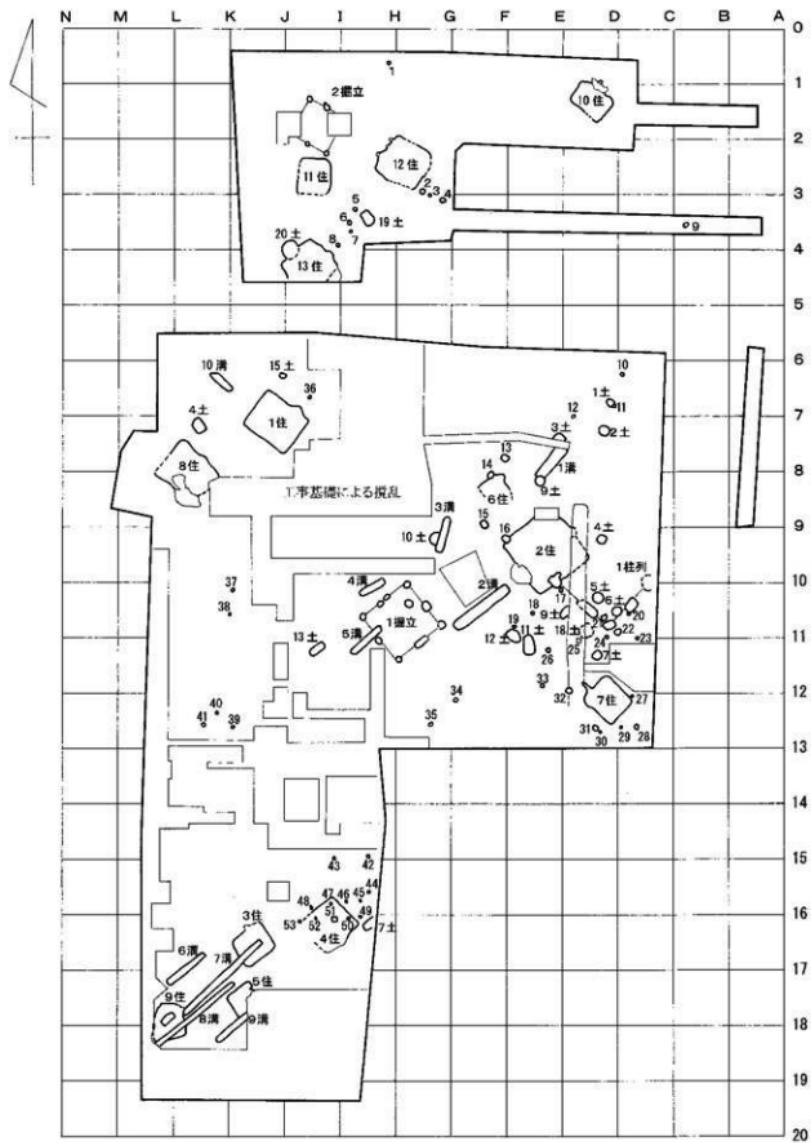
第Ⅱ層 黒褐色土 黒色スコリア(粒径5mm以下)を含む。土師器の細片を含み、古代の遺構覆土は本層を基調とする。全般に遺存状況は悪い。層厚は20cm以下。

第Ⅲ層 にぶい褐色土 粘性・締まりやや強い。橙色スコリア(粒径3mm以下)を多く含む。遺物は含まない。木層上面が古代の遺構確認面である。層厚は50cm前後。

第Ⅳ層 橙色土 粘性・締まり強い。ローム層に相当する。橙色スコリア(粒径5mm以下)を多く含む。

第3图 调查区配置图





住: 積穴住居址 挖立: 挖立柱建物址 土: 土坑 番号のみ: ピット

第4図 調査区全体図

第三章 発見された遺構と遺物

堅穴住居址 13 軒、掘立柱建物址 2 軒、柱穴列 1 基、ピット 53 基、土坑 20 基、溝状遺構 10 基が発見された。全般に土木工事の搅乱が激しかったため本調査の範囲は限定されたが、遺構の分布範囲はさらに広がっていた可能性がある。住居は 7 世紀代の住居を最古とし、奈良・平安時代（8 世紀～10 世紀前半）を中心とする。掘立柱建物址は平安時代の住居と同時期である可能性が強い。柱穴列、ピット、土坑の時期は不明確だが、覆土の状況や住居との重複関係から平安時代の住居と同時期か、以降の所産と推定される。溝状遺構は住居や土坑を切って分布することから平安時代以降に推定される。

遺物は、遺構内を中心に土師器・須恵器・灰陶陶器・上製品（十鍤）・石製品（砥石）・金属製品（鉄製刀子・銅製鉗具）、及び炭化稻子が出土した。この他、遺構は発見されなかったが、縄文時代中期、及び古墳時代前期の遺物がわずかに出土している。なお、本稿における土器の年代観は『甲斐型土器—その編年と年代—』山梨県考古学協会 1992 に拠り、相模型の上器については宮久保編年（長谷川 1990）を援用した。

第 1 節 堅穴住居址

堅穴住居址 13 軒が発見された。東側に最大規模の住居（2 号）と小型 2 軒（6・7 号）から成る一群があり、これらを中心に空隙地を挟んで分布域が分かれ、北から西側に小型（10・11 号）、及び比較的大型（1・8・12・13 号）が散在し、南側に小型 4 軒（3・4・5・9 号）がかたまって分布する。

1号住居址（第 5 図～第 8 図、写真 3・31）

- 位置 調査区西側の I-6・7、J-6・7 区に位置し、南西 5 m に 8 号住居址がある。
- 形状・規模 平面は長方形で、長軸 4.5 m、短軸 3.8 m である。カマドを持つ。主軸方位は N-15°-E。遺存状況は良く、壁は最高 50 cm である。
- 床 全般に堅く締まっている。貼り床は認められなかった。
- 柱穴・周溝 認められなかった。
- カマド 北東壁の東寄りにある。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出され、天井や袖部は遺存しなかった。火床部から急傾斜で立ち上がり、先端にテラス状の短い煙道が付く。火床部は床面を約 25 cm 挖り込んで構築される。
- 覆土 暗褐色土が主体で、隙間に褐色土塊を含む土層が流入する。
- 遺物 出土遺物の大半は、カマド崩壊土とその周辺の覆土に含まれる。すべて土師器の壺で、相模型に属する（総点数 73 点・総重量 2,750 g）。小型壺（1）、長胴壺（2～5）、胴張壺（6・7）と複数の個体があるが、完形に復元できたものはない。壺の一部は住居北東側にある P36 内の上器と接合する。この他、特筆される遺物として銅製の鉗具（8）が床面の西側で出土したが、他に関連する遺物がないため、鉢形、馬具のいずれの付属品であるのかは不明である。
- 時期 宮久保編年（長谷川 1990）に拠れば、長胴壺は胴部上位にふくらみを持ち、底径が 7 cm～8 cm を測ることから C3 類に比定できる。小形壺は肩部に張りがあり、下半へのすぼまりが強くなる傾向が認められ C2 類～C4 類の範疇に比定される。このことから、時期区分を宮久保編年 IV 期～V 期に対比し、本住居の時期を 8 世紀中葉から後半に推定しておきたい。

2号住居址

調査区中央東側のD-8・9、E-8・9区に位置し、1号柱穴列、16号ピットに切られる。近隣に6号・7号住居址、1号掘立柱建物址の他、多数のピット・土坑が散在している。この住居は、建て替えによる拡張のため新旧2段階に分けられる。

2号住居址(新段階) (第9図～第10図、写真4・31・32)

形状・規模 平面方形で、1辺5.6mである。カマドは持たず、壁際に柱穴がめぐる。工場の基礎コンクリートや試掘調査時のトレーナーで切られ、遺存状況はやや悪い。壁高は30cmである。

床 古段階の住居上に構築され、全般に軟弱である。東側と西側の一部には、ハードローム塊を含む貼り床が認められた。

柱穴・周溝 8基の柱穴(P1～P8)が壁際直下に検出された。柱穴は、搅乱を受けた北隅を除く三隅、及び北東壁と南西壁の中央部に各1基が配される。さらに北西壁は1.9m間隔で2基(P7・P8)配されるが、対応する南東壁は1基(P3)のみで、P2・P3間に柱穴は検出されなかった。各柱穴の最深部は住居壁側に寄り、深さは床面から0.8m～1.1mである。周溝は認められなかった。

カマド 認められなかった。

焼土遺構 床面中央に検出された。平面不整形で、長軸3.0m、短軸1.5m、深さ15cmである。内部に焼土純層、及び多量の炭化種子(アワ・ヒエ等の草木種実、モモ核)が検出された。

覆土 暗褐色土が主体である。

遺物 大半は覆土に含まれる。上部器の壺・皿・甕、須恵器の甕・長頸甕、灰釉陶器の甕、炭化種子がある。十師器は相模型壺(8)を除きすべて甲斐型に属す。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。墨書き土器は4点で、判読できるものに「基」(5・11)がある。

時期 甲斐型上器編年のXII期(10世紀前半～中頃)に比定される。

| 器種 | 土師器 | | | 須恵器 | 灰釉陶器 |
|-------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 甲斐型・壺類 | 甲斐型・甕類 | 相模型・壺類 | | |
| 点数 | 10 | 4 | 1 | 2 | 1 |
| 重量(g) | 269 | 223 | 10 | 100 | 52 |
| 点数比率 (%) | 55.6 | 22.2 | 5.5 | 11.1 | 5.6 |
| | 77.8 | | 5.5 | 11.1 | 5.6 |

第1表 2号住居址(新)出土土器分類表

2号住居址(旧段階) (第11図～第21図、写真4・5・32・33)

形状・規模 新段階の住居直下で検出された。平面方形で、1辺4.5mである。カマドを持ち、壁際に柱穴がめぐる。主軸方位はN-55°-E。工場の基礎コンクリートや試掘調査時のトレーナーで切られ、遺存状況はやや悪い。壁高は20cmを測る。

床 ハードローム塊を含む貼り床が施され、全般に堅く締まっている。掘り方は、北西壁、及び南東壁から南西壁の一部に沿って溝状に検出された。

柱穴・周溝 柱穴3基(P1～P3)が、搅乱を受けた北隅を除く三隅で検出された。深さは床面から10cm～30cmを測る。周溝は認められなかった。

カマド 北東壁の東寄りにある。煙道部は試掘調査時のトレーナーで切られている。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出され、天井や袖部は遺存しなかった。火床部から煙道部にかけての立ち上がりは

急傾斜である。火床部は床面を 20cm 剥り込んで構築される。

炉 床面中央付近に 1 基検出された。平面不整橢円形で、長軸 60cm、短軸 50cm、深さ 10cm である。内部に焼上層、及び炭化物・炭化種子（アワ・ヒエ等の草木種子）が検出された。壁面の一部は焼けて硬化している。

焼土、粘土土坑 床面北側で焼土表面が検出された。焼土中には粘土粒・塊・炭化材・粒、土器細片が多く混じる。焼上面下で上坑が検出された。十坑の平面は不整形で、長軸 2.0m、短軸 1.0m、最深 10cm を測る。壁はなだらかである。内部はカマドと同じ白色粘土塊や硬質の焼上層が検出された。壁面に焼けた痕跡は認められず、床下粘土土坑の可能性が考えられる。

P 4 カマドに近接して位置する。平面は不整方形で、長軸 0.9m、短軸 0.8m、深さ 0.4m である。ピット覆土上層から周囲の住居床面にかけて土師器の細片が多数分布している。1 分柱穴列を構成する柱穴の可能性も考えられたが、本住居址に伴うものと判断した。

覆土 褐色土を含む暗褐色土が主体である。

遺物 出土遺物は覆土下層から床面にかけて多量に分布し、土師器の壺・皿・甕（小型・大型）・羽釜、須恵器の壺・甕・長頸壺、灰釉陶器の甕、土錐、砥石、炭化種子（モモ核・クリ）が出土した。土師器の大半は甲斐型に属す。須恵器壺（23）は唯一の完形品で、他の土器はすべて破片であった。土器の多くに接合関係が認められ、小さい範囲でまとまるもの、水平方向に広範囲に及ぶものの、7 号住居と接合関係をもつものがある。墨書き土器は 4 点で、「本」（1）、「丈」（2）がある。転用品に灯明皿（11）や内面が研磨された須恵器甕（59）がある。砥石（62）は扁平な素材の両側面及び端部に研磨痕が残る。

| 器種 | 土師器 | | | | | | | 須恵器 | | 灰釉陶器 | |
|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|-----|-------|-----|
| | 甲斐型壺類 | 甲斐型甕類 | ロクロ壺 | 相模型壺類 | 武藏型甕類 | 鬼高系壺類 | 鬼高系甕類 | 不明細片 | 壺類 | 甕類 | 壺類 |
| 点数 | 264 | 464 | 2 | 61 | 15 | 5 | 15 | 20 | 19 | 27 | 3 |
| 重量(g) | 1,255 | 5,169 | 9 | 323 | 180 | 25 | 155 | 45 | 240 | 1,579 | 87 |
| 点数比率 | 29.3 | 51.4 | 0.2 | 6.8 | 1.7 | 0.6 | 1.7 | 2.2 | 2.1 | 3.0 | 0.3 |
| (%) | 80.7 | | | 6.8 | 1.7 | 2.3 | | 2.2 | 5.1 | | 1.0 |

第2表 2号住居址(旧)出土土器分類表

時期 中斐型土器編年の X I ~ X II 期（9世紀末~10世紀中頃）と縦が認められるが、須恵器壺（23）が南多摩窯 G5 窯式に比定できることから 10世紀前半~中頃が主体となろう。

3号住居址（第 22 図～第 23 図、写真 6・33）

位置 調査区南側の J-16 区に位置し、南に隣接して 5 号住居址がある。

形状・規模 平面は不整長方形で、長軸 4.0m、短軸 3.5m である。カマドを持つ。主軸方位は N-55° -W。全般に削平を受け、7 分溝に切られるなど遺存状況は悪い。壁高は 10cm である。

床 貼り床は認められなかった。

柱穴・周溝 認められなかった。

カマド 北壁中央のやや東寄りにある。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出された。天井や袖部は遺存せず、袖石と思われる自然石が検出された。火床部は明確に認められなかった。

覆土 黄白色粘土や焼土粒を含む暗褐色土が主体である。

| 遺物 | 出土遺物は、カマド崩廃上とその周辺床面で検出された。土師器の壺・甕・櫛きカマドがあり、武藏型甕（1）を除き、大半が甲斐型に属する。いずれも破片であった。 | 土師器 | | | |
|-------------|--|--------|--------|--------|-----|
| | | 甲斐型・壺類 | 甲斐型・甕類 | 武藏型・甕類 | 須恵器 |
| 点数 | 3 | 46 | 6 | 1 | |
| 重量(g) | 6 | 692 | 41 | 5 | |
| 点数比率 (%) | 6.4 | 82.1 | 10.7 | 1.8 | |
| | 87.5 | | 10.7 | 1.8 | |

第3表 3号住居址出土土器分類表

4号住居址（第24図～第25図、写真7・33）

| | |
|-------|---|
| 位置 | 調査区南側のH-15・16、I-15・16区に位置し、西1.5mに3号住居址がある。 |
| 形状・規模 | 平面は不整長方形で、長軸3.3m、短軸2.7mである。南壁の中央部が外側へわずかに張り出す。カマドは認められない。全般に削平を受け、北壁の一部と内壁を欠失するなど遺存状況は悪い。壁高は10cmを測る。 |
| 床 | 貼り床は認められなかった。 |
| 柱穴・周溝 | 認められなかった。 |
| カマド | 認められなかった。 |
| 炉 | 住居の南西側で検出された。平面不整円形で、長軸50cm、短軸35cm、深さ20cmである。内部に焼上層が検出された。 |
| P 2 | 床面中央の東寄りで検出された。P51と重複するため詳細な形状・規模は不明確だが、深さは5cm程度である。内部に焼土塊や白色粘土が検出され、床下粘土上坑の可能性が考えられる。 |
| 覆土 | 暗褐色土が主体である。白色粘土塊が床面西側で検出された。 |
| 遺物 | 出土遺物は、炉及びP 2周辺に分布し、大半が床面から数cm上に位置する。土師器の壺・甕（小型・大型）、須恵器の壺がある。上師器は武藏型甕（7）、柏模様甕（11）を除き、大半は甲斐型に属する。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。 |

第4表 4号住居址出土土器分類表

| 時期 | 甲斐型土器縦年のX I～X II期（9世紀末～10世紀中頃）に比定される。 | 土師器 | | | | 須恵器 |
|-------------|---------------------------------------|--------|--------|--------|--------|-----|
| | | 甲斐型・壺類 | 甲斐型・甕類 | 柏模様・甕類 | 武藏型・甕類 | |
| 点数 | 7 | 69 | 12 | 1 | 4 | |
| 重量(g) | 52 | 1,426 | 135 | 15 | 13 | |
| 点数比率 (%) | 7.5 | 74.2 | 12.9 | 1.1 | 4.3 | |
| | 81.7 | | 12.9 | 1.1 | 4.3 | |

5号住居址（第26図、写真8・33）

| | |
|-------|---|
| 位置 | 調査区南端のJ-17区に位置し、北に隣接して3号住居址がある。 |
| 形状・規模 | 平面は方形を基調とし、北壁は2.3mを測る。カマドを持つ。主軸方位はN-55°-E。全般に削平を受け、とくに東から南側は工場基礎の搅乱や9号溝によって床面まで破壊され、遺存状況は悪い。壁高は10cmである。 |
| 床 | 貼り床は認められなかった。 |

| | |
|-------|--|
| 柱穴・周溝 | 認められなかった。 |
| カマド | 東壁の北寄りにある。工場基礎による搅乱を受け、大半を失する。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出され、火葬や袖部は遺存しなかった。火床部は床面を5cm掘り込んで構築され、中央付近でピット（深さ5cm）が検出された。 |
| 覆土 | 暗褐色土が主体である。 |
| 遺物 | 出土遺物は、カマド崩壊土及び火床面に分布する。土師器の壺・甕（小型・大型）があり、武藏型甕（3）を除き大半が甲斐型に属す。いずれも破片であった。墨書き土器「仁」（1）がある。 |

第5表 5号住居址出土土器分類表

時期 甲斐型土器編年XⅠ～XⅡ期（9世紀末～10世紀中頃）に比定される。

6号住居址（第27図～第29図、写真8・9・34）

| | |
|-------|--|
| 位置 | 調査区中央東側のE-8、F-8区に位置し、南に隣接して2号住居址がある。 |
| 形状・規模 | 平面は方形を基調とし、北壁2.0m、東壁の残存長2.5mを測る。カマドを持つ。主軸方位はN-55°-E。全般に削平を受け、床面の南半分を欠失するなど遺存状況は悪い。壁高20cmである。 |
| 床 | 貼り床は認められなかった。 |
| 柱穴・周溝 | 認められなかった。 |
| カマド | 東壁の北寄りにある。焚き口から煙道部先端まで95cm、両袖部の最大幅77cm、焚き口の幅は35cmである。火床部から煙道部にかけて急傾斜で立ち上がる。天井の一部と袖部が遺存し、自然石を主体に黄白色粘土が使われる。左袖の上間に土師器の羽釜片が伏せられていた。火床部は床面を14cm掘り込んで構築される。 |
| 覆土 | 暗褐色土が主体である。 |
| 遺物 | 出土遺物は、カマド覆土及び火床面を中心に分布する。土師器の壺・甕（小型・大型）・羽釜、灰釉陶器の甕があり、上師器は甲斐型が主体である。いずれも破片であった。 |
| 時期 | 甲斐型土器編年XⅠ～XⅡ期（9世紀末～10世紀中頃）に比定される。 |

| 器種 | 土師器 | | | | | | 須恵器 | 灰釉陶器 |
|---------|--------|--------|------|--------|--------|--------|-----|------|
| | 甲斐型・壺類 | 甲斐型・甕類 | ロクロ壺 | 相模型・甕類 | 武藏型・甕類 | 鬼高系・甕類 | | |
| 点数 | 7 | 29 | 2 | 3 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 重量(g) | 24 | 2,262 | 11 | 15 | 25 | 10 | 11 | 85 |
| 点数比率(%) | 14.0 | 58.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 2.0 | 4.0 | 6.0 |
| (%) | 72.0 | | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 2.0 | 4.0 | 6.0 |

第6表 6号住居址出土土器分類表

7号住居址（第30図～第35図、写真10・11・34・35）

- 位置** 調査区東端のC-11・12、D-11・12区に位置し、北5mに2号住居址がある。
- 形状・規模** 平面は長方形で、長軸3.5m、短軸3.0mである。カマドを持つ。主軸方位はN-46°—W。遺存状況は良い。壁高は30cmを測る。
- 床** 貼り床は認められなかった。
- 柱穴・周溝** 認められなかった。
- カマド** 北西壁の南寄りにある。焚き口から煙道部先端まで1.3m、両袖部の最大幅1.1m、焚き口の幅は40cmである。煙道部は壁を60cm掘り込んで構築され、急傾斜で立ち上がる。袖部が遺存し、黃白色粘土を主体に自然石や石皿が補強材に使われる。右袖の上面に土師器壺（墨書「上」）が伏せられていた。火床部は床面を15cm掘り込んで構築され、自然石の支脚が直立して検出された。
- 覆土** 暗褐色土が主体で、南壁寄りから床面にかけて焼土層が流入する。
- 遺物** 出土遺物は、カマド覆土とその周囲、及び南壁寄りの床面を中心に分布する。覆土の堆積状況や遺物の分布から、造物の人半が住居廃絶後に廃棄された可能性が考えられる。遺物は、土師器の壺・皿・甕（小型・大型・台付）・鉢・羽釜、須恵器の壺・甕、鍛製の刀子、炭化種子が出土した。土師器は古墳時代鬼高系の壺（1）や、武藏型甕（19～21）、相模型台付甕（22）がわずかに含まれるが、大半は甲斐型に属する。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。須恵器甕（34）は、多数の破片が南壁の庇下でまとまって検出され、さらに住居内の広範囲に拡散する状況であった。墨書き器は2点で、「上」（12）・「基」（14）がある。炭化種子は、覆土の焼土層中でコムギ、及びカマド周囲の床面でモモ核が検出された。転用品に灯明皿の小片（7）がある。

| 器種 | 土師器 | | | | | | | 須恵器 | | |
|-------------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|------|-----|-------|
| | 甲斐型・壺類 | 甲斐型・甕類 | ロクロ甕類 | 相模型・甕類 | 武藏型・甕類 | 鬼高系・壺類 | 鬼高系・甕類 | 不明細片 | 壺類 | 甕類 |
| 点数 | 123 | 100 | 1 | 15 | 18 | 1 | 17 | 12 | 10 | 11 |
| 重量(g) | 519 | 1,305 | 39 | 94 | 280 | 9 | 250 | 31 | 93 | 3,270 |
| 点数比率 (%) | 39.9 | 32.5 | 0.3 | 4.9 | 5.8 | 0.3 | 5.5 | 3.9 | 3.3 | 3.6 |
| | 72.4 | | 0.3 | 4.9 | 5.8 | 5.8 | | 3.9 | 6.9 | |

第7表 7号住居址出土土器分類表

時期 甲斐型土器編年のXⅠ～XⅡ期（9世紀末～10世紀中頃）に比定される。

8号住居址（第36図～第41図、写真12～15・35・36）

- 位置** 調査区西端のK-7・8、L-7・8区に位置し、北東2.5mに1号住居址がある。
- 形状・規模** 平面は不整長方形で、長軸4.5m、短軸4.0mである。カマドを持つ。主軸方位はN-45°—E。全般に工場基礎の搅乱を受け、南から西側は床面まで破壊されている。壁高は50cmである。
- 床** 貼り床は認められなかった。
- 柱穴・周溝** 柱穴4基（P1～P4）が住居内の対角線上に検出された。床面からの深さは、P4が10cm、他は35cm～40cmである。周溝は西壁沿いで検出されたが、南側が搅乱を受けて欠失している。幅10cm～18cm、深さ5cmである。
- カマド** 東壁の中央にある。煙道の一部を搅乱によって欠失する。焚き口から煙道部先端まで1.1m、両袖部の最大幅1.2m、焚き口の幅は50cmである。火床部から急傾斜で立ち上がり、先端に石組み

の短い煙道が付く。袖部が遺存し、自然石を主体に黄白色粘土が使われる。袖部前面には、両袖に架け渡した天井石が火床面に落ち込んだ状況で検出され、天井石を取り巻くように土師器甕の破片がまとまって出土した。

覆土 焼土粒・炭粒を多く含む暗褐色土が厚く堆積し、床面は焼上や炭化物層で覆われていた。このことから本遺構は焼失住居で、短期間に埋め戻されたことが想定される。

炭化材 多数の炭化材が壁際から住居中心に向かう方向で検出され、住居中央付近に炭化材の破片（1cm～10cm大）が多量に検出された。炭化材の断面は柱状、ないしは馬蹄状を呈するものが多く、垂木等の建築材と考えられる。また、住居西壁の中央付近では、壁際から床面にかけて板状の炭化材が検出され、壁板等の建築材と考えられる（付篇参照）。

遺物 出土遺物の大半は、カマドとその周囲の床面に分布する。土師器の小型甕・小型球胴甕・長胴甕・胴張甕・小壺、須恵器の甕があるが、壺類は皆無である。土師器は武藏型甕（2）を除き、大半は相模型に属する。遺存状況の良い上器が多く、甕（1・2）はカマド右側の床面に並置状況で、胴張甕（7）は床面につぶれた状況でそれぞれ検出された。このうち小型球胴甕（2）は破損後の胴下部を鉢に転用している。小壺（9）は光形で、壁際の覆土上層で検出された。須恵器の甕（8）は内面が研磨され、転用碗の可能性がある。

| 器種 | 土師器 | | | | | 須恵器 | |
|-------|--------|--------|------|--------|--------|-----|---|
| | 相模型・甕類 | 相模型？甕類 | ロクロ臺 | 武藏型・甕類 | 異系統・甕類 | 甕類 | 手 |
| 点数 | 77 | 8 | 1 | 1 | 4 | 1 | |
| 重量(g) | 6,229 | 215 | 125 | 340 | 72 | 30 | |
| 頻度率 | 83.7 | 8.7 | 1.1 | 1.1 | 4.3 | 1.1 | |
| (%) | 92.4 | | 1.1 | 1.1 | 4.3 | 1.1 | |

相模型？甕類…厚手。外面ナデ、内面ハケ目

第8表 8号住居址出土土器分類表

時期 1号住居と同じく宮久保編年IV期～V期に対比されると思われるが、小型甕は底径が9.8cmで大きく、古い様相も認められる。本住居の時期は、8世紀中葉から後半代に推定しておきたい。

9号住居址（第42図～第44図、写真16）

位置 調査区南端のK-17・18、L-17・18区に位置する。

形状・規模 平面は不整台形で、東壁2.6m・西壁3.4m・南壁2.7m・北壁1.6mである。カマド2基を持つ。東カマドと対角の軸方位はN-43°-E、北カマドと対角の軸方位はN-35°-Wである。全般に工場基礎の搅乱を受け、7号・8号溝や16号上坑によって床面まで切られているため遺存状況は悪い。壁は最高40cmである。

床 焼上粒や白色粘土粒を含む貼り床が施される。

柱穴・周溝 認められなかった。

カマド 北東隅と北西隅の2ヶ所にある。東カマドは、煙道の一部を7号溝で切られている。火井や袖部は遺存せず、粘土が火床面を覆う状況であった。壁を掘り込んで構築され、火床部は堅穴外に位置する。火床部は床面を18cm掘り込んで構築される。北カマドは、天井と袖部の大半は遺存せず、粘土が火床面を覆う状況であった。左袖は一部遺存し、黄白色粘土を主体に自然石が補強材に使

われる。壁を掘り込んで構築され、火床部から煙道部まで急傾斜で立ち上がる。火床部は床面を10cm掘り込んで構築され、自然石の支脚が直立して検出された。

櫻土 遺物 暗褐色土が主体で、焼上粒・白色粘土粒を多く含む褐色土が床面の西側を薄く覆う。

出土遺物の大半は、カマドとその周囲に分布する。土師器の壺・鉢・羽釜・須恵器の壺・甕があり、土師器の大半は甲斐型に属す。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。

| 器種 | 土師器 | | | | 壺類 | 甕類 | 変類 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|-----|-----|-----|
| | 甲斐型・壺類 | 甲斐型・甕類 | 相模型・甕類 | 異系統・甕類 | | | |
| 点数 | 1 | 48 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 重量(g) | 1 | 722 | 1 | 25 | 1 | 50 | 8 |
| 点数比率 (%) | 1.8 | 85.7 | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 5.3 | 1.8 |
| | 87.5 | | 1.8 | 1.8 | 7.1 | | 1.8 |

第9表 9号住居址出土土器分類表

時期 出土遺物が少なく不明確だが、本集落の中心時期である9世紀代～10世紀前半に推定される。

10号住居址（第45図～第46図、写真17・36）

位置 調査区北東端のD-1区に位置する。

形状・規模 平面は不整長方形で、東壁2.5m・西壁2.1m・南壁3.1m・北壁3.6mである。カマドを持つ。主軸方位はN-39°-E。全般に工場基礎の搅乱を受け、遺存状況は悪い。壁は最高10cm。

床 全般に堅く縮まっている。貼り床は認められなかった。掘り方は、住居西側の壁沿いに溝状の掘り込みが検出された。

柱穴・周溝 認められなかった。

カマド 北壁の中央部にある。大半が工場基礎の搅乱で破壊され、煙道先端部が遺存するのみである。

櫻土 暗褐色土が主体である。

遺物 出土遺物はカマドの周間に分布し、床面及び床面から数cm上に位置する。土師器の壺・長胴甕・胴張甕がある。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。

時期 出土遺物から7世紀代に推定される。

| 器種 | 土師器 | | |
|-------------|--------|--------|-------|
| | 鬼高系・壺類 | 鬼高系・甕類 | 甲斐型・壺 |
| 点数 | 3 | 8 | 1 |
| 重量(g) | 135 | 825 | 7 |
| 点数比率 (%) | 25.0 | 66.7 | 8.3 |
| | 91.7 | | 8.3 |

第10表 10号住居址出土土器分類表

11号住居址（第47図～第49図、写真18・36）

位置 調査区北側のI-2区に位置し、周囲2mの範囲内に12号・13号住居址がある。

形状・規模 平面は不整長方形で、長軸3.2m・短軸2.7mである。カマドを持つ。T場基礎の搅乱により壁の一部が破壊されるが、遺存状況は比較的良い。主軸はほぼ南北にそろう。壁高は90cmである。

床 南半分にハードローム塊を含む貼り床が施される。掘り方は住居南半部で検出された。

柱穴・周溝 認められなかった。

カマド 北壁の東寄りにある。焚き口から煙道部先端まで1.0m、両袖部の最大幅0.8m、焚き口の幅は

40cmである。奥壁の右上端に石組みの短い煙道部が付く。袖部は自然石を主体に黄白色粘土が使われる。火床部は床面を15cm掘り込んで構築され、自然石の支脚が直立して検出された。

覆土 暗褐色土が主体で、壁際に褐色土が流入する。炭化物を多く含む層が床面を10cm程度の厚さで覆っており、この層から炭化種子（アワ・ヒエ）が多数検出された。

遺物 出土遺物の大半は、覆土上層から下層にかけて散漫に分布する。遺物は土師器の壺・甕・小壺、須恵器の壺、炭化種子がある。十輪器の壺はすべて甲型に属するが、甕は甲型・相模型に分けられる。土師器の壺（1）は完形に近く、カマド前の床面で出土した。他はすべて破片で、完形に復元できたものはなかった。

| 器種 | 土師器 | | | | | | 土師器 | | 須恵器 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|
| | 甲型壺 | 甲型甕 | 相模型甕 | 武藏型甕 | 鬼瓦系甕 | 異系統甕 | 不明織片 | 壺 | 甕類 |
| 点数 | 11 | 17 | 74 | 7 | 3 | 12 | 24 | 1 | 4 |
| 重量(g) | 112 | 137 | 532 | 50 | 33 | 92 | 110 | 4 | 20 |
| 点数率(%) | 7.2 | 11.1 | 48.4 | 4.6 | 2.0 | 7.8 | 15.7 | 0.6 | 2.6 |
| (%) | 18.8 | | 48.4 | 4.6 | 2.0 | 7.8 | 15.7 | 0.6 | 2.6 |

異系統甕等…厚手、外面ハケ目十巻き、内面ハケ目

第11表 11号住居址出土土器分類表

時期 甲型土器編年の中III期（9世紀前半）に比定される。

12号住居址（第50図～第52図、写真19・37）

位置 調査区北側のG-2、H-2区に位置し、西2mに11号住居址がある。

形状・規模 平面は不整形で、一辺3.7mである。カマドを持つ。主軸方位はN-60°—W。工場基礎の搅乱により床面の中央部が破壊されるなど、遺存状況は比較的悪い。壁高は60cmである。

床 全般にローム塊を含む貼り床が施され、堅く締まっている。掘り方は、南北壁に沿って溝状、及びピット状に掘り込まれていた。

柱穴・周溝 認められなかった。

カマド 西壁の南寄りにある。カマド崩廃土が床面を覆う状況で検出され、天井や袖部は遺存しなかった。煙道部は搅乱により失われているが、火床部から急傾斜で立ち上がっていたものと推定される。火床部は床面を10cm掘り込んで構築され、土師器の細片がまとまって出土した。

炉 北壁寄りの床面に1基検出された。平面不整形で、直径約40cmである。貼り床を掘り込んで構築され、床面からの深さは18cmである。内部に焼土層が堆積し、底面は被熱している。

覆土 暗褐色土が厚く堆積し、壁際から床面に褐色土が流入する。このことから、住居廃絶から一定期間後、短期間に埋め戻されたことが想定される。

遺物 出土遺物は、カマド火床部、及び覆土上層から下層にかけて散漫に分布していた。床面上では、カマド周間に自然石（10cm～20cm）8点が散在し、炉付近に土師器の細片2点があったのみである。遺物は土師器の壺・壺蓋・甕・鉢・羽釜・小壺、須恵器の壺・甕がある。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。土師器の壺類はすべて甲型に属するが、甕類は相模型（15～18）を主体に甲型（19・20）が若干数含まれる。墨書き土器は1点確認された（3）。

| 器種 | 土師器 | | | | | | | 須恵器 | | 陶器 |
|-------------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|------|-----|-----|-----|
| | 甲型・坏類 | 甲型・壺類 | 相模型・壺類 | 武藏型・壺類 | 鬼高系・坏類 | 鬼高系・壺類 | 不明細片 | 坏類 | 壺類 | |
| 点数 | 34 | 6 | 94 | 2 | 1 | 3 | 21 | 6 | 1 | 1 |
| 重量(g) | 237 | 175 | 627 | 29 | 12 | 40 | 100 | 190 | 10 | 10 |
| 点数比率 (%) | 20.1 | 3.6 | 55.6 | 1.2 | 0.6 | 1.7 | 12.4 | 3.6 | 0.6 | 0.6 |
| | 23.7 | | 55.6 | 1.2 | 2.3 | | 12.4 | 4.2 | | 0.6 |

第12表 12号住居址出土土器分類表

時期 甲型土器編年のVII期～XII期(9世紀初頭～10世紀代)までの遺物が混在するが、土師器坏からVIII期(9世紀前半)が主体であろう。

13号住居址(第53図～第58図、写真19・20・37)

位置 調査区北側のI-3、4区に位置し、北1.5mに11号住居址がある。

形状・規模 平面は方形を基調とし、一边3.5mである。南側は未調査となっている。カマドを持つ。主軸方位はN-52°-E。工場基礎の搅乱により壁の一部が破壊され、北壁を20号土坑で切られているが、遺存状況は比較的良好。壁高は60cmである。

床 貼り床は認められなかった。

柱穴・周溝 認められなかった。

カマド 東壁の南寄りにある。カマド崩壊土が床面を覆う状況で検出され、天井部は遺存しなかった。焚き口から煙道部先端まで1.0m、両袖部の最大幅1.2mである。火床部から煙道部にかけて急傾斜で立ち上がり、先端に短い煙道が付く。袖部は黄白色粘土を主体に自然石が補強材に使われる。火床部は床面を15cm掘り込んで構築している。

覆土 暗褐色土が主体である。

遺物 出上遺物は、カマド崩壊土と火床部、及び覆土下層から床面にかけて分布していた。遺物は上師器の坏・壺(小型・大型)・鉢、須恵器の坏・壺、灰釉陶器の高台坏がある。いずれも破片で、完形に復元できたものはなかった。土師器の坏はすべて甲型に属するが、壺類は甲型を主体に相模型(34～36)が若干数含まれる。

| 器種 | 土師器 | | | | | 須恵器 | | 灰釉陶器 | |
|-------------|-------|-------|--------|--------|------|-----|-----|------|--|
| | 甲型・坏類 | 甲型・壺類 | 相模型・壺類 | 武藏型・壺類 | 不明細片 | 坏類 | 壺類 | 破 | |
| 点数 | 43 | 145 | 39 | 7 | 7 | 17 | 2 | 1 | |
| 重量(g) | 181 | 2,825 | 239 | 41 | 65 | 129 | 24 | 68 | |
| 点数比率 (%) | 16.5 | 55.6 | 14.9 | 2.7 | 2.7 | 6.5 | 0.8 | 0.3 | |
| | 72.1 | | 14.9 | 2.7 | 2.7 | 7.3 | | 0.3 | |

第13表 13号住居址出土土器分類表

時期 甲型土器編年のXI～XII期(9世紀末～10世紀中頃)に比定される。

第2節 堀立柱建物址

堀立柱建物址2棟が発見された。それぞれ隣接する竪穴住居との併存関係が考えられる。

1号堀立柱建物址（第59図、写真20・21）

| | |
|-------|--|
| 位置 | 調査区中央付近のG-10・11、H-10・11区に位置し、北東7mに2号住居址がある。5号溝と重複し、南東側は工場基礎の搅乱を受ける。 |
| 形状・規模 | 2間×3間の側柱式建物で、規模は5m四方である。主軸方位はN-55°—E。柱間は2.0m～2.4mであるが、北西側、及び南東側の中央間が1.0mと狭く、P4・P5間は幅約50cmの溝でつながっている。柱穴の平面は不整円形と方形の2種類があり、長軸50cm～75cm、深さは35cm～55cmである。P2は重複が見られる。P11は規模や覆土が類似するため本遺構に加えた。 |
| 覆土 | 柱痕跡は認められなかった。 |
| 遺物 | P3の覆土上層より中壺型壺の小片1点、炭化種子（モモ核）3点が出土した。 |
| 時期 | 位置関係や形状・規模等から2号住居と同時期、あるいは近い時期に想定される。 |

2号堀立柱建物址（第60図、写真21）

| | |
|-------|---|
| 位置 | 調査区北端のI-1・2区に位置し、南に隣接して11号住居址、南東5mに12号住居址がある。工場基礎の搅乱を受け、柱穴の一部を欠く。 |
| 形状・規模 | 2間×2間の側柱式建物で、規模は3.6m四方と推定される。主軸方位はN-60°—W。柱間は1.8mである。柱穴の平面は不整円形で、長軸50cm～75cm、深さは30cm～40cmである。 |
| 覆土 | 柱痕跡は認められなかった。 |
| 遺物 | P3の覆土中から土師器壺の小片2点、P4の覆土中から土師器の微細な破片1点が出土した。 |
| 時期 | 位置関係や形状・規模等から12号住居と同時期、あるいは近い時期に想定される。 |

第3節 柱穴列

規模・形態等が類似するピットが一列に並ぶものを柱穴列としたが、堀立柱建物址の可能性もある。

1号柱穴列（第61図～第62図、写真22・23）

| | |
|-------|--|
| 位置 | 調査区中央東側のC-9・10、D-10区に位置し、東端の柱穴（P1）は一部調査区外にかかる。P6は2号住居址（新段階）を切って構築されている。 |
| 形状・規模 | L字状に柱穴が配置され、北東から南西に2間（5.6m）、南東から北西に3間（6m）である。北東から南西の軸方位はN-42°—E、南東から北西の軸方位はN-50°—Wである。柱間は2.0m～3.0mだが、P4・P5間は1.0mと狭く、幅70cmの溝でつながっている。柱穴の平面は不整円形と方形の2種類があり、長軸0.9m～1.5m、深さは0.5m～0.9mである。P1・P3は柱穴列の軸に対し斜めに配置される。なお、南隅P3の対角線上に位置する4号土坑がピット状を呈するため、全体で堀立柱建物址となる可能性もある。 |
| 覆土 | P1、P2で柱痕跡が認められた。また、P4・P5の覆土中から溝底面にかけての同一レベルで |

| | |
|----|--|
| | 硬化面が認められた。 |
| 遺物 | P3 の覆土より土師器甕の小片 3 点が出土した。P4・P5 と溝は発掘調査時に 1 基の土坑として扱っていたが、これらの覆土より甲変型甕の小片 4 点、須恵器甕の小片 1 点が出土した。 |
| 時期 | 2 号住居址（新段階）を切っていることから、平安時代以降に推定される。 |

第 4 節 ピット

53 基を検出した（第 63 図～第 66 図、写真 23・24）。

広範囲に分布し、規模から大小 2 種類に分類できる。小型ピットは平面円形・楕円形を呈し、長軸 20cm～30cm を中心に最大 40cm、深さは 15cm～30cm を中心に最深 40cm を測る。大型ピットは平面円形・楕円形・不整形形を呈し、長軸 50cm 前後を中心最大 60cm、深さは 35cm～65cm を測る。2 種類のピットは混在して分布し、柱穴列の可能性があるものも含まれる。切り合い関係は、P14 が 6 号住居址、P16 が 2 号住居址（新段階）、P17、P50～P52 が 4 号住居址をそれぞれ切っている。この他、前後関係は不明だが、P20 が 1 号柱穴列、P11 が 1 号土坑と重複する。出土遺物は、P36 で 1 号住居址と接合関係を持つ土師器片が出土したのみである。時期は不明確だが、住居と近い時期か以降に推定される。

第 5 節 土坑

20 基を検出した。広範囲に分布する。平面形態は円形、方形、長椭円形の 3 種類に区分できる。出土遺物は土師器の小片が大半で、状況から周囲の流れ込みが多いものと思われる。時期は不明確だが、出土遺物や覆土の状況、及び住居や溝状遺構との切り合い関係から、平安時代以降に推定される。

1号土坑（第 67 図、写真 25）

| | |
|-------|----------------------------------|
| 位置 | D-6 区に位置し、11 号ピットと重複するが、新旧関係は不明。 |
| 形状・規模 | 平面円形で、径 75cm・深さ 16cm。 |
| 覆土 | 暗褐色土の单層。 |

遺物 覆土中から土師器甕の小片 4 点（古墳時代の鬼高系、平安時代の甲変型を含む。）が出土した。

2号土坑（第 67 図、写真 25）

| | |
|-------|------------------------|
| 位置 | D-7 区。 |
| 形状・規模 | 平面円形で、径 100cm・深さ 8 cm。 |
| 覆土 | 暗褐色土の单層。 |

遺物 覆土中から土師器 6 点、灰陶器 2 点が出土した。いずれも小片。

3号土坑（第 67 図）

| | |
|-------|--|
| 位置 | D-7、E-7 区。 |
| 形状・規模 | 平面方形と思われるが、南半分が工場基礎の搅乱を受けている。北東壁の長さ約 90cm・深さ 20cm。 |

- 覆土 暗褐色土の單層。
- 遺物 覆土中から土師器小型壺（甲斐型）の破片2点が出土した。
- 4号土坑**（第67図、写真26）
- 位置 D-9区。
- 形状・規模 平面円形で、径90cm・深さ35cm。北側がピット状に深くなっている。
- 覆土 暗褐色土が主体で、壁際は褐色土が塊状に混じる。
- 遺物 覆土中から上師器壺1点（甲斐型）・壺3点（古墳時代の鬼高系）が出土した。いずれも小片。
- 5号土坑**（第67図、写真26）
- 位置 D-10区。
- 形状・規模 平面円形で、径100cm・深さ5cm。
- 覆土 暗褐色土の單層。
- 遺物 底面で自然石1点（90g）が出土した。
- 6号土坑**（第67図、写真27）
- 位置 C-10区。
- 形状・規模 平面円形で、径85cm・深さ20cm。
- 覆土 暗褐色土の單層。
- 遺物 覆土上層の壁際から上師器壺の小片2点が出土した。
- 7号土坑**（第67図、写真27）
- 位置 D-11区。
- 形状・規模 平面は不整円形で、長軸88cm・短軸80cm・深さ40cm。
- 覆土 暗褐色土の單層。
- 遺物 覆土中から土師器壺3点（甲斐型）・壺7点（甲斐型3・相模型4）、自然石1点（15g）が出土。いずれも小片である。
- 8号土坑**（第67図）
- 位置 D-10区。
- 形状・規模 平面が長方形と思われるが、北東側が試掘溝で切られている。北西壁の残存長110cm・深さ5cm。
- 覆土 暗褐色土の單層。
- 遺物 覆土中から上師器壺の小片1点（甲斐型）が出土した。
- 9号土坑**（第67図）
- 位置 E-8区。
- 形状・規模 平面は不整橢円形で、北側を1号溝で切られる。長軸は推定約100cm・短軸88cm・深さ60cm。
- 覆土 暗褐色土が主体で、褐色土粒・塊を多く含む。
- 遺物 覆土中から土師器壺の小片2点が出土した。

10号土坑（第67図）

位置 G-9区。

形状・規模 平面は円形と思われるが、東側を3号溝で切られている。南北120cm、深さ20cm。

覆土 暗褐色土が主体で、炭粒や白色粘土粒が混じる。

遺物 覆土中から土師器壺の小片3点（甲斐型2点、相模型1点）が出土した。

11号土坑（第67図、写真28）

位置 E-11区。

形状・規模 平面は長楕円形で、隅丸方形の土坑にテラス状の張り出し部が付く。長軸1.85m・短軸1.0m、深さ30cm。

覆土 暗褐色土が主体である。

遺物 覆土上・上層の壁際を中心に、土師器壺3点（甲斐型2）、壺4点（すべて甲斐型）の小片、焼成粘土塊1点、一部が黒く焼けた自然石1点（285g）が出土した。

12号土坑（第67図、写真28）

位置 E-10、11区。

形状・規模 形状は11号土坑に類似する。長軸1.55m・短軸1.0m、深さ20cm。

覆土 暗褐色土が主体である。

遺物 覆土上層の壁際を中心に、土師器壺1点（甲斐型）、壺6点（甲斐型5・鬼高系1）の小片。

13号土坑（第68図、写真28）

位置 I-11区。

形状・規模 平面は長方形で、長軸1.5m・短軸0.55m～0.8m、深さ25cm。

覆土 暗褐色土が主体で、下層に褐色土が多く混じる。

遺物 覆土中から、土師器壺1点（甲斐型）、壺1点の小片が出土した。

14号土坑（第68図、写真28）

位置 K-7区。

形状・規模 平面は台形状で、長軸1.3m・短軸1.0m、深さ8cm。

覆土 暗褐色土の単層、炭粒・焼土粒を多く含む。

遺物 覆土の壁際で、土師器壺1点（甲斐型）の小片が出土した。

15号土坑（第68図、写真28）

位置 J-6区。

形状・規模 平面楕円形で、長軸76cm・短軸70cm、深さ10cm。

覆土 暗褐色土の単層。

遺物 なし。

16号土坑（第68図）

位置 K・L-17区。9号住居址を切って構築されている。
形状・規模 平面は長方形で、長軸1.35m・短軸0.5m～0.6m、深さ50cm。
覆土 暗褐色土が主体で、焼土粒・白色粘土粒が混じる。
遺物 覆土上層の壁際から土師器壺8点（丸高系）、最下層の壁際から須恵器壺1点の破片が出土した。

17号土坑（第68図）

位置 II-16区。北東側が調査区外にかかる。
形状・規模 平面は長方形、あるいは溝状と思われ、北壁の残存長1.1m・西壁0.68m、深さ5cm。
覆土 暗褐色土の単層。
遺物 なし。

18号土坑（第68図）

位置 D-10区。
形状・規模 平面は台形状と思われるが、全般に壁が削平され、西側が試掘溝で切られるなど遺存状況は悪い。
長軸1.3m・短軸1.0m～1.2m、深さ5cm以下。
覆土 暗褐色土の単層。
遺物 覆土中から土師器壺2点（甲斐型1）・壺3点（甲斐型2）・破損した自然石1点（995g）、底面で
須恵器の壺片1点が出土した。

19号土坑（第68図）

位置 H-3区。
形状・規模 平面は長方形で、長軸1.28m・短軸0.75m～0.85m、深さ25cm。
覆土 暗褐色土が主体である。
遺物 覆土中から土師器壺1点（甲斐型で内面に暗文）、壺4点（相模型を含む）の小片が出土した。

20号土坑（第68図、写真28）

位置 I・J-4区。
形状・規模 平面は不整円形で、直径約1.5m、深さ38cm。南東側を13号住居址と重複する。
覆土 暗褐色土が主体で、下層から壁際には褐色土が堆積する。
遺物 覆土中から土師器壺4点（甲斐型、相模型を含む）の破片・小片が出土した。

第6節 溝状遺構

10条を検出し、概ね北東から南西方向に軸が揃っている。主な分布域は2号住居周辺と調査区南端の2ヶ所に分けられる。2号住居周辺では5条が散在し、全長は2.3m～6.0mまで様々である。長軸方向の両端の壁が斜めに立ち上がるのに対し、短軸方向の断面形は袋状を呈する特徴がある。一方、調査区南端では4条が集中して検出され、9.5mが最長である。壁は垂直気味に立ち上がるが、7号溝の北東端の壁は斜めに立ち上がる。

覆土は、基本上層第II層に由來する暗褐色土に褐色土粒・塊を含み、流水の痕跡は認められなかった。出土遺物は土師器・須恵器・陶磁器・縄文土器・自然石（小石～拳大）などがあり、状況から周囲の流れ込みと思われる。時期は不明確だが、遺構との切り合い関係から、大半が平安時代の住居より新しいものと想定される。

1号溝（第69図）

- 位置 D-7、E-7、E-8区。
形状・規模 全長 3.6m、幅 0.8m～1.0m、深さ 40cm。長軸方向 N-36°—E。北東端は工場基礎の搅乱を受け、南西端は9号土坑を切っている。短軸方向の断面形は箱型を呈するが、壁の一部はオーバーハング気味に立ち上がる。
覆土 暗褐色土（粘性やや強く、縮まり弱い）が主体となる。
遺物 覆土中から上師器壺5点・甕28点（甲斐型を主体に相模型・鬼高系が混じる）、焼成粘土塊2点、自然石15点（総重量 450g・破損率 40%、2点は被熱により赤化）が出土した。

2号溝（第69図、写真29）

- 位置 E・F-10区。
形状・規模 全長 6.0m、幅 0.7m、深さ 50cm。長軸方向 N-51°—E。短軸方向の断面形は袋状を呈し、長軸方向の両端の壁は斜めに立ち上がる。
覆土 暗褐色土の单層（粘性やや強く、縮まり弱い）で、炭粒・焼土粒を多く含む。
遺物 覆土中から土師器壺20点・甕57点（甲斐型を主体に相模型・鬼高系が混じる）、須恵器壺4点・甕2点、縄文土器2点、自然石53点（総重量 2250g・破損率 21%、2点は被熱により赤化や煤け）が出土した。

3号溝（第69図、写真29）

- 位置 G-8・9区。
形状・規模 全長 3.3m、幅 0.6m～0.7m、深さ 75cm。長軸方向 N-16°—E。10号土坑を切っている。短軸方向の断面形は袋状を呈し、長軸方向の両端の壁は斜めに立ち上がる。
覆土 暗褐色土（粘性やや強く、縮まり弱い）を主体に4層に分けられる。
遺物 覆土中から土師器甕15点（甲斐型・鬼高系）、須恵器壺4点・甕2点、自然石24点（総重量 505g・破損率 50%、1点は被熱により赤化や煤け）が出土した。

4号溝（第69図）

- 位置 H-10区。
形状・規模 全長 2.5m、幅 0.6m、深さ 8cm。長軸方向 N-60°—E。
覆土 暗褐色土（粘性やや強く、縮まり弱い）。
遺物 覆土中から土師器の小片4点（甲斐型・相模型）が出土した。

5号溝（第69図、写真29）

- 位置 II-10・11区。
形状・規模 全長 3.6m、幅 0.6m～0.7m、深さ 30cm。長軸方向 N-46°—E。短軸方向の断面形は袋状を呈

し、長軸方向の両端の壁は斜めに立ち上がる。

覆土 暗褐色土（粘性や強く、締まり弱い）を主体とする。

遺物 覆土中から土師器壊3点・甕7点（甲斐型を主体に相模型が混じる）、自然石4点（総重量170g・すべて破損）が出土した。

6号溝（第70図）

位置 K-16・17区。南西側が工場基礎の搅乱で失われている。

形状・規模 現存長4.3m、幅0.4m～0.6m、深さ35cm。長軸方向N-50°—E。断面形は箱型。

覆土 暗褐色土（粘性、締まり弱い）の単層。

遺物 覆土中から上師器甕8点（甲斐型・鬼高系）、須恵器壊2点、自然石3点（総重量20g・すべて破損）が出土した。

7号溝（第70図、写真29）

位置 J-16・17、K-17区。3号住居・9号住居を切る。

形状・規模 全長9.5m、幅0.5m～0.65m、深さ58cm。長軸方向N-47°—E。断面形は箱型。

覆土 暗褐色土（粘性、締まり弱い）の単層。

遺物 覆土中から土師器壊2点・甕2点（甲斐型が主体）、須恵器壊1点、灰釉陶器壊1点、陶器擂鉢2点、自然石2点（総重量20g・すべて破損）が出土した。いずれも小片である。

8号溝（第70図、写真29）

位置 J・K-17、K・L-18区。7号溝に近接し、南西端は調査区外にかかる。9号住居を切る。

形状・規模 現存長8.8m、幅0.5m～0.55m、深さ45cm。長軸方向N-53°—E。断面形は箱型。

覆土 暗褐色土（粘性、締まり弱い）を主体とする。

遺物 覆土中から上師器甕10点（甲斐型などが混在）、磁器壊2点、自然石31点（総重量715g・破損率58%）が出土した。

9号溝（第70図）

位置 J-17、J・K-18区。南西端は調査区外にかかる。北東側は工場基礎の搅乱を受け、失われている。5号住居を切る。

形状・規模 現存長4.0m、幅0.55m、深さ18cm。長軸方向N-48°—E。

覆土 暗褐色土（粘性、締まり弱い）の単層。

遺物 なし。

10号溝（第69図）

位置 J・K-6区。

形状・規模 全長2.4m、幅0.65m、深さ15cm。長軸方向N-50°—W。

覆土 暗褐色土（粘性弱く、締まり強い）の単層。

遺物 覆土中から縄文土器2点、打製石斧1点（165g・破損）が出土した。

第IV章 まとめ

第1節 遺物

(1) 出土土器について

住居址の出土土器から概ね4時期に区分し、これをもとに編年的な位置付けを考えてみたい。

第1期

10号住居址。上師器壺・長胴甕・胴張甕、甕の下半部を鉢に転用したものがある。調整にヘラ削りが多用される。7世紀代に比定。

第2期

1号、8号住居址。土師器小型甕・小型球胴甕・長胴甕・胴張甕が出土し、壺類を伴わない。8号住居では土師器小型短頸壺、須恵器甕（転用硯）も出土している。上師器甕類の大半は内外面をナデ仕上げした相模型で占められる。長胴甕は宮久保編年（長谷川1990）のC3類に相当すると思われる。小形甕はC2類～C4類の範囲で捉えることができるが、8号住居址の小型甕（第40図1）は底径が9.8cmと大きく、より古い様相も認められる。現段階では時期区分を宮久保編年IV期～V期に対比する。8号住居址の小型球胴甕（第40図2）は横・斜めのヘラ削りが多用された薄手の作りで、いわゆる武藏型である。鉢に転用されている。小型短頸壺（第41図9）はロクロ成形で、底部に回転糸切り痕を残す。精選された胎土や焼成の良さは甲斐型壺に類似する。

第2期の年代は8世紀中葉から8世紀後半代に推定しておきたい。

第3期

11号、12号住居址。土師器壺・壺蓋・小形甕・甕・鉢・羽釜、須恵質土師器の小型短頸壺、須恵器壺・甕が出土した。土師器壺類はすべて甲斐型に属す。11号住居床面出土の壺（第49図1）は口径10.0cm、器高4.2cm、底径5.3cmで、他の遺存状況の良い壺も同様の数値を示す。ロクロ成形で、器面調整は体部内面に放射状暗文、底部外周から体部下半をヘラ削りすることから、甲斐型十器編年VII期に相当する。なお、ヘラ削りには体部下半を斜めに削るものと、底部との境を横方向に不規則に削るものとがある。上師器甕類は甲斐型・相模型・武藏型が見られるが、量的に相模型が主体を占めている。相模型甕は内外面ナデ調整を基本とし、内面に細かなハケ目が残るものもある。甲斐型甕のうち11号住居床面出土の小型甕（第49図6）は口径16.8cmと推定され、口縁部は薄く作られる。他の口縁肥厚の鉢や羽釜は混入の可能性が高い。小型短頸壺（第49図11、第52図14）は小片で、焼成は不良である。須恵器壺は推定口径12.3cmと15.7cmがあるが、いずれも覆土中の出土で混入の可能性が高い（第52図10、11）。墨書き土器は1点（第52図3）だが、判読不能である。

第3期の年代は9世紀前半代と推定される。

第4期

2号（新・旧）、4号～7号、13号住居址。この他、3号、9号住居址も本期に該当する可能性がある。土師器壺・皿・小形甕・甕・鉢・羽釜、須恵器壺・甕・壺、灰釉陶器高台碗・甕・壺が出土した。土師器壺類・甕類共に甲斐型が圧倒的に多数を占める。壺はロクロ成形で、器面調整は底部から体部下半をヘラ削りし、口縁部は肥厚する。口径は概ね12cm～15cmの範囲に収まるが、13cm前後のものが多い。このことから甲斐型土器編年XⅠ期～XⅡ期に比定できる。皿は底部の回転糸切り痕の一部が未調整のまま残るものが多い。口径は概ね12cm～13cmの範囲に収まる。甕は肥厚口縁で、内外面にハケ目調整が残る。2号住居（IH）の床面資料である須恵器壺（第18図23）は口径13.3cm、器高4.2cm、底径5.0cmで、底部に回転糸切り痕を残す。南多

摩挲G 5 窯式に比定できる。墨書き器は多く、判読できたもので「作」・「基」(2号新)、「本」・「丈」(2号旧)、「仁」(5号)、「上」・「基」(7号)がある。

第4期の年代は9世紀末~10世紀中頃と推定される。

以上、7世紀~10世紀中頃までの土器変遷を確認したが、8世紀前半代と9世紀後半代は資料が乏しく様相が不明確である。上師器の変遷を見ると、坏類は第2期の様相が不明だが、第3期から第4期に甲斐型が主流を占めた。柑模型坏は各期を通じ破片1点のみであった。これに対し、壺類は第2期で柑模型が主流を占め、その傾向は第3期まで続くが第4期には甲斐型で占められる。武藏型壺は各期を通じ数が少なく客体的存在である。このように、第2期から第4期(8世紀後半代~10世紀中頃)にかけて柑模型土器から甲斐型土器への転換が見られ、甲斐型坏が壺に先行して主流を占める第3期(9世紀前半代)が転換の巔期と捉えられる。

(2) 銅製鉄具について

8号住居址の床面から1点出土した。帶金具のバックル部分に当たるが、単体での出土で他に関連する遺物はないため銘帯、馬装のいずれに伴うのかは不明である。同種の遺物は山梨県東部地城(古代甲斐国都留郡)で初めての出土である。刺金が横軸と一体となってT字形になる形態であるが、このような銅製鉄具は山梨県外の各地で確認され、いずれも同形同大であることや、大半が集落跡や建物群から単体で出土していることが指摘されている⁽¹⁾。鉄具の時期については、製品として本来の機能を有した時期から住居内に遺棄あるいは遺失された時点に時間差が想定されることから、8号住居址の出土土器で想定した8世紀後半代よりさかのぼる可能性もある。

上野原市域では古墳時代から奈良・平安時代の遺跡が多く確認されている。とくに上野原台地とその近隣では、塚場の古墳群や、古墳時代の鉄製直刀3点の出土例が報告されている他⁽²⁾、狐原遺跡で古墳時代前期から後期にかけての集落址が発見されるなど、古墳時代に一定の權力基盤が存在していたことを想定させる。一方、上野原市を含めた山梨県東部地城は古代の行政区画で甲斐国都留郡に属し、桂川沿いに複数の郷が点在していたことが知られている。人間々遺跡の所在する上野原台地は古郡郷の比定地とされ、その郷名は都留郡衙の移転に伴う初期郡衙の遺称と考えられているが、これを立証する考古学的知見は得られていない。

このように古墳時代から律令期にかけて、大間々遺跡周辺は桂川流域で重要な拠点地域だったことが考えられる。銅製鉄具の発見は、在地首長層あるいは律令官人の存在を想起させる遺物として注目されるが、この他に官衙との関連を示す構造・遺物は確認されていない。

(1) 富永里菜『馬具の帶金具』『鉄器をめぐる諸問題』奈良文化財研究所2002

(2) 塚場の古墳群は上野原台地西方に位置するが、現在宅地化され詳細は不明。鉄製直刀は上野原台地と桂川に接された新田地区の無名墳で出土したとされているが、詳細な出土地は特定できていない(『山梨縣史』資料編2 原始・古代2考古(遺構・遺物)1999)。

第2節 遺構

(1) 壓穴住居址について

先の時期区分から壓穴住居址の特徴を概述する。住居址は13軒だが、さらに周間に広がるものと思われる。

第1期

1軒のみである(10号)。平面長方形(一边2m~3m)で小型。主軸は北東方向。カマドを持つ。

第2期

2軒が隣接して立地する(1、8号)。いずれも平面長方形(一边4m~4.5m)で比較的大型。主軸は北東

方向。カマドは石組・粘土に上器を補強材として用いる（8号）。出土遺物は銅製の鉗具（1号）、仏鉢状の土器や小型短頸壺（8号）があり特異性が見られる。

第3期

2軒が隣接して立地する（11、12号）。11号住居址は平面長方形（一辺3m前後）の小型で主軸は北方向である。12号住居址は平面方形（一辺3.7m）の中型で、カマドと炉が付設される。主軸は北西方向で、隣接する2号掘立柱建物址を作う可能性がある。両住居は規模や位置関係から造営時期に時間差が考えられる。カマドは石組（11号）がある。

第4期

8軒が該当し（2号新・旧、3号～7号、9号、13号）、最も多い。規模別に大・中・小に分類できる。

大型は2号住居址が該当する。本住居は建て替えによる拡張が見られ、旧段階で一辺4.5m、新段階で一辺5.6mを測る。平面方形で主軸は北東方向である。遺構は壁柱穴が巡り、他の住居に見られない特異な構造であった。新段階では7号住居に面した南東壁に柱穴のない空間があり、ここを出入口と想定できる。IH段階ではカマド・炉・床下粘土上坑を伴うが、新段階では大きな焼土遺構が見られるのみとなる。

中型は5軒（3号、4号、7号、13号）が該当する。平面は長方形・方形で一辺3m～4mを測る。主軸は北西か北東方向である。カマドは石・粘土造りが多い。4号住居址は炉を作う。

小型は2軒（5号、6号、9号）が該当する。平面は方形基調・不整台形で一辺2m～3mを測る。主軸は北西か北東方向である。カマドは石・粘土造りで、9号住居址は2基のカマドを伴う。

住居の分布は主に調査区東側と南側に偏在し、各規模の住居が混在して一群を形成する。大型の2号住居址を除き、重複なく分布する。東側の一群は大・中・小型の住居からなり、大型の掘立柱建物を含めて相互に関連性がある。南側の一群は中・小型の住居からなる。この他、中型の住居1軒が調査区北側に位置する。

（2）8号住居址について

この住居は第2期に属し、焼失住居である。床面に残された土器はすべて甕類（小型壺、転用鉢、長胴甕、胴張甕）で、他に須恵器壺の転用窓がある。壺・皿といった食膳具はない。転用鉢は小型球腹甕の中位以下を用いたもので、短く内湾する上端部や尖り気味の底部など形態的な特徴は仏鉢に類似する。住居は覆土の状況から焼失後に短期間で埋め戻された可能性が強く、覆土上面で検出された土師器の小型短頸壺は住居廃棄に伴う儀礼的行為に用いられた可能性も考えられる。他住居にない4本柱穴構造や窓穴の廃棄過程、偏った器種構成は住人の特異性を反映したものとも考えられ、仏教関連遺物（仏鉢状の土器や小型短頸壺）や転用窓から僧の関わりも想定できる。

（3）2号住居址を中心とした建物群について

第4期の2号住居址、7号住居址、1号掘立柱建物址は調査区東側で一群を形成し、相互に関連性が指摘できる。2号住居址と7号住居址は出土遺物に接合関係が認められることや、墨書き器に同一文字「基」が使われること、モモ核が1号掘立柱建物址とともに出土していることが挙げられる。さらに2号住居址と1号掘立柱建物址は規模や位置関係で関連が強い。このことから、大型の窓穴住居と掘立柱建物に中（小）型の窓穴住居が付随する建物構成であった可能性が指摘でき、周囲に遺構の乏しい空白域が存在することから、他の住居と一定距離を保って構築された、一般農民層と異なる有力者の居宅であった可能性も考えられる。

つぎに各遺構の機能について考えてみたい。2号住居址は、カマドと炉を併設する空間から大きな焼土遺構を持つ広い空間に改築されていて、炉を中心とした何らかの作業機能が拡充されたことを想定させる⁽¹⁾。そ

して、改築によって失われた居住及びカマドによる炊事機能を補完するため、大型の掘立柱建物や、カマドを持つ巾（小）型の堅穴住居が構築されたと考えられないだろうか。すなわち、居住と作業場を兼ねた堅穴建物から、居住（掘立柱建物）、作業場（大型堅穴）、炊事場（中型堅穴）に機能分化したことが想定される⁽²⁾。

2号住居址の廃絶後、これに一部重複して1号柱穴列が構築される。1号柱穴列は柱間の一部が溝でつながる点で1号掘立柱建物址と同じ系譜で捉えられ、2号住居址の廃絶後は掘立柱構造を土体とした建物群に移行したものと思われる。

以上、説明に強引さは否めず、さらに分析が必要だろう。先学諸氏のご批判・ご指導を賜われば幸いである。

- (1) 炉を伴う堅穴住居址は大間々遺跡で第3期・第4期に3軒確認されている。こうした建物の機能については、炉を必要とする種々の生産活動が行われていたものと推測されているが(2005 加藤他)、大間々遺跡では物証が少なく不明確である。

- (2) 類例に、大間々遺跡の下流約5kmに位置する神奈川県綱島遺跡がある。平安時代の集落址で、10世紀前半の作業場（堅穴構造の堅穴）と作居（カマドを持つ堅穴）が2軒1単位として報告されている（1987 長澤他）。

第3節 炭化種子について

遺構の覆土を水洗選別した結果、食用とされる炭化種子が第3期・第4期（9世紀前半～10世紀中頃）の堅穴住居址から多数検出された（種子の分析結果は付篇参照）。

特に多いのがアワ・ヒエといった雑穀類で、次いでコムギ等のムギ類が見られる。イネはごくわずかであつた。これらは主にカマドや炉の内部から検出されていて、2号住居址（旧）の床焼土面から多量に検出されたアワ・ヒエは、カマドの清掃あるいは解体処理に伴い集積された可能性が高い。水田の少ない山間地において、雑穀類やムギ類が主要な栽培植物であったことをうかがわせる。

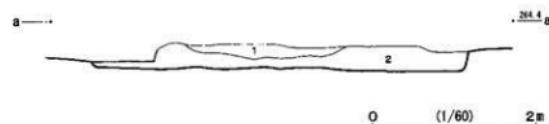
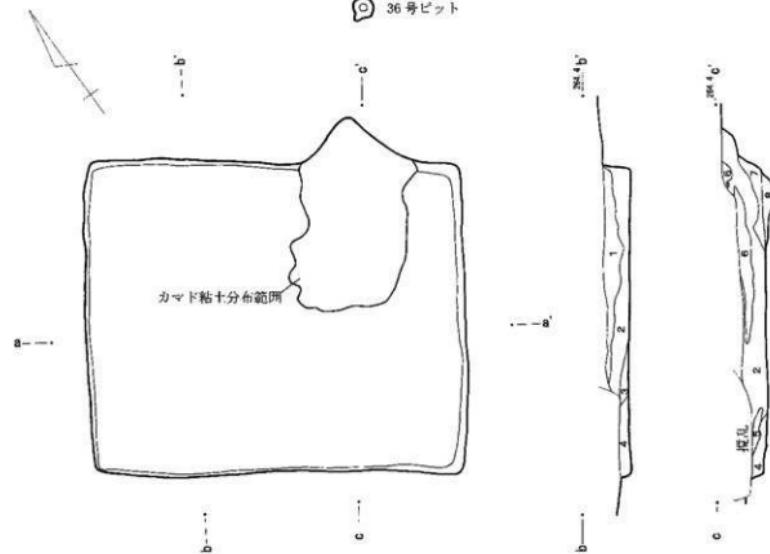
モモは、第4期の2号・7号住居址及び1号掘立柱建物址から出土した。住居ではカマド周囲や炉の内部、掘立柱建物では柱穴の内部から検出されている。大間々遺跡におけるモモの用途は不明であるが、大型建物群に限定した川土で雑穀やイネ類とは対照的な有り方を示すことから、一般的な食糧というよりは、一定以上の地位の者が入手できた稀少品（食用・薬用等）、あるいはモモに占来より邪気を払う呪力があるとする考えがあることから祭祀的行為に用いられた可能性は想定できよう。

第4節 まとめ

大間々遺跡の所在する上野原台地は、古代都留郡の古郡郷、そして都留郡衙の移転に伴った初期郡衙が所在した地域とも考えられていた。また、延暦16年（797）の甲相国境論争と深い関わりが指摘される地域でもあった。しかし遺跡発掘調査の事例が少なく、考古学的な立証が永い間困難な状況が続いている。このような中で行われた大間々遺跡の発掘調査で、台地における古代集落址の様相がわずかながら明らかになってきた。

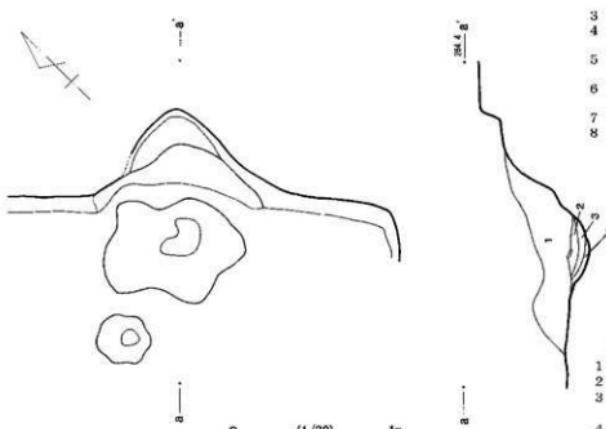
大間々遺跡では、9世紀前半頃を境に相模型から甲斐型へ土器の転換が認められ、当地における甲斐國の影響力が強まっていく過程を示している。また、8世紀代に律令官人や僧など特異な階層の存在が想定される他、9世紀末から10世紀前半頃に比較的大規模な建物群が出現するなど、一般農民層だけにとどまらない多様な階層社会が当地に形成されていたことをうかがわせる。周辺の調査事例の蓄積が望まれるところである。

○ 36号ビット



1号住居址土層

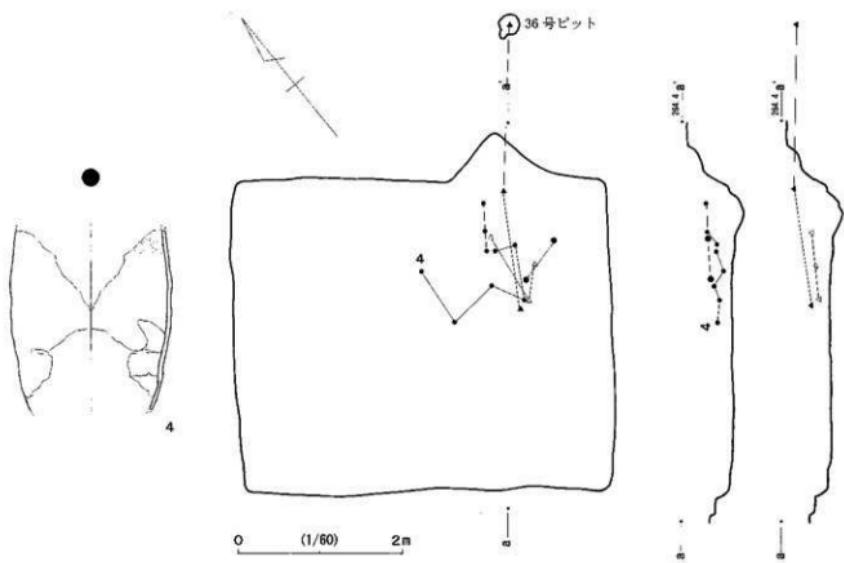
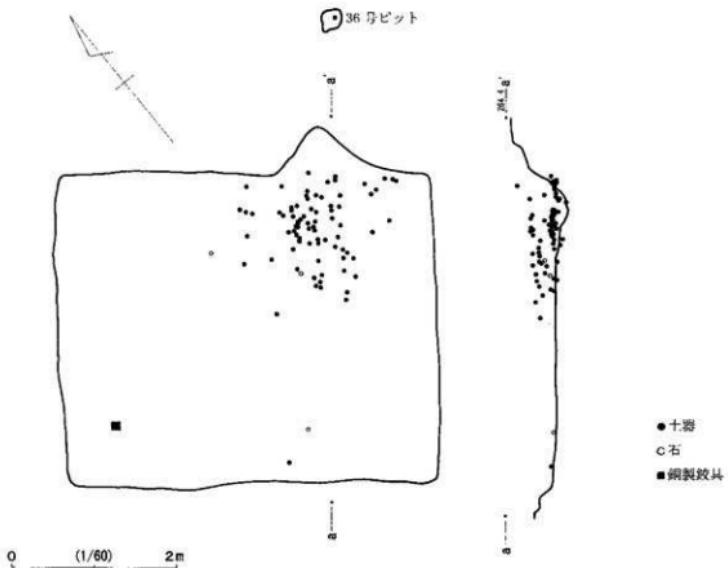
- 1 にふい褐色土
粘性弱く、縮まりやや強い。
褐色土 (2 cm以下)
多い。黒色スコリア (7
mm以上) やや多い。
- 2 暗褐色土
粘性弱く、縮まりやや強い。
褐色土 (2 cm以下)、
黒色スコリア多い。
- 3 褐色土
粘性弱く、縮まりやや強い。
- 4 暗褐色土
第2層を基調に褐色土
(4 cm以下) 多い。
- 5 褐色土
粘性弱く、縮まり強い。
褐色土塊多い。
- 6 暗褐色土
粘性強く、縮まり強い。
白色粘土多く。
- 7 灰白色粘土
暗褐色土上に灰白土を含む。
- 8 カマド火床



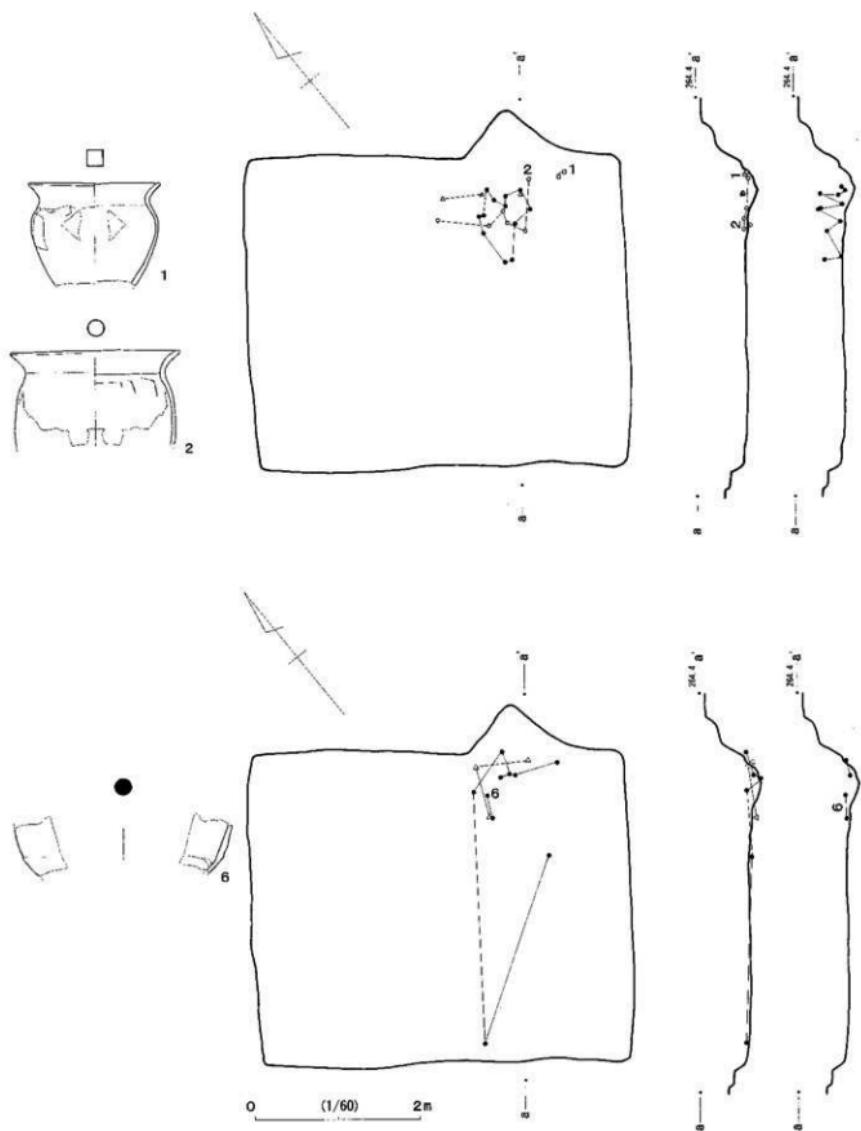
カマド土層

- 1 灰白色粘土
暗褐色土、炭粒を含む。
- 2 褐色土
やわらかい泥土。
- 3 赤褐色土
粘性弱く、触感さがさ。
被子が粗く、触感さがさ。
- 4 黑褐色土
粘性強く、触感さがさ。
被子が粗く、触感さがさ。

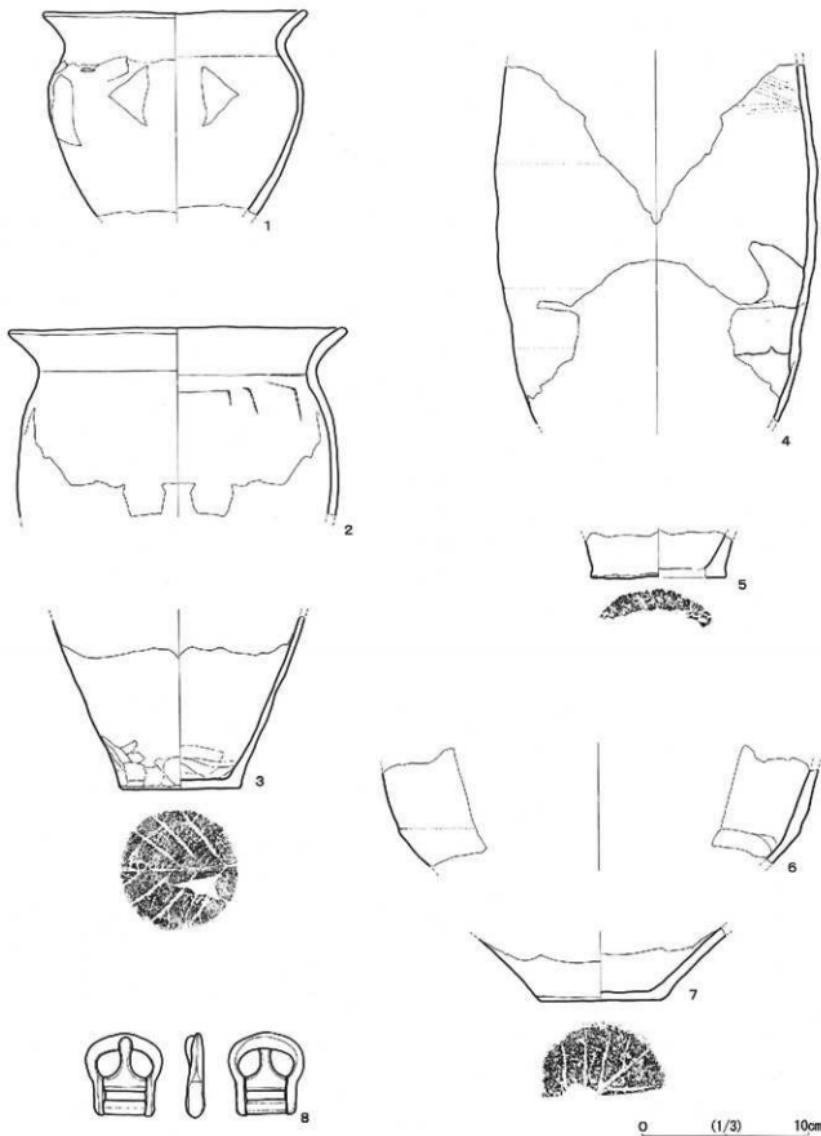
第5図 1号住居址、カマド



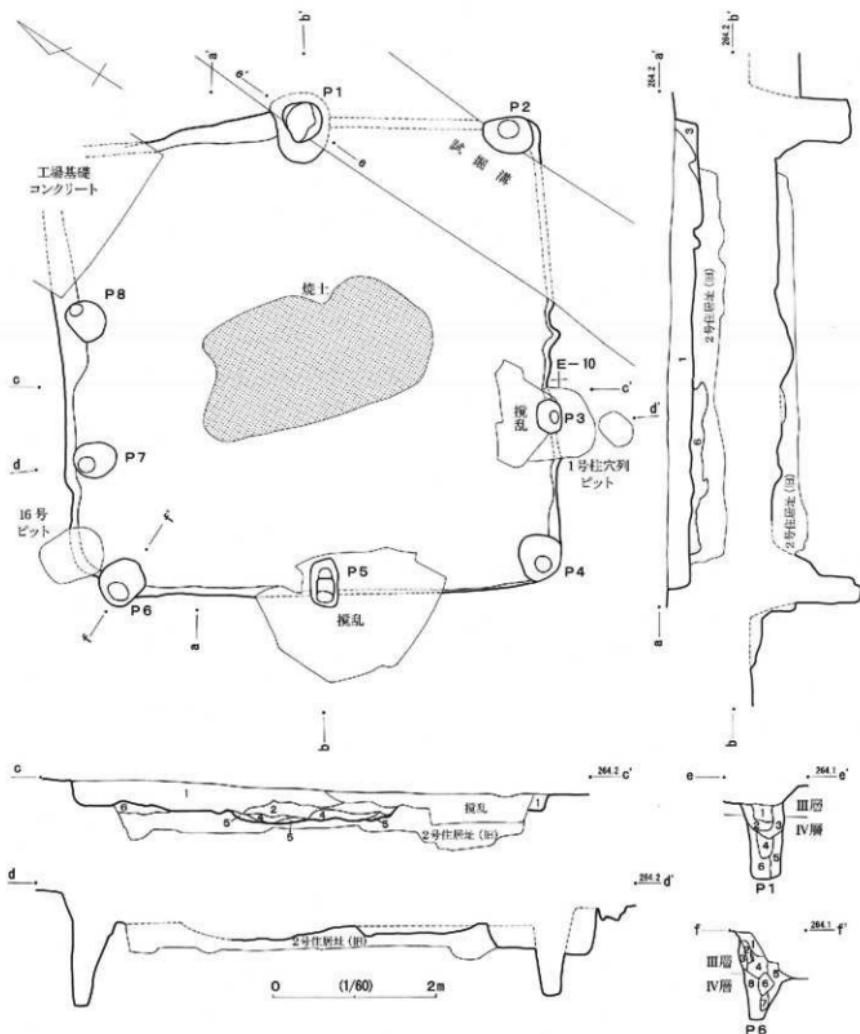
第6図 1号住居址 遺物分布図、接合図-1-



第7図 1号住居址 遺物接合図-2-



第8図 1号住居址 出土遺物



2号住居址(新) 土層

- 1 砂褐色土 粘性薄く、縮まりやや強い。燒土粒、灰粒・褐色土粒や多い。黒色スコリア多い。
- 2 硫褐色土 第1層に基礎に燒土粒多い。
- 3 棕褐色土 焼土。
- 4 棕褐色土 粘性強く、縮まりやや強い。鉄浜ざらつく。燒土粒、炭灰、黑色スコリア、灰白色土粒や多い。
- 5 硫褐色土 粘性強く、縮まりやや強い。鉄浜ざらつく。燒土粒、炭灰、黑色スコリア、灰白色土粒や多い。
- 6 黑褐色土 黑褐色土多い。貼り床。

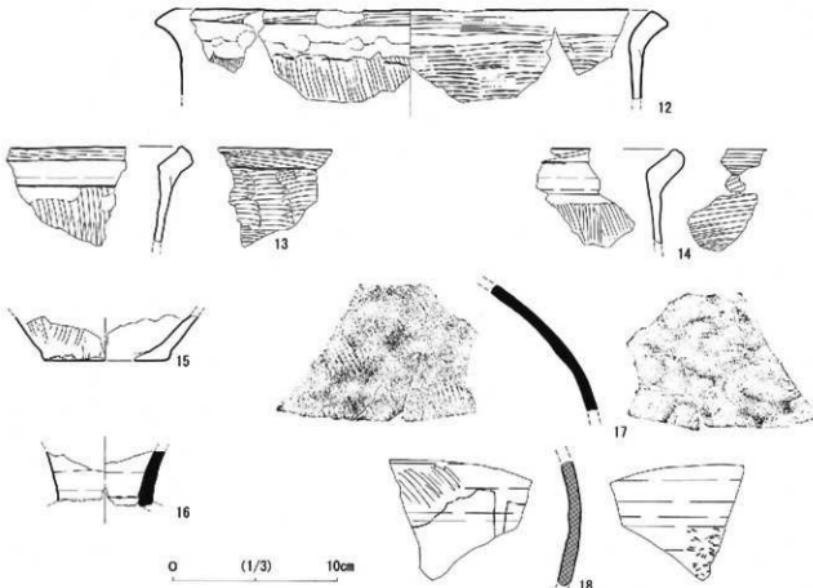
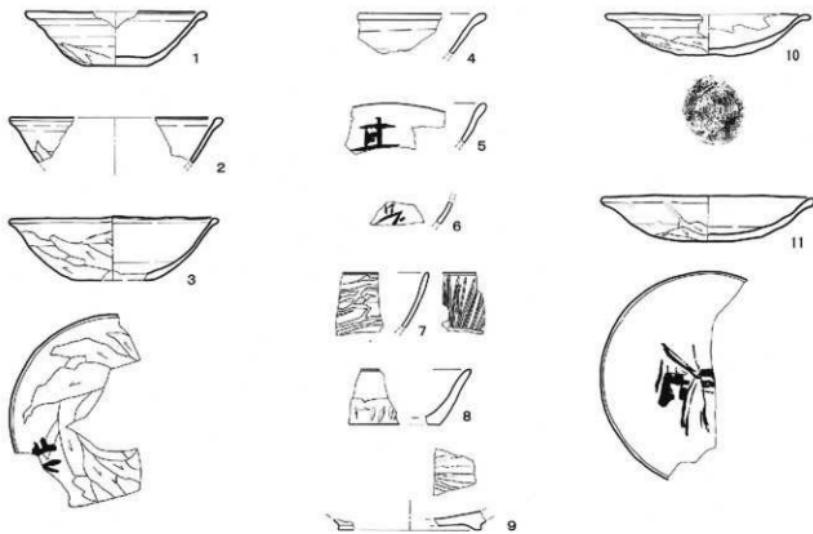
P1土層

- 1 黑褐色土 粘性、縮まりやや強い。炭粒(1cm以下)多い。褐色土粒・白色粘土粒や多い。
- 2 黑褐色土 第1層と同質だが、炭粒を含まない。
- 3 黑褐色土 粘性強く、縮まり弱い。白色粘土粒多く。
- 4 灰褐色土 粘性弱く、縮まり弱い。白色粘土粒多い。
- 5 灰褐色土 第4層を基盤に細質コーム層(2~3m)含む。
- 6 灰褐色土 緩まり弱い。褐色バサバサ。

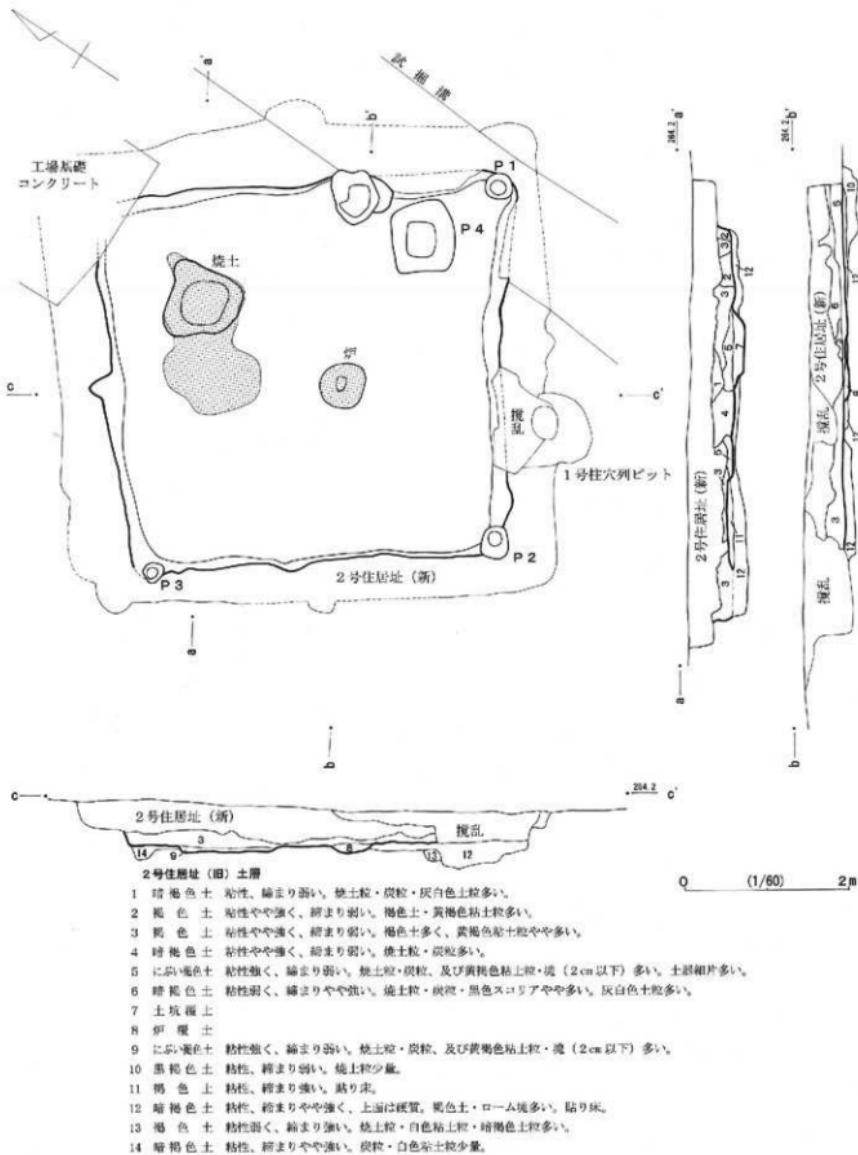
P6土層

- 1 硫褐色土 粘性、縮まりやや強い。炭粒少數。
- 2 硫褐色土 粘性、縮まりやや強い。漂土粒少數。
- 3 硫褐色土 粘性薄く、縮まり弱い。
- 4 硫褐色土 粘性薄く、縮まり弱い。褐色バサバサ。
- 5 黑褐色土 (2cm以下)多い。
- 6 黑褐色土 (2cm以下)多い。
- 7 黑褐色土 硫質コーム層。
- 8 硫褐色土 粘性強く、縮まり弱い。褐色バサバサ。

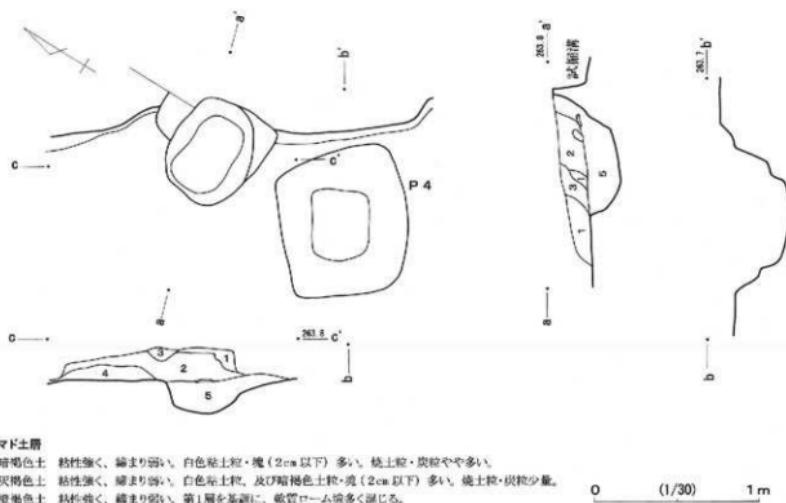
第9図 2号住居址(新)



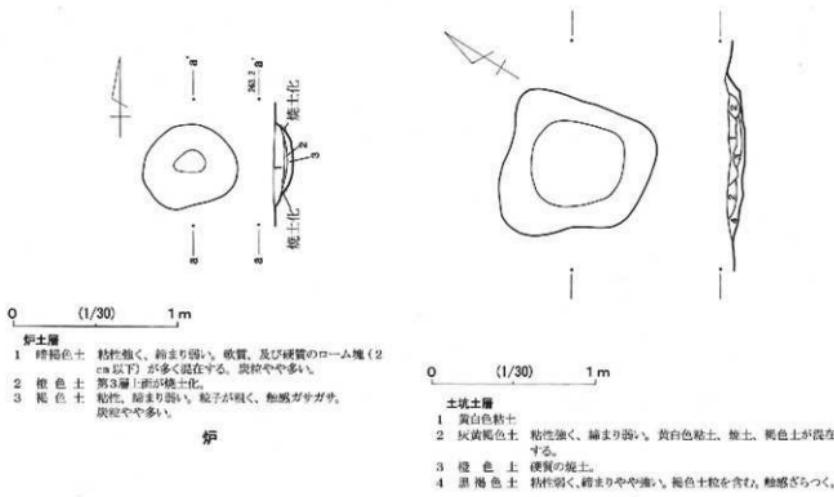
第10圖 2号住居址(新)出土遺物



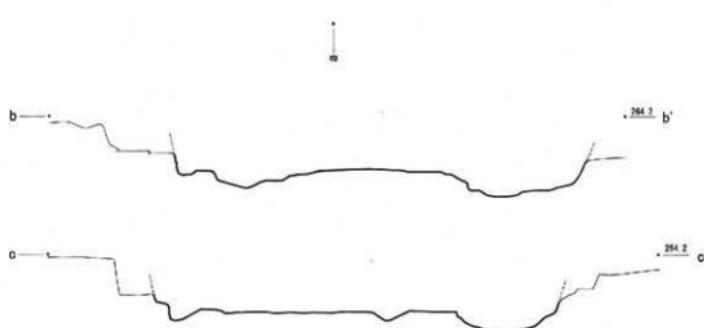
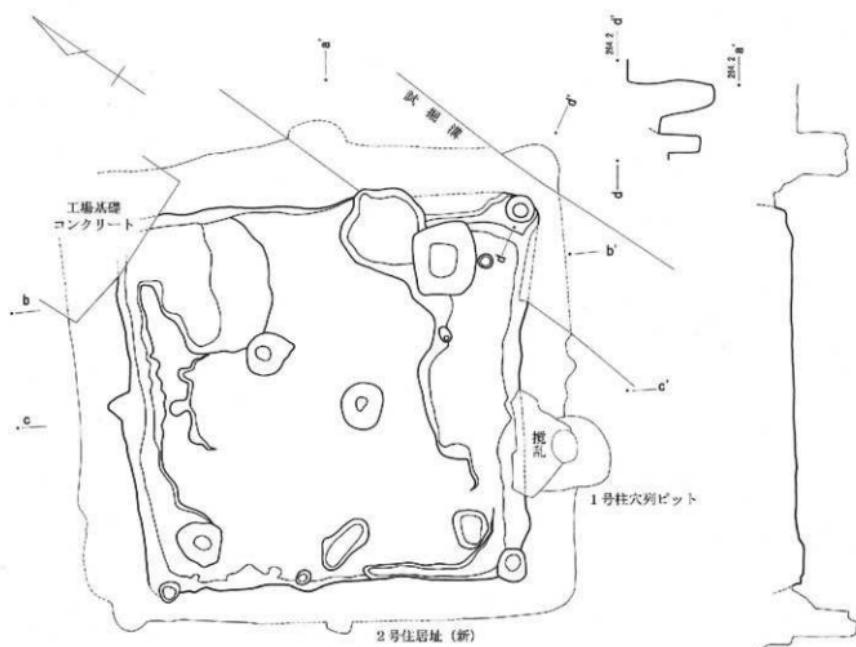
第11図 2号住居址（旧）



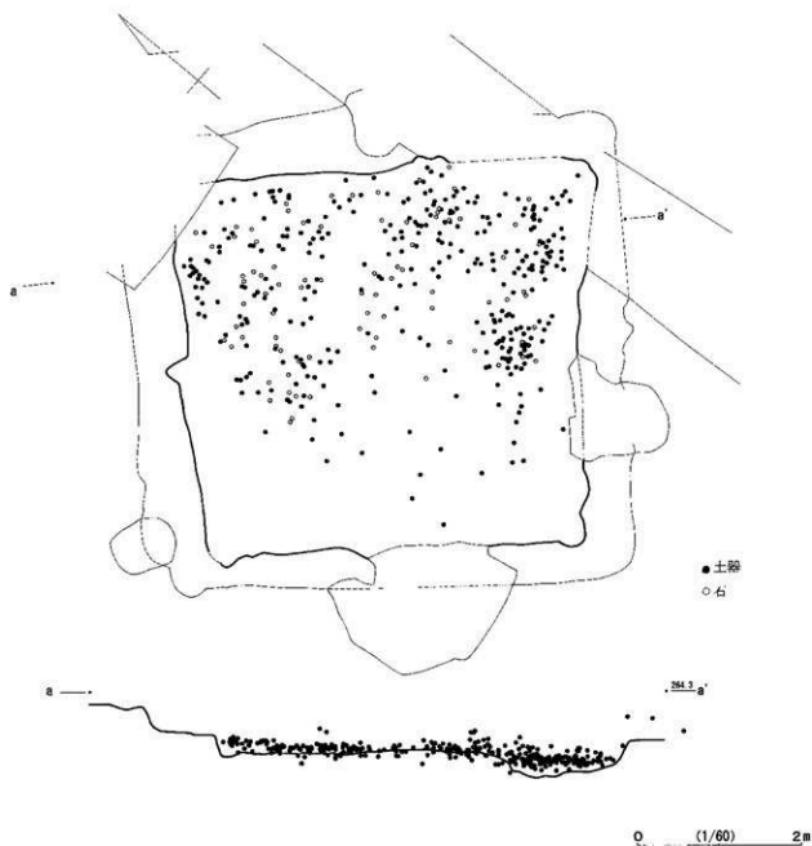
カマド, P 4



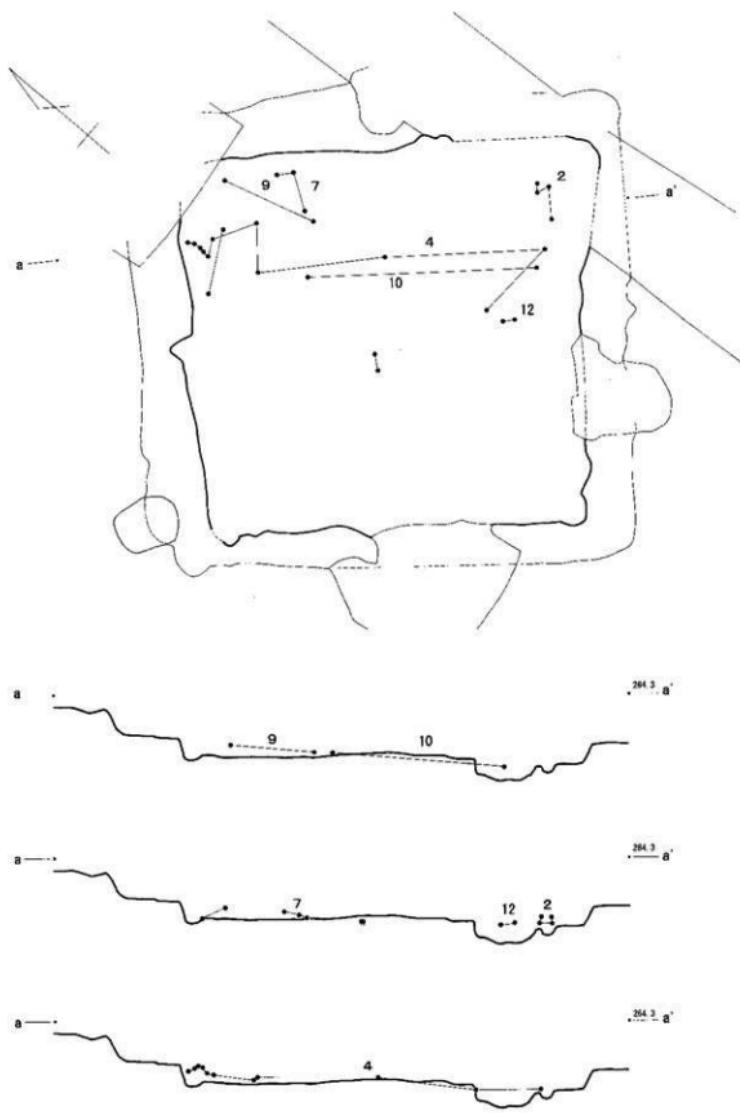
第12図 2号住居址(旧)カマド, 炉, 土坑



第13図 2号住居址 (旧) 摂り方

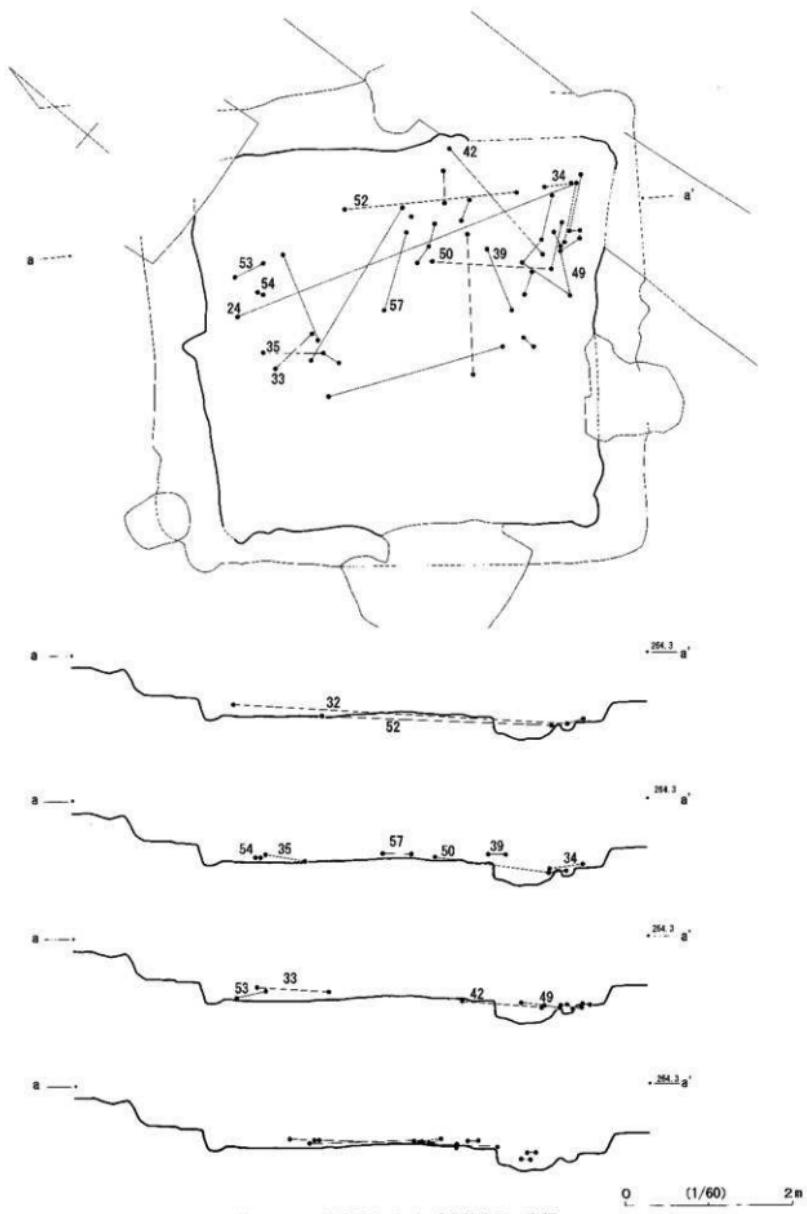


第14図 2号住居址(旧)遺物分布図

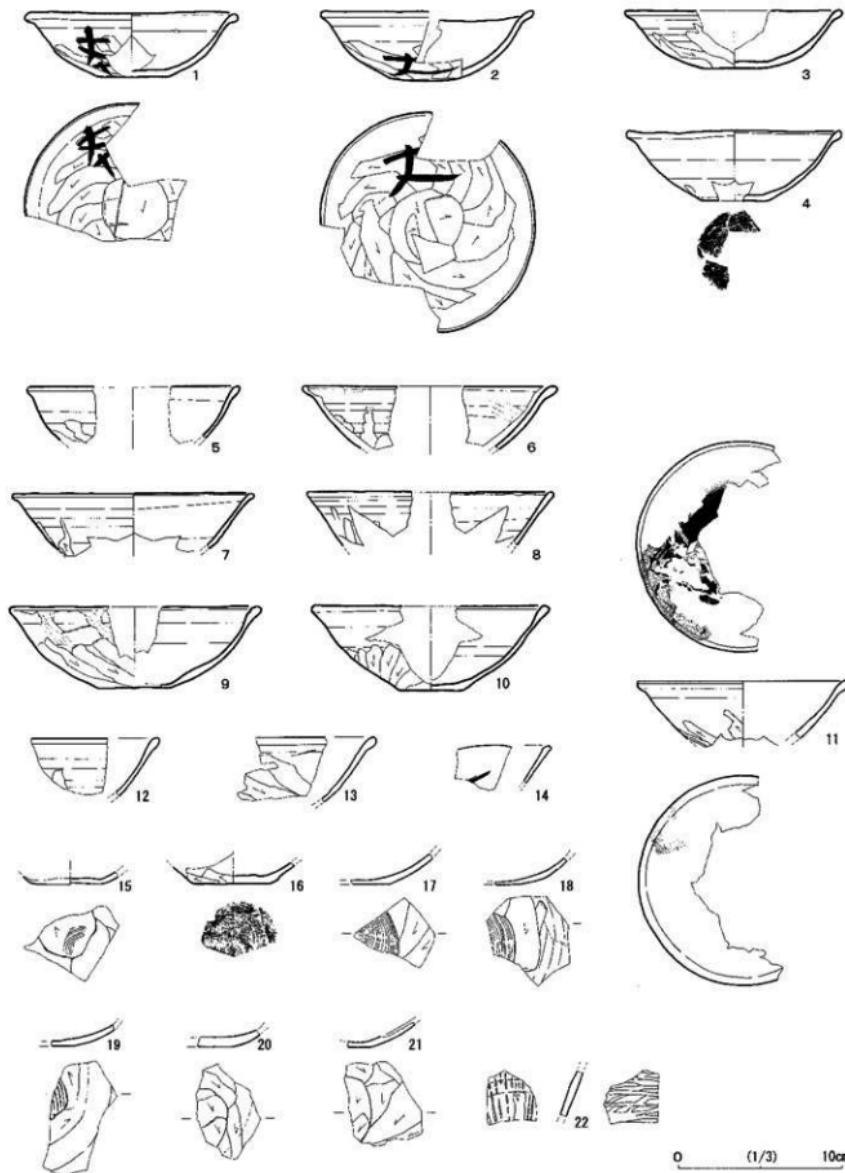


第15図 2号住居址(旧)遺物接合図一坏頬一

0 (1/60) 2m



第16図 2号住居址(旧)遺物接合図—壺類—



第17図 2号住居址（旧）出土遺物－1－



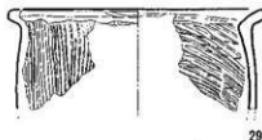
24



25



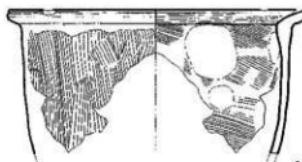
28



29



30



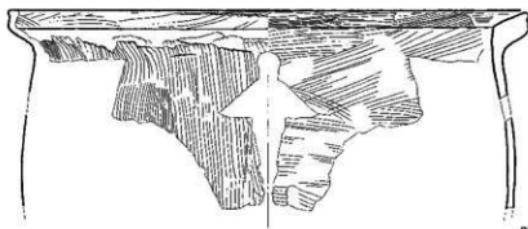
31



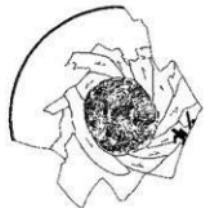
26



27



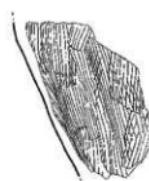
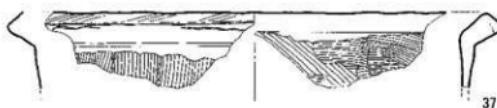
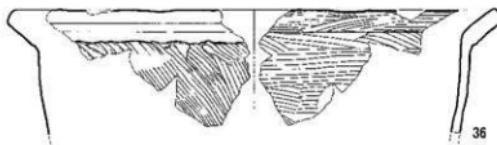
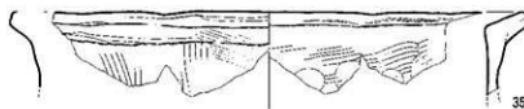
32



33

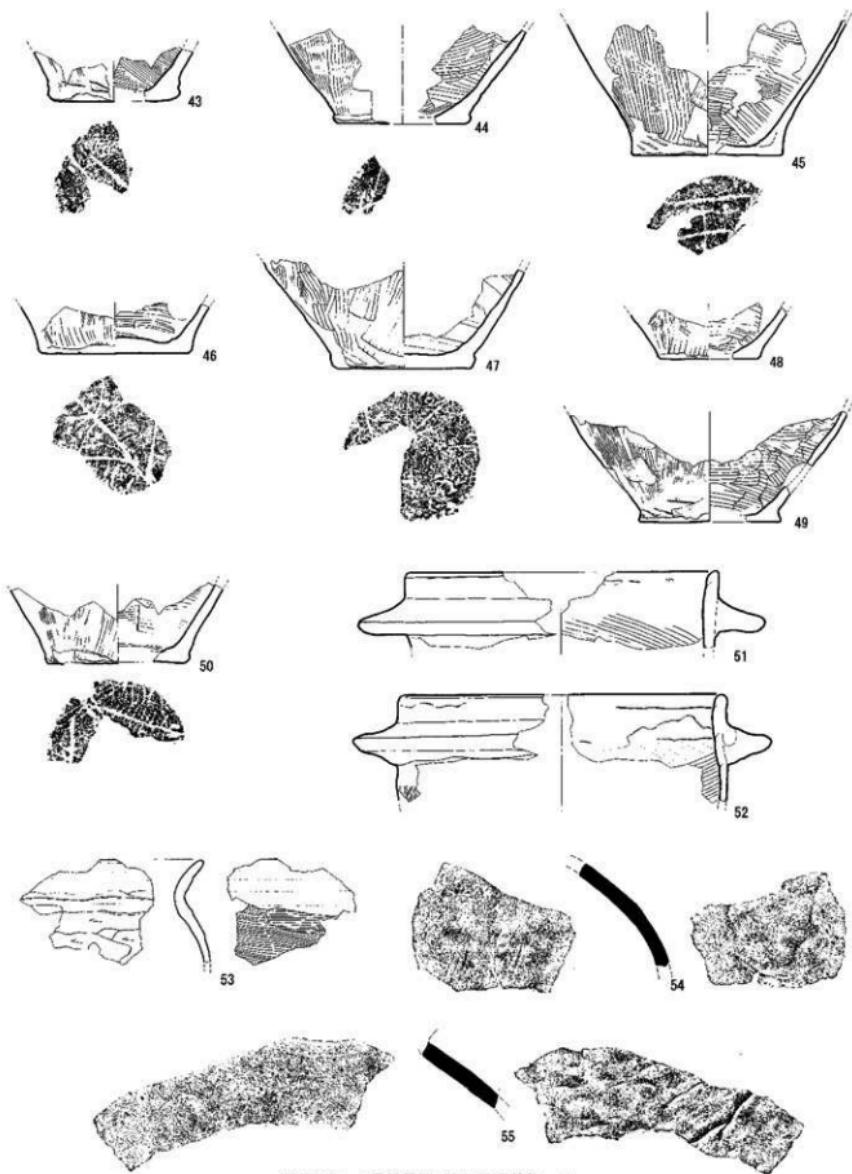
0 (1/3) 10cm

第18図 2号住居址(旧)出土遺物-2-

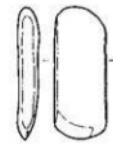
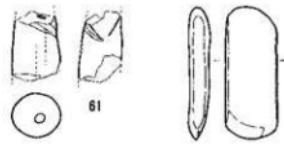
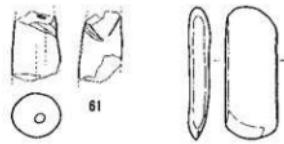
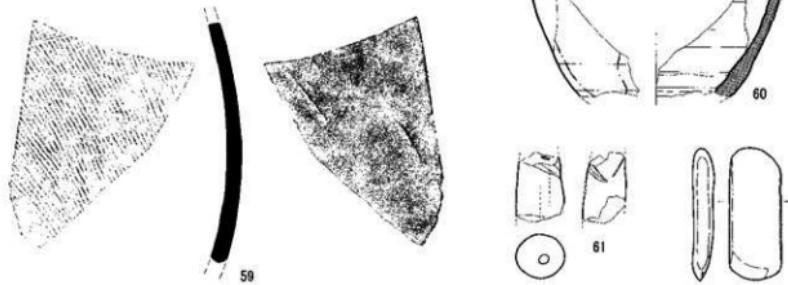
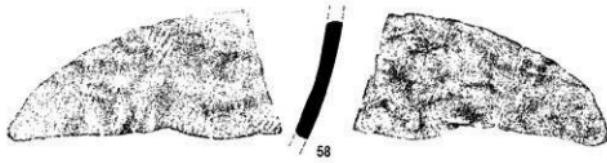
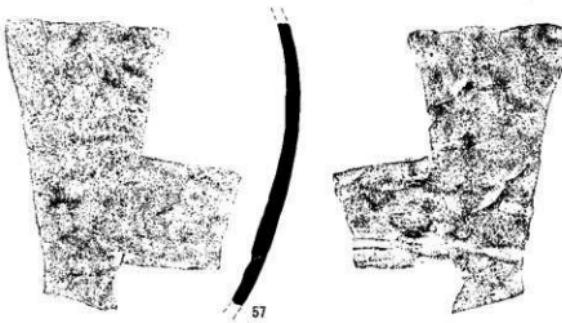
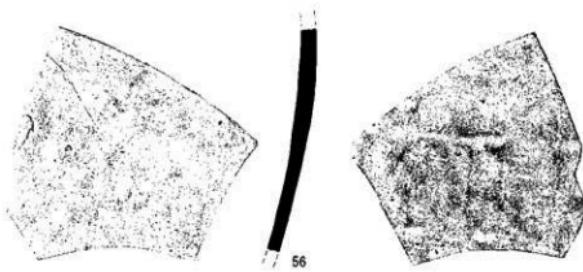


0 (1/3) 10cm

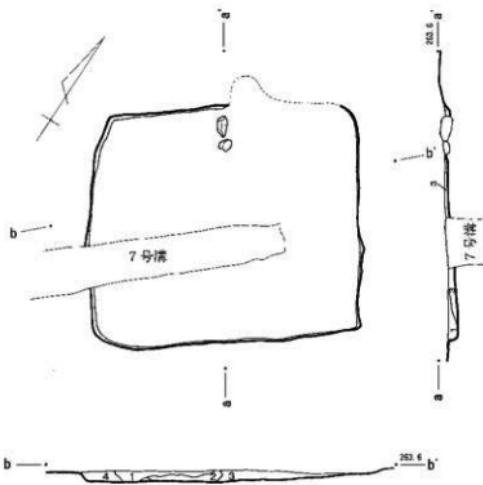
第19圖 2號住居址(Ⅱ)出土遺物—3—



第20図 2号住居址(旧)出土遺物—4—

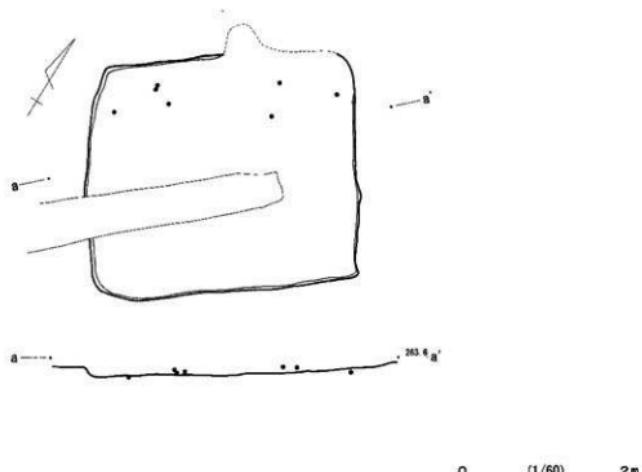


第 21 図 2 号住居址 (旧) 出土遺物 - 5 -

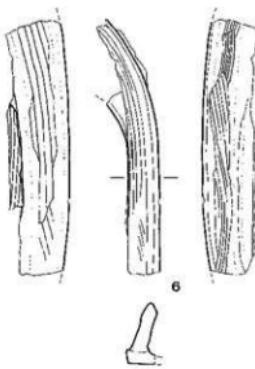
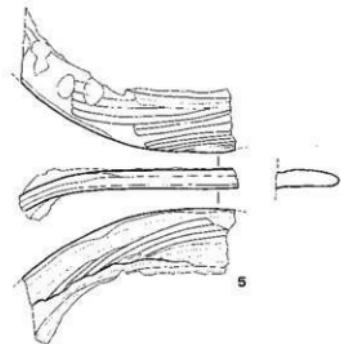
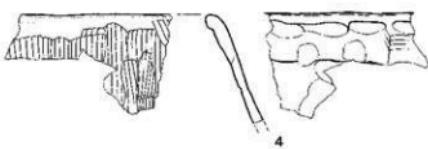
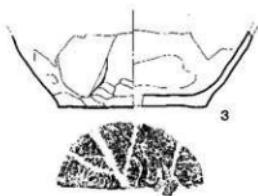
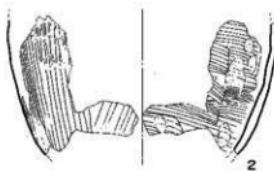
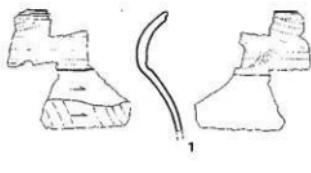


3号住居址土層

- 1 細褐色土：粘性、縮まり弱い。黒色スコリア多い。燒上粒・炭粒やや多い。
- 2 細褐色土：粘性弱く、縮まりやや強い。燒上粒・炭粒多い。
- 3 黃褐色土：粘性弱く、縮まり強い。褐色土（1cm以下）やや多い。燒上粒・炭粒・黃白色粘土粒やや多い。

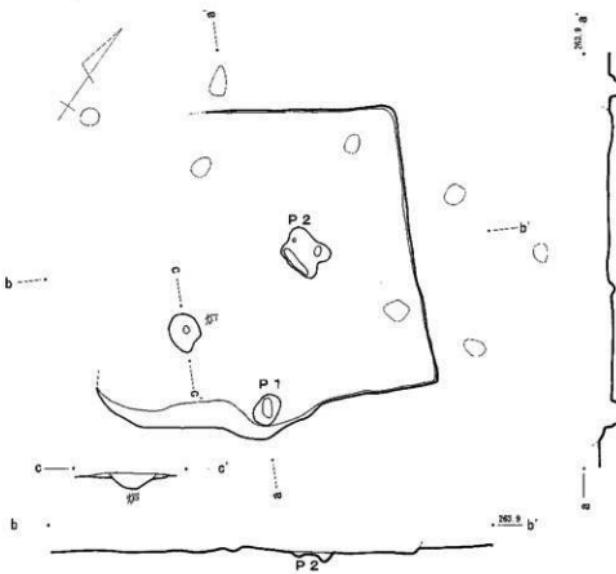


第22図 3号住居址、遺物分布図



0 (1/3) 10cm

第23図 3号住居址 出土遺物



炉土層

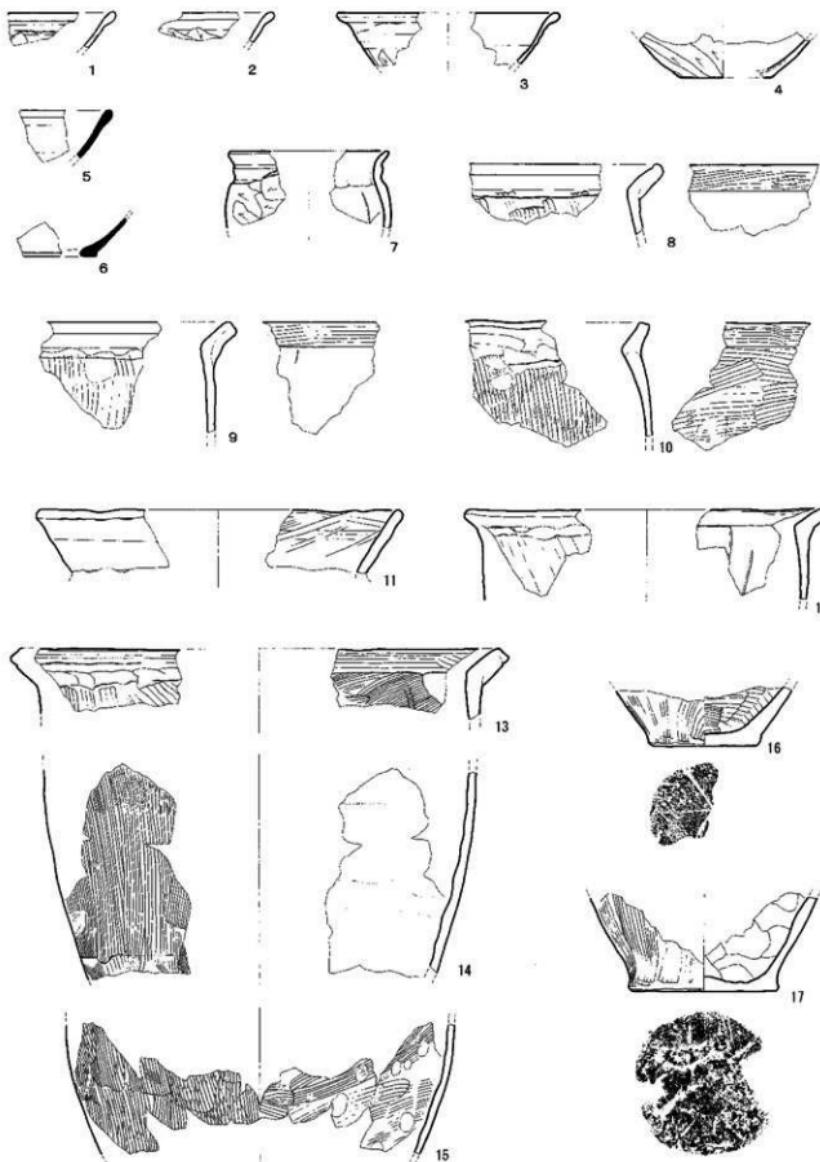
- 1 植色上 粘性強く、締まり弱い。塊土粒多い。炭粒やや多い。
- 2 無色土 粘性、締まり弱い。触感ハサハサ。焼土粒やや多い。
黄白色粘土粒ごく少量。

P2土層

- 1 暗褐色上 粘性やや強く、締まり弱い。塊土粒・塊(1cm)多い。
炭粒やや多い。黄白色粘土粒ごく少量。

0 (1/60) 2m

第24図 4号住居址 遺物分布 接合図



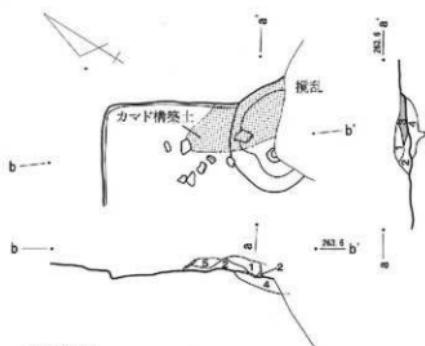
第 25 図 4 号住居址 出土遺物



5号住居址土層

- 1 暗褐色土 粘性、締まり弱い。燒土粒・炭粒・黄白色粘土粒多い。
- 2 カマド覆土

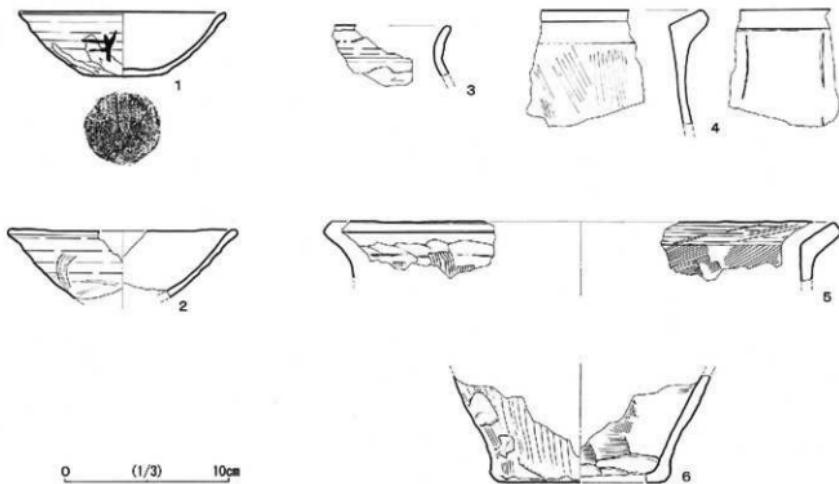
0 (1/60) 2m



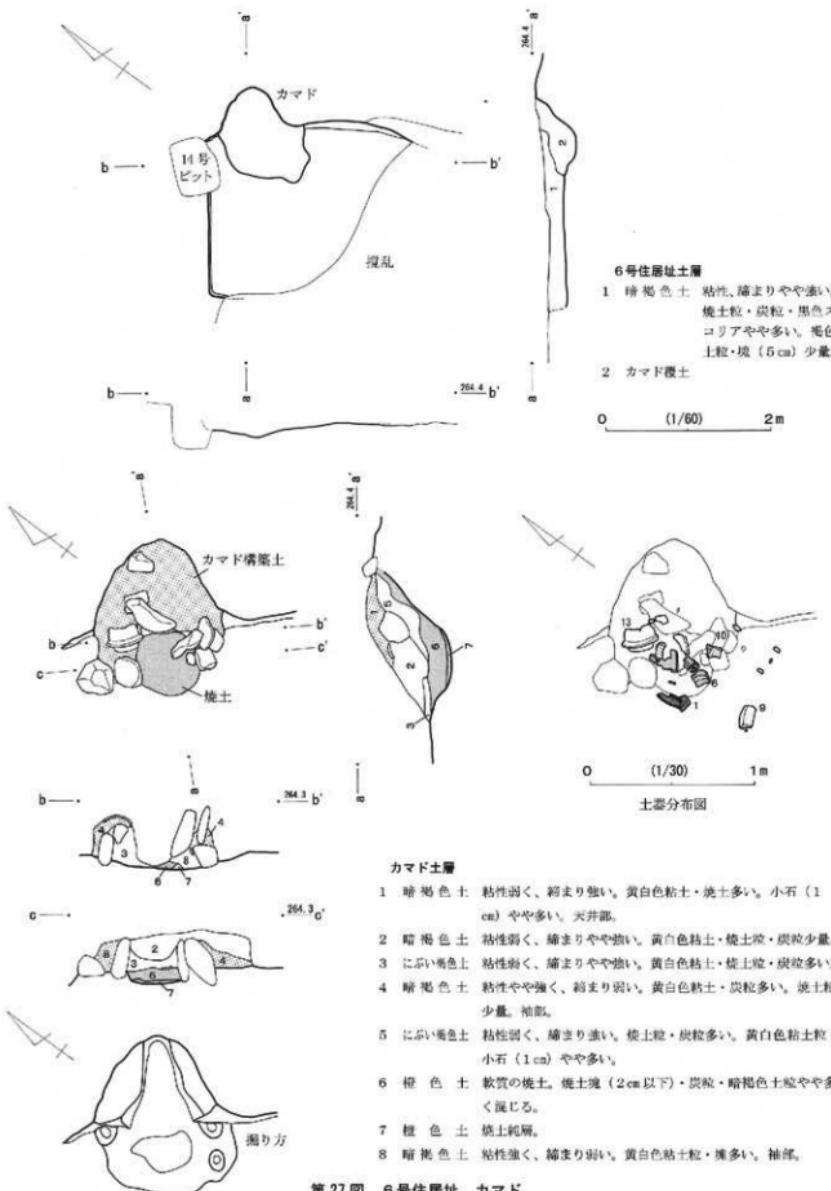
カマド土層

- 1 暗褐色土 粘性、締まり強い。燒土粒・褐色粘土粒やや多い。
- 2 にじみ褐色土 粘性、締まり弱い。燒土粒・炭粒・褐色粘土粒やや多い。
- 3 棕色土 軟質の焼土。
- 4 暗褐色土 粘性弱く、締まり強い。燒土粒・塊(1cm)・黄白色粘土粒・塊(1cm)・炭粒多い。
- 5 黄白色粘土 塵土粒・炭粒・暗褐色土粒が多く混じる。

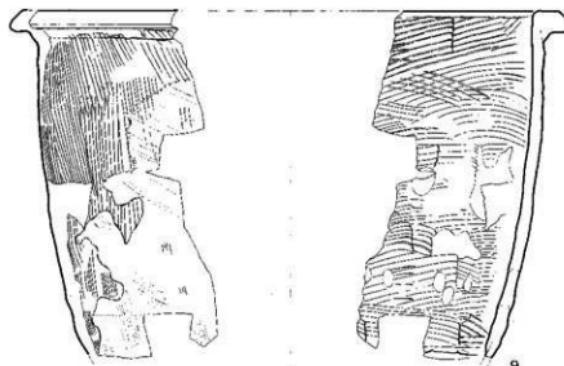
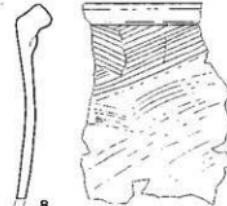
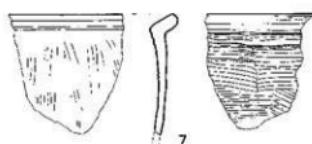
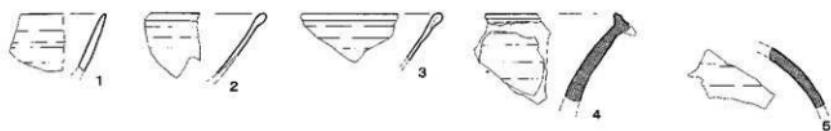
0 (1/30) 1m



第26図 5号住居址、カマド、出土遺物

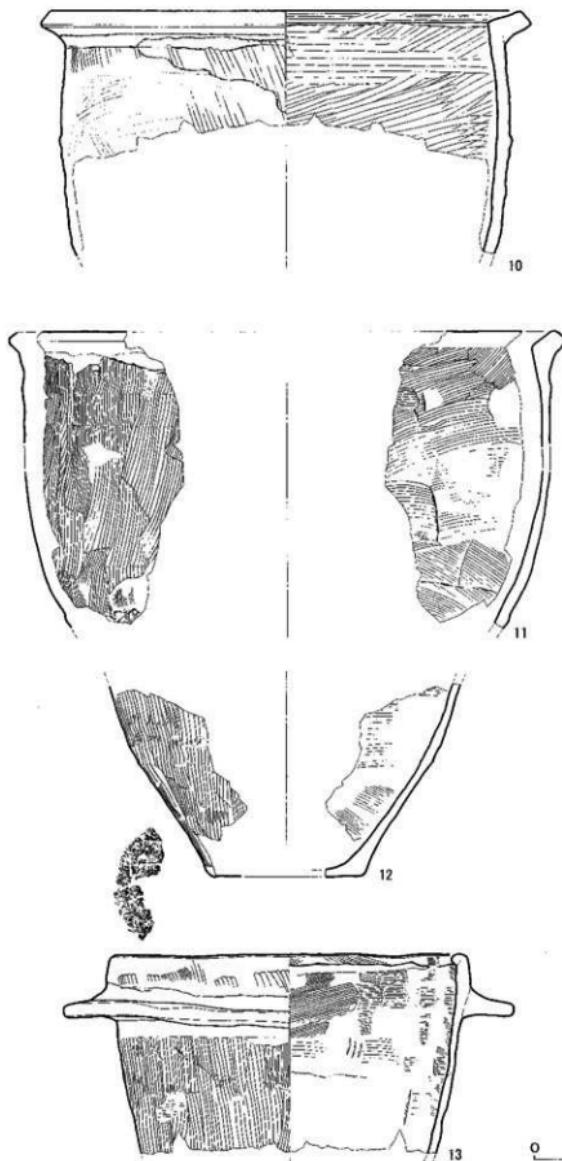


第27図 6号住居址、カマド

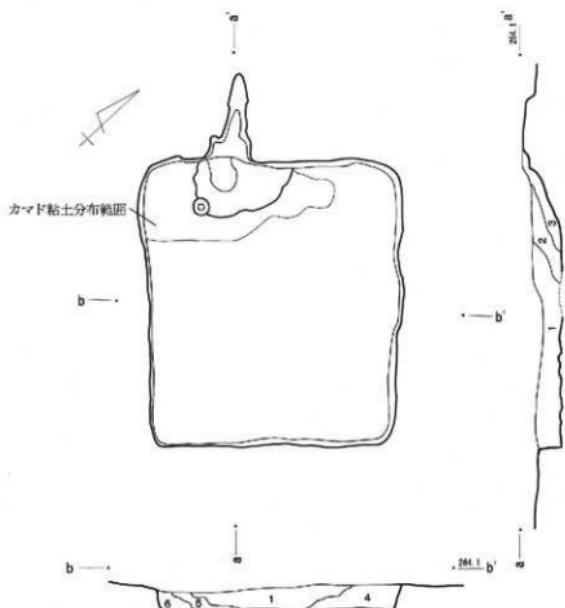


0 (1/3) 10cm

第28圖 6號住居址 出土遺物—1—



第29図 6号住居址 出土遺物-2-

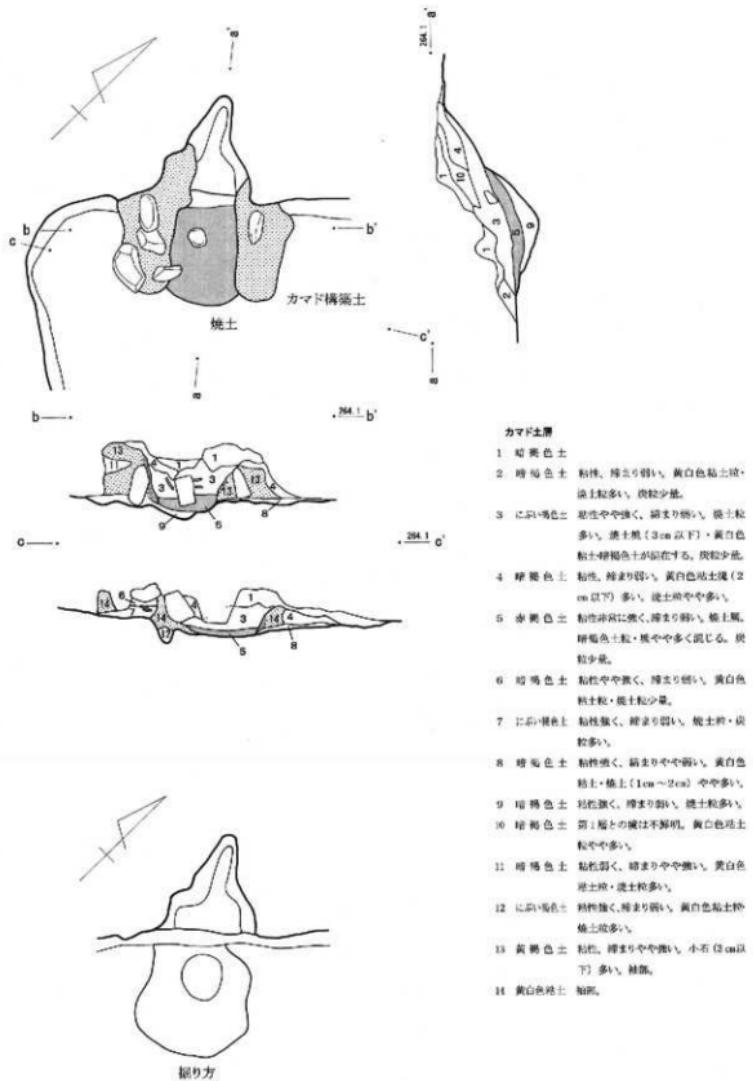


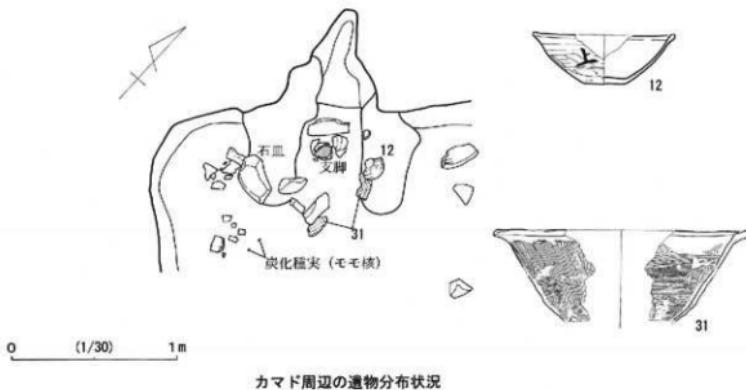
7号住居址土層

- 1 暗褐色土 粘性、締まり弱い。焼土粒・炭粒・黒色スコリア多い。
- 2 暗褐色土 第1層を基調に黄色粘土粒（5mm以下）多い。
- 3 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黄色粘土粒（1cm以下）多い。焼土粒・炭粒やや多い。
- 4 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。褐色土塊（1cm～2cm）やや多い。焼土粒・炭粒・黒色スコリアやや多い。
- 5 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒多い。漆土塊（1cm～2cm）少量。炭化材（1cm）やや多い。
- 6 黒褐色土 粘性やや強く、締まりやや弱い。

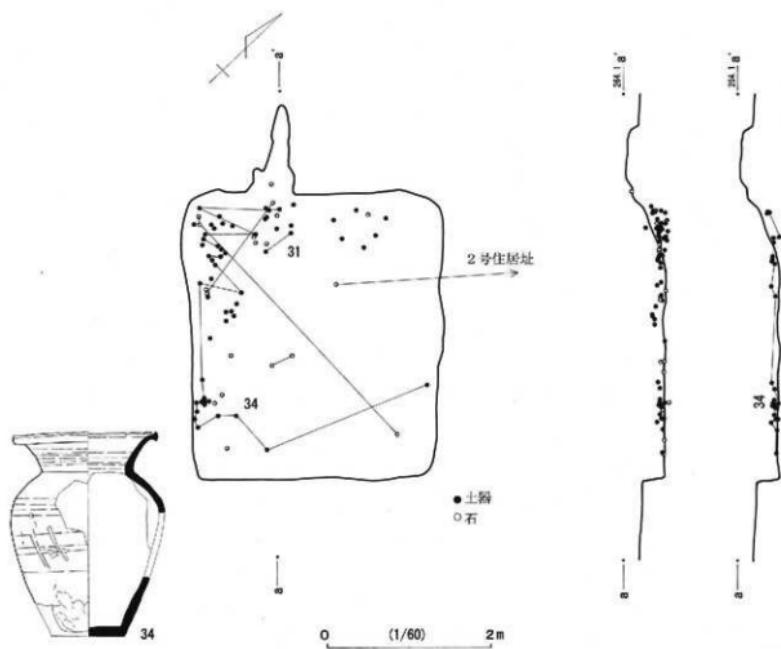
0 (1/60) 2m

第30図 7号住居址

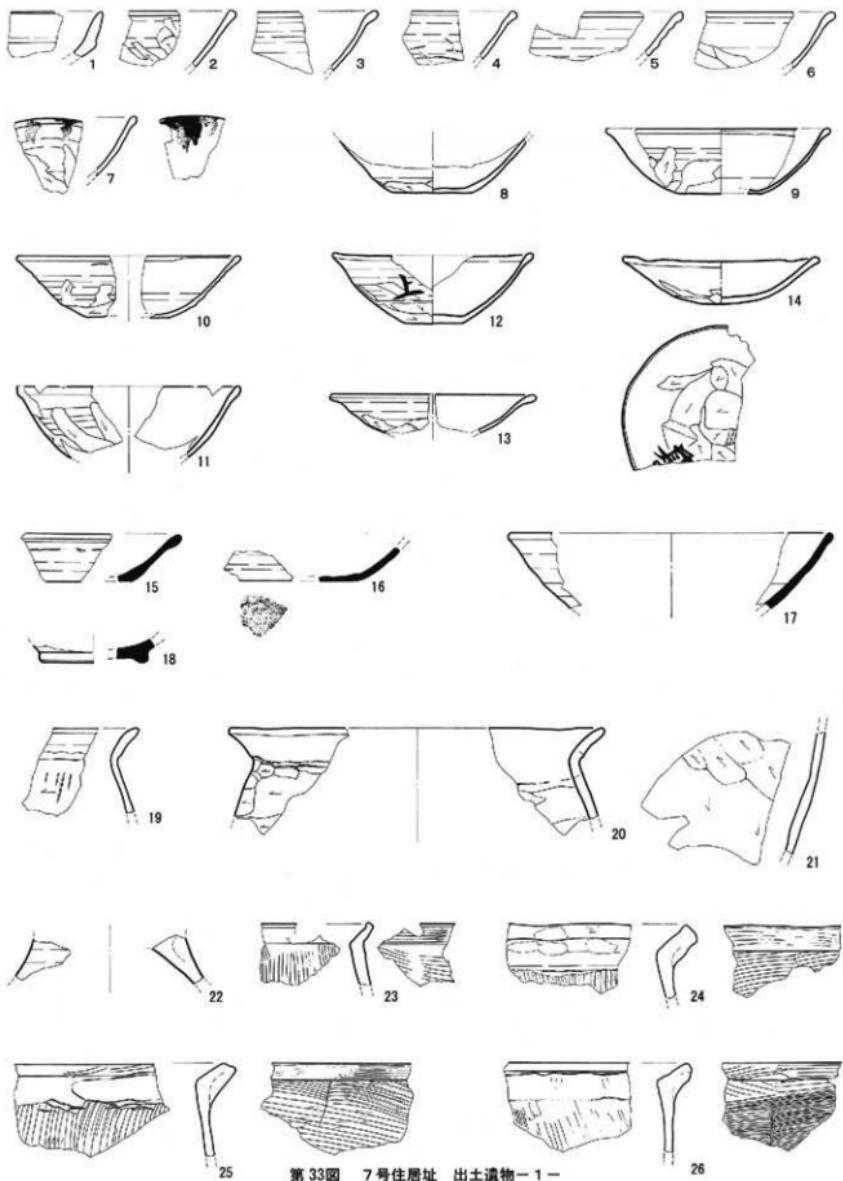




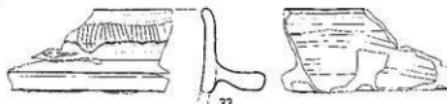
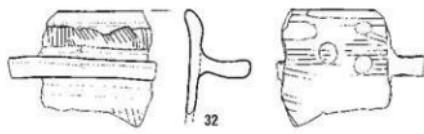
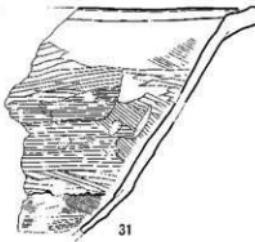
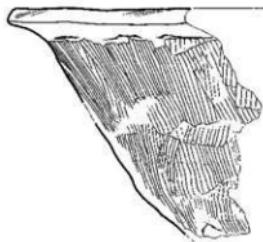
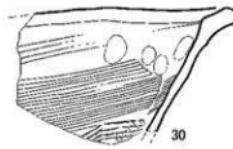
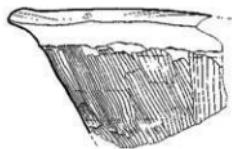
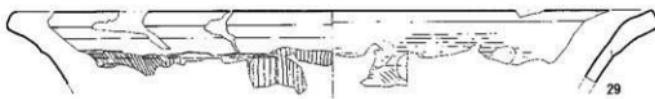
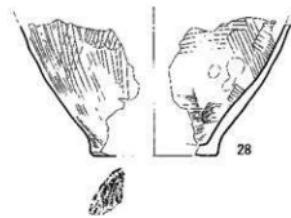
カマド周辺の遺物分布状況



第32図 7号住居址 遺物分布図、接合図

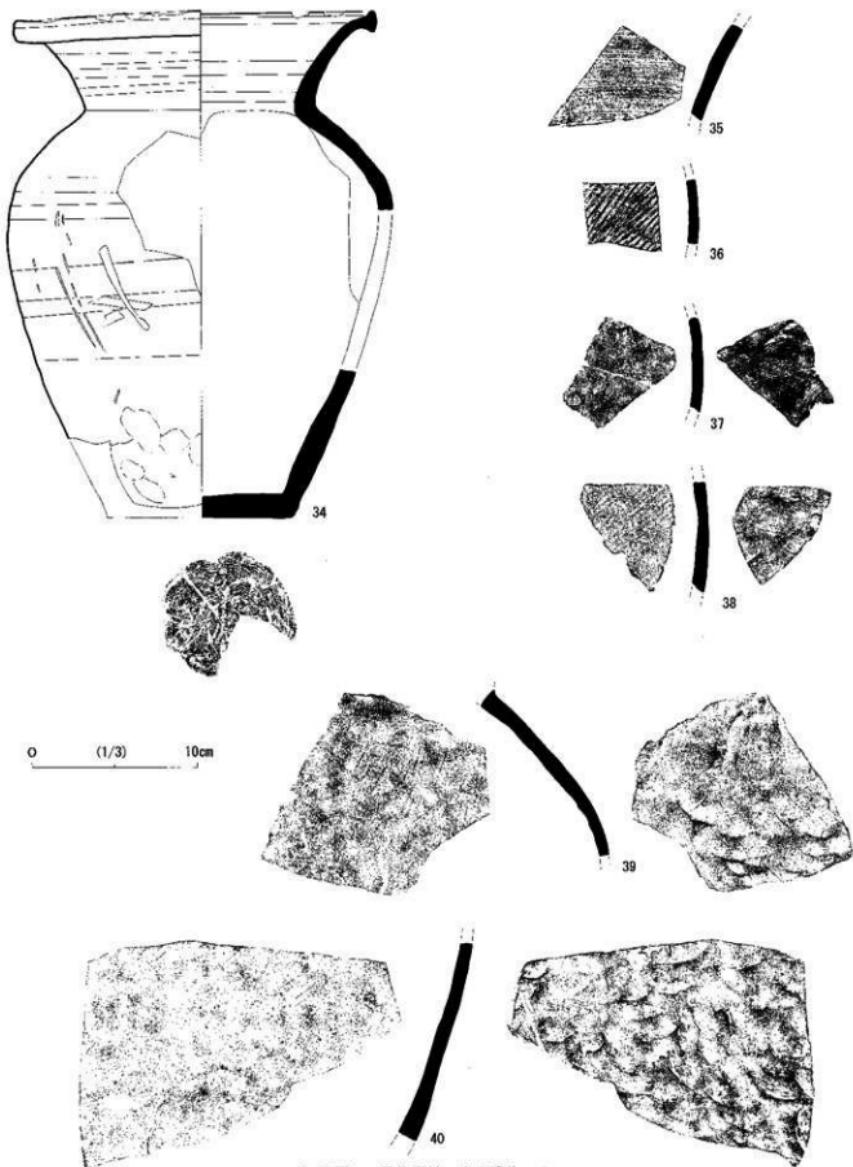


第33圖 7號住居址 出土遺物—1—

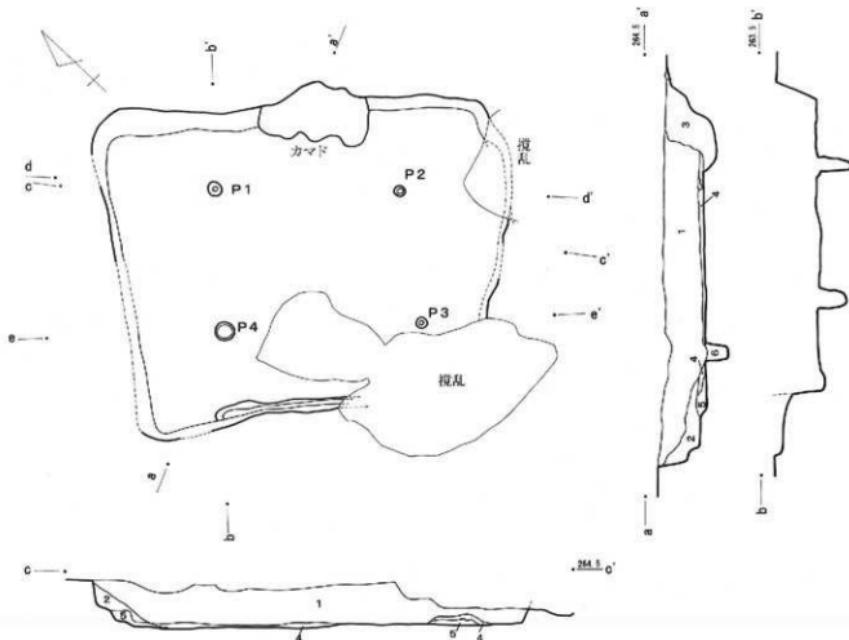


0 (1/3) 10cm

第34圖 7號住居址 出土遺物—2—

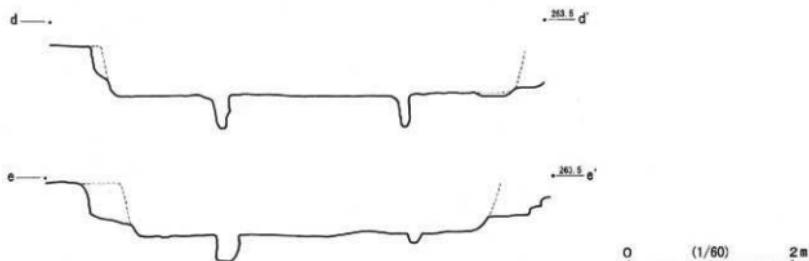


第35圖 7号住居址 出土遺物—3—

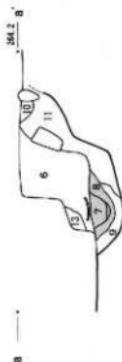
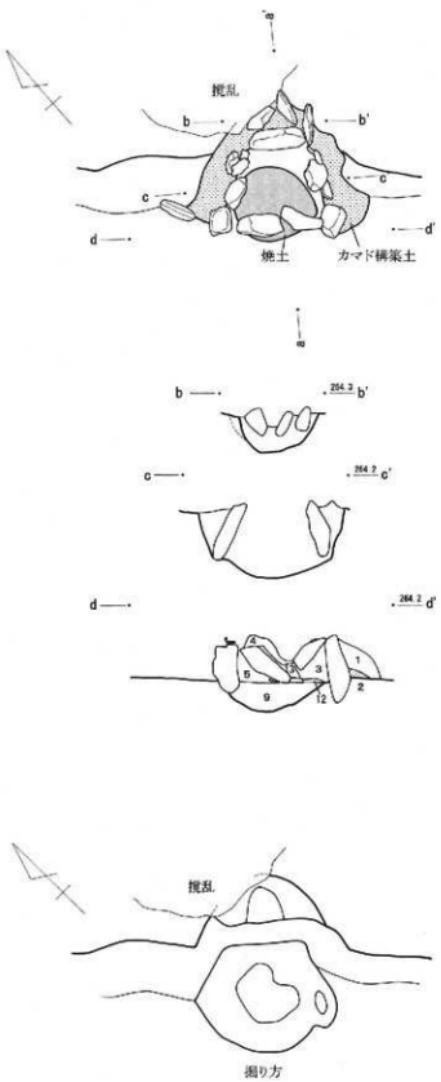


8号住居址土層

- 1 暗褐色土 粘性弱く、縫まりやや強い。橙色・黒色スコリア多い。焼土粒・炭粒やや多い。
- 2 黒褐色土 粘性やや強く、縫まり弱い。黒色スコリア、焼土粒・炭粒・褐色土やや多い。
- 3 カマド覆土
- 4 暗褐色土 粘性弱く、縫まりやや強い。軟質の旋土層。炭化材(3cm以下)多い。
- 5 暗褐色土 粘性、縫まり弱い。炭粒やや多い。
- 6 P-4 覆土



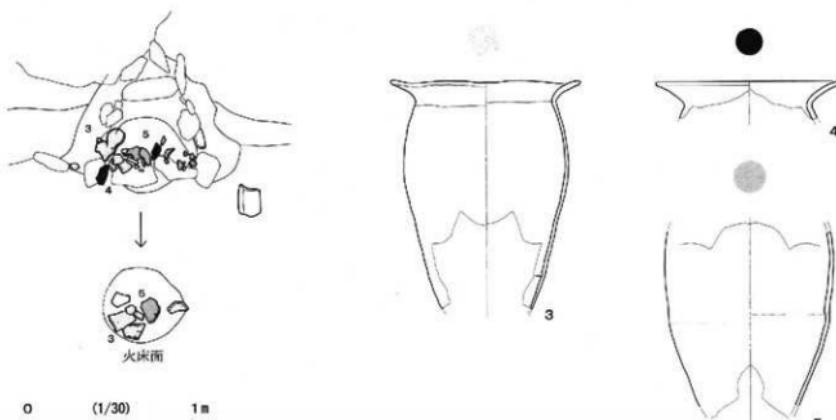
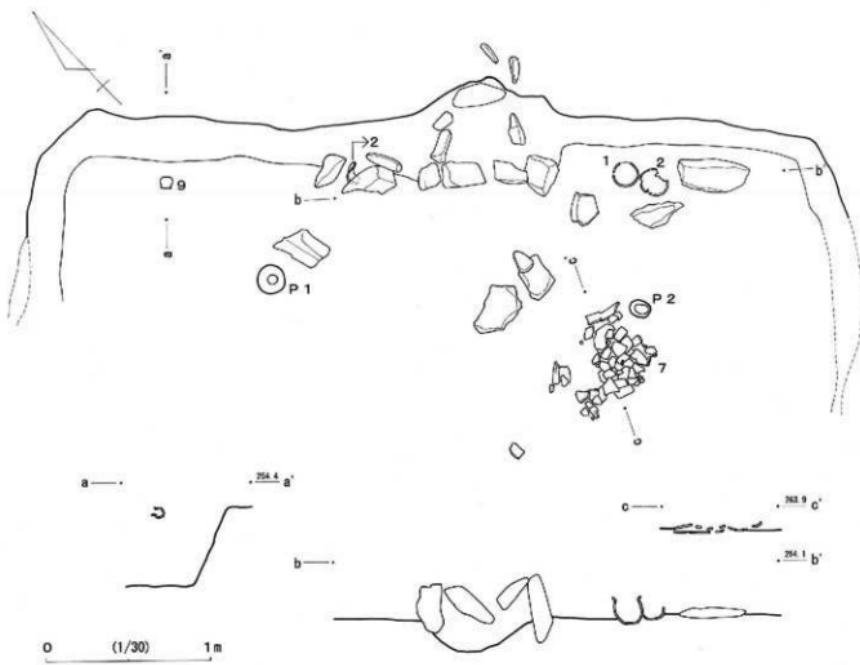
第36図 8号住居址



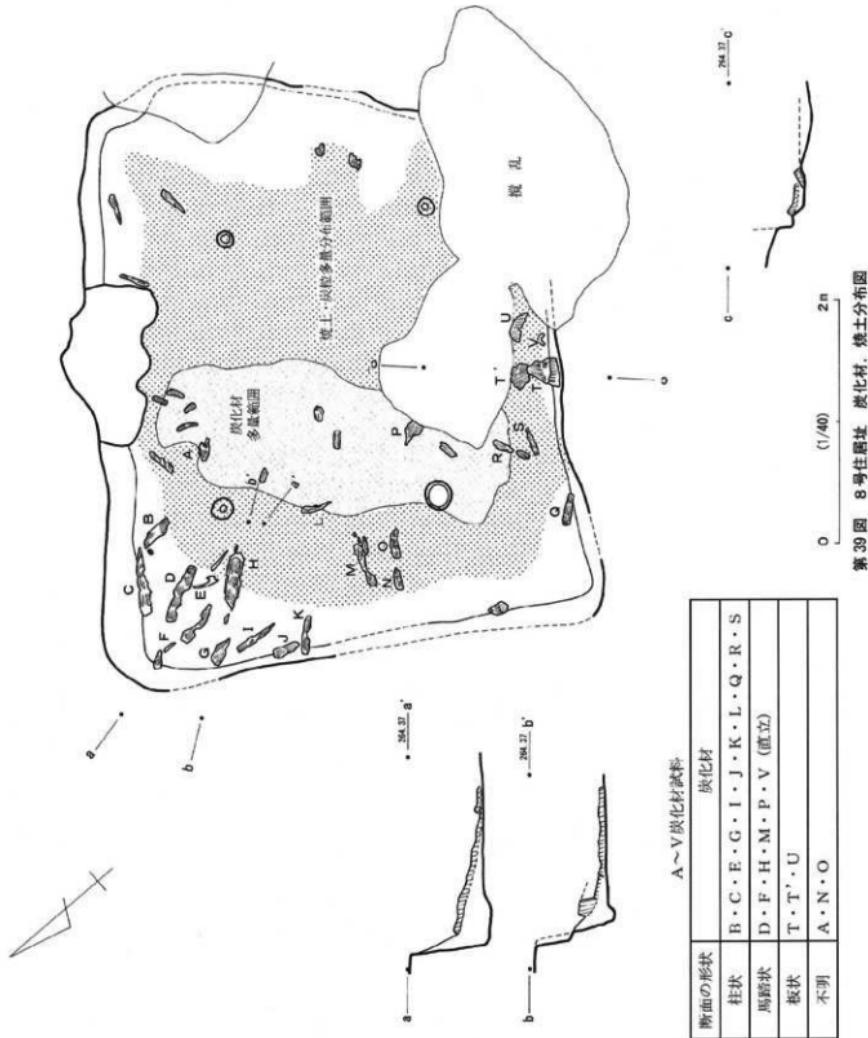
カマド土層

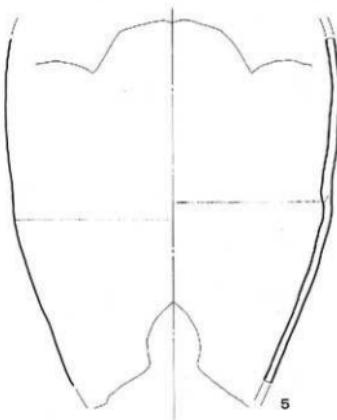
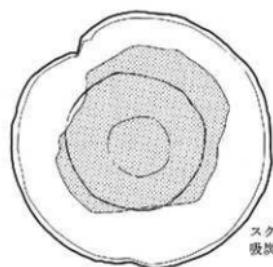
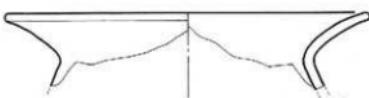
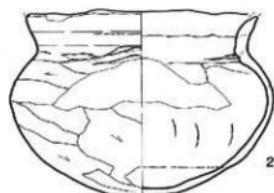
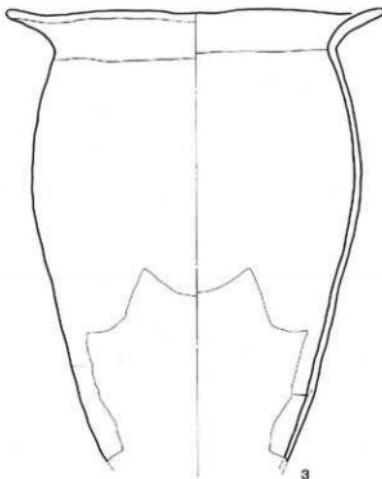
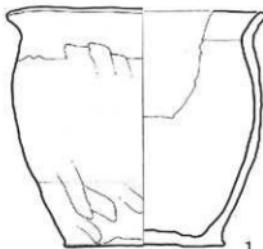
- 1 暗褐色土 粘性、締まり弱い。焼土粒・炭粒・炭化材(1cm)・白色粘土粒や多い。
- 2 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。白色粘土粒多い。焼土粒や少ない。袖部。
- 3 暗褐色土 第1層と同質だが、白色粘土粒・焼土粒多い。
- 4 にぶい褐色土 粘性、締まり弱い。白色粘土粒・焼土粒・炭粒多い。
- 5 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。焼土粒・炭粒や多い。
- 6 暗褐色土 粘性、締まり弱い。熱感バサバサ。焼土粒・炭粒多い。小石(1cm以下)少。
- 7 棕色土 粘性強く、締まり弱い。軟質の焼土。下面是鮮やかな橙色を呈し、硬い。
- 8 にぶい褐色土 第7層と第9層の混合。
- 9 にぶい褐色土 粘性、締まり弱い。粒子が粗く、触感ざらつく。
- 10 暗褐色土 粘性弱く、締まり強い。白色粘土粒・焼土粒・炭粒多い。
- 11 暗褐色土 粘性弱く、締まり強い。焼土粒・炭粒多い。白色粘土粒少。
- 12 棕色土 軟質の泥土。暗褐色土粒が混じる。
- 13 白色粘土

第37図 8号住居址 カマド



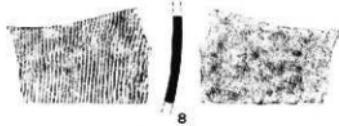
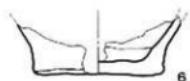
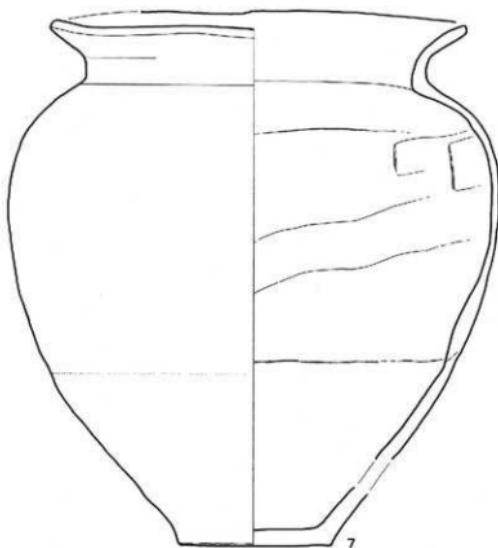
第38圖 8號住居址 遺物分布圖





0 (1/3) 10cm

第40図 8号住居址 出土遺物-1-



8

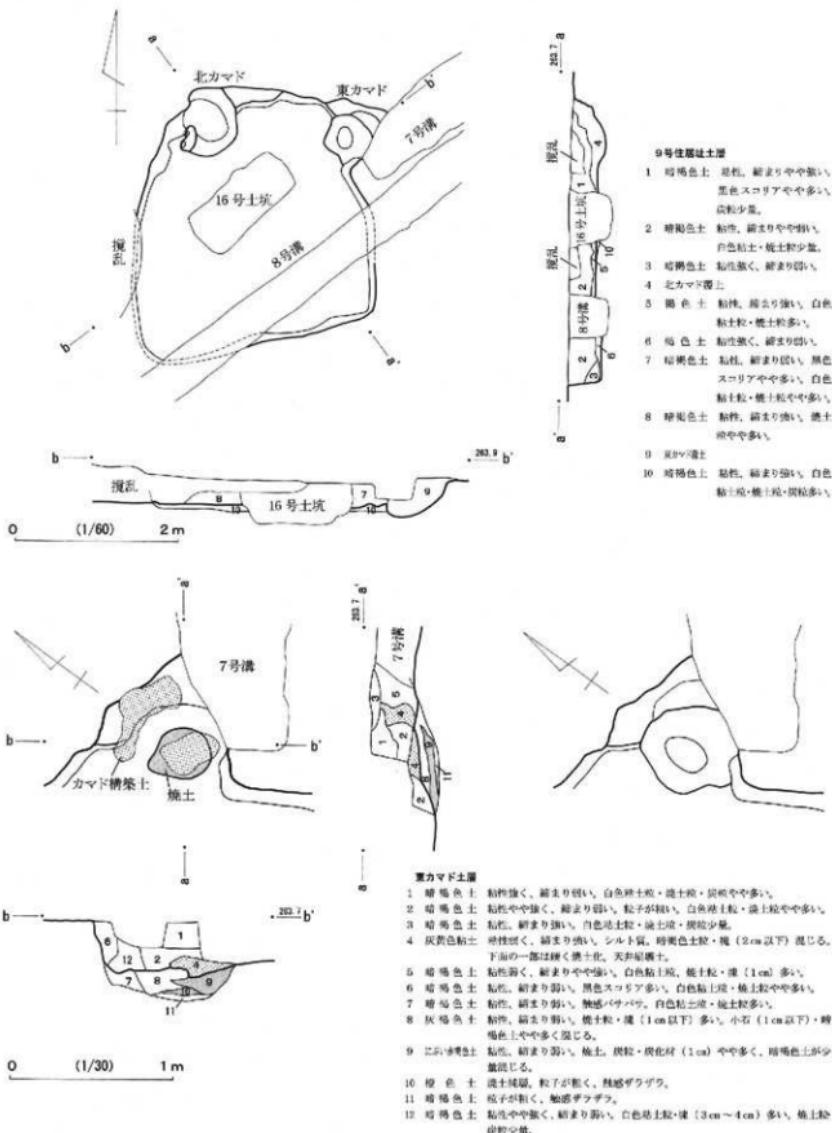


9

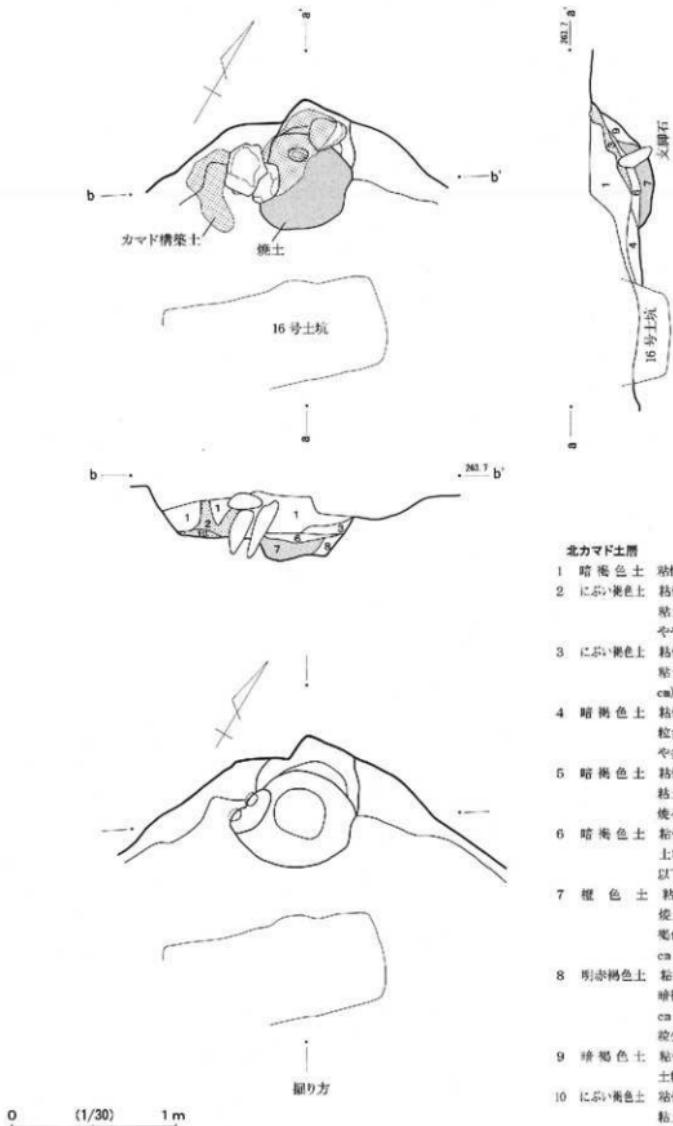


0 (1/3) 10cm

第 41 図 8 号住居址 出土遺物 - 2 -



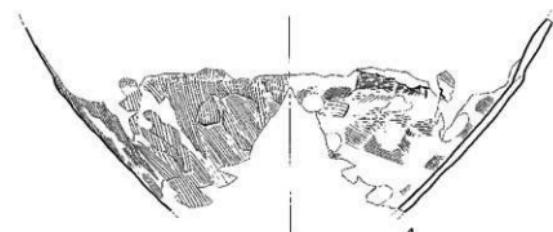
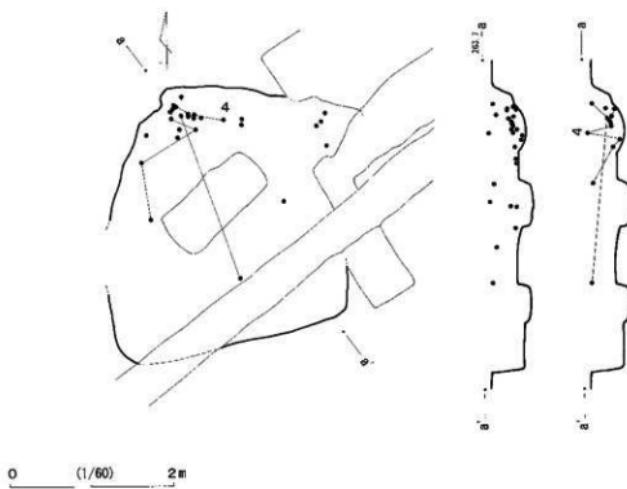
第42図 9号住居址、東カマド



北力マド土層

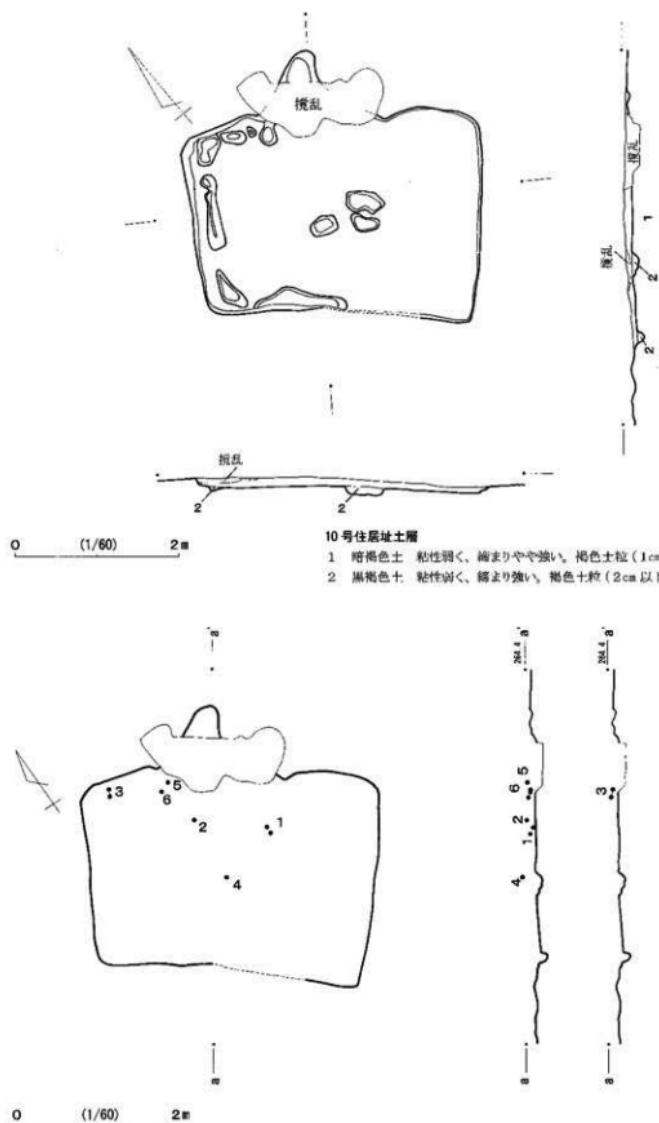
- 1 暗褐色土 粘性、締まり強い。酸化鉄粒多い。
- 2 にぶい褐色土 粘性強く、締まり弱い。黄白色粘土粒多い。小石(2cm以下)やや多い。
- 3 にぶい褐色土 粘性強く、締まり弱い。黄白色粘土粒、燒土粒・塊(1cm~2cm)多い。
- 4 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。酸化鉄粒多い。黄白色粘土粒・炭粒やや多い。
- 5 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。黄白色粘土粒・焼土粒・炭粒多い。燒石(3cm以下)多い。
- 6 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。燒土粒多い。炭粒・炭化材(2cm以下)やや多い。
- 7 標色土 粘性非常に強く、締まり弱い。燒土。燒土塊(1cm以下)・暗褐色土塊(2cm以下)・小石(1cm~3cm)やや多く混じる。炭粒少量。
- 8 明赤褐色土 粘性強く、締まり弱い。燒土。暗褐色土塊(1cm以下)・小石(1cm~3cm)やや多く混じる。炭粒少量。
- 9 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。燒土粒・炭粒・小石やや多い。
- 10 にぶい褐色土 粘性、締まりやや強い。黄白色粘土粒・燒土粒多い。

第43図 9号住居址 北力マド

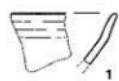


0 (1/3) 10cm

第44圖 9號住居址 遺物接合圖、出土遺物



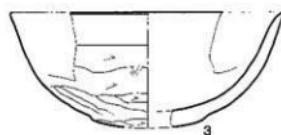
第45図 10号住居址、遺物分布図



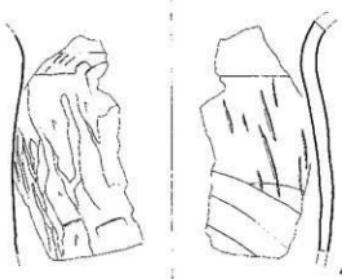
1



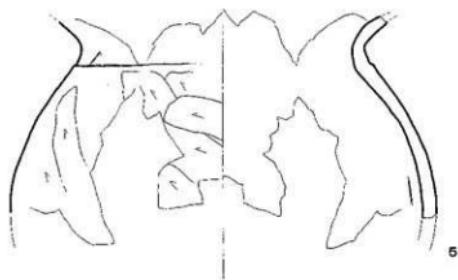
2



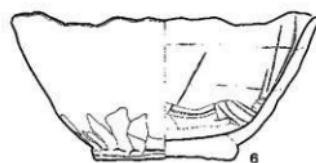
3



4



5

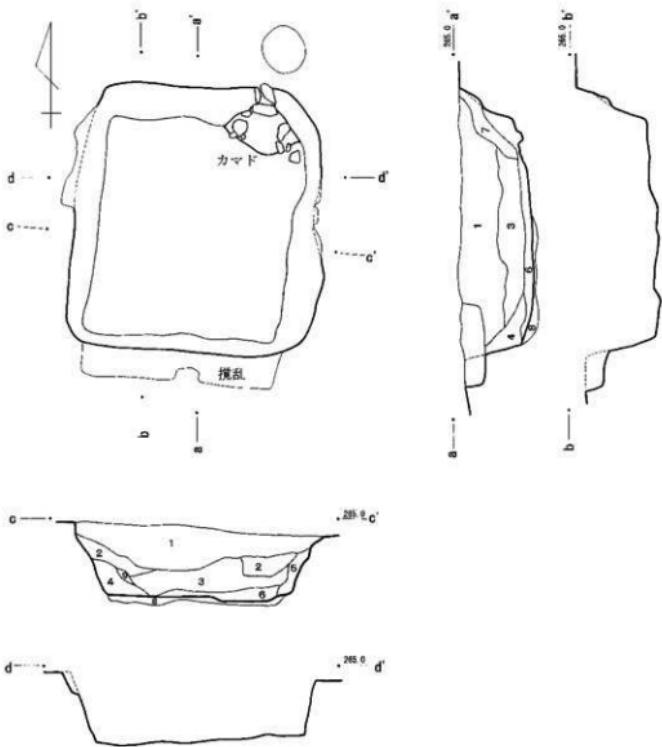


6

0 (1/3) 10cm



第46図 10号住居址 出土遺物

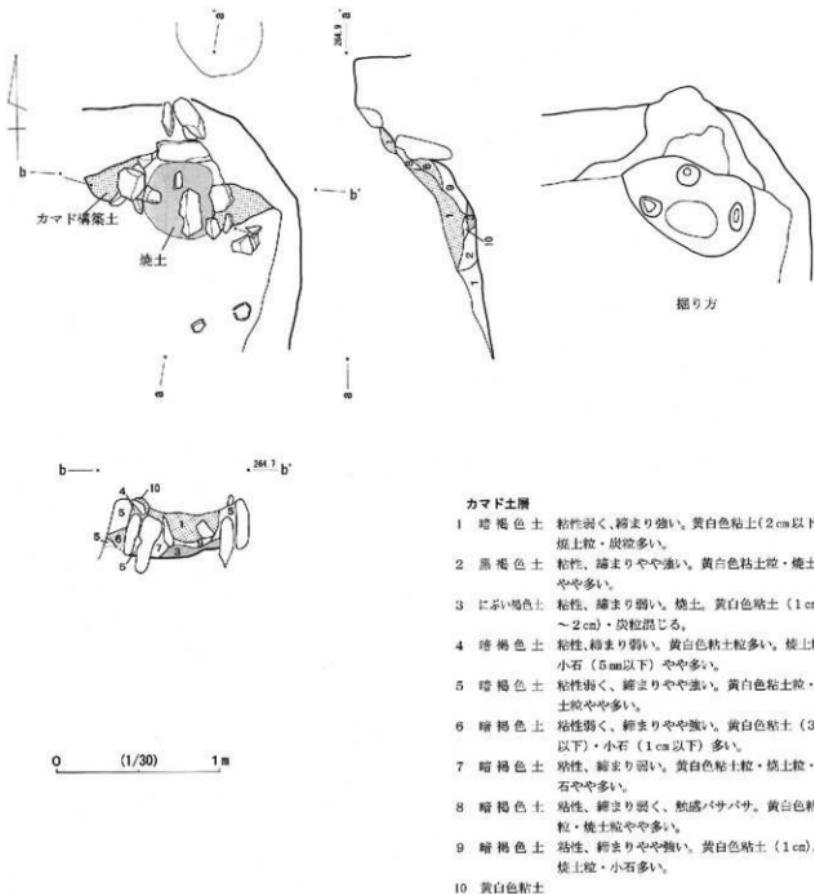


11号住居址土層

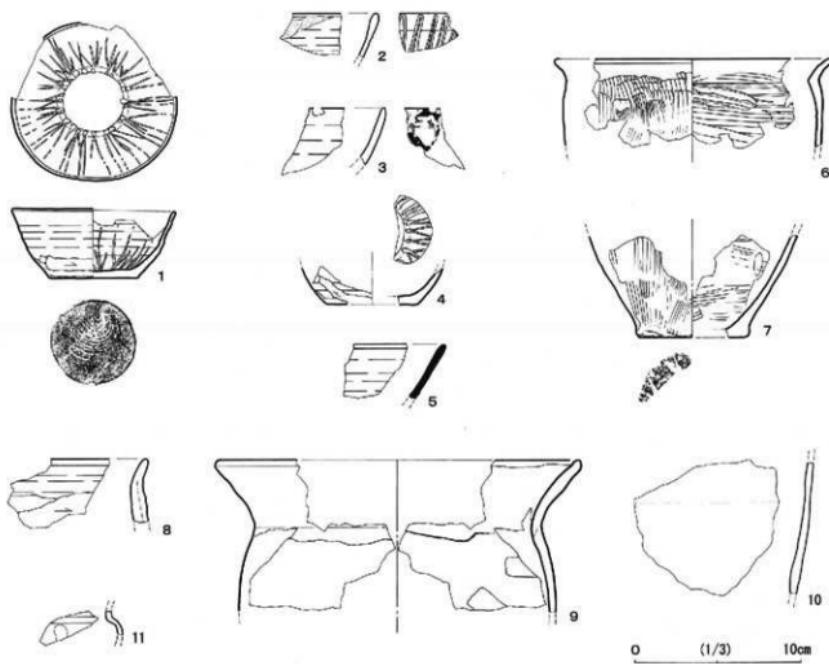
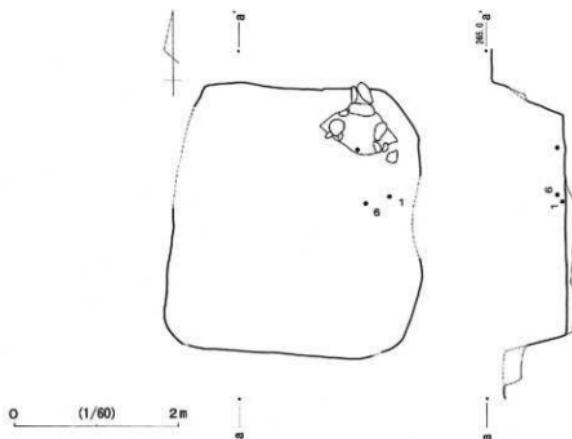
- 1 喷褐色土 粘性、締まり弱い。黒色・橙色スコリア多い。
- 2 暗褐色土 第1層を基層に褐色土粒（1cm以下）やや多い。
- 3 暗褐色土 粘性、締まり弱い。焼土粒・炭粒・褐色上粒（1cm以下）やや多い。
- 4 褐色土 粘性、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。
- 5 褐色土 粘性弱く、締まり強い。
- 6 喷褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。炭化材（1cm）、褐色土粒やや多い。燒土粒・炭粒少量。
- 7 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。褐色スコリア・褐色上粒少量。
- 8 暗褐色土 粘性弱く、締まり強い。硬質ローム塊多い。貼り床。
- 9 黄褐色土 吹質の焼土。

0 (1/60) 2m

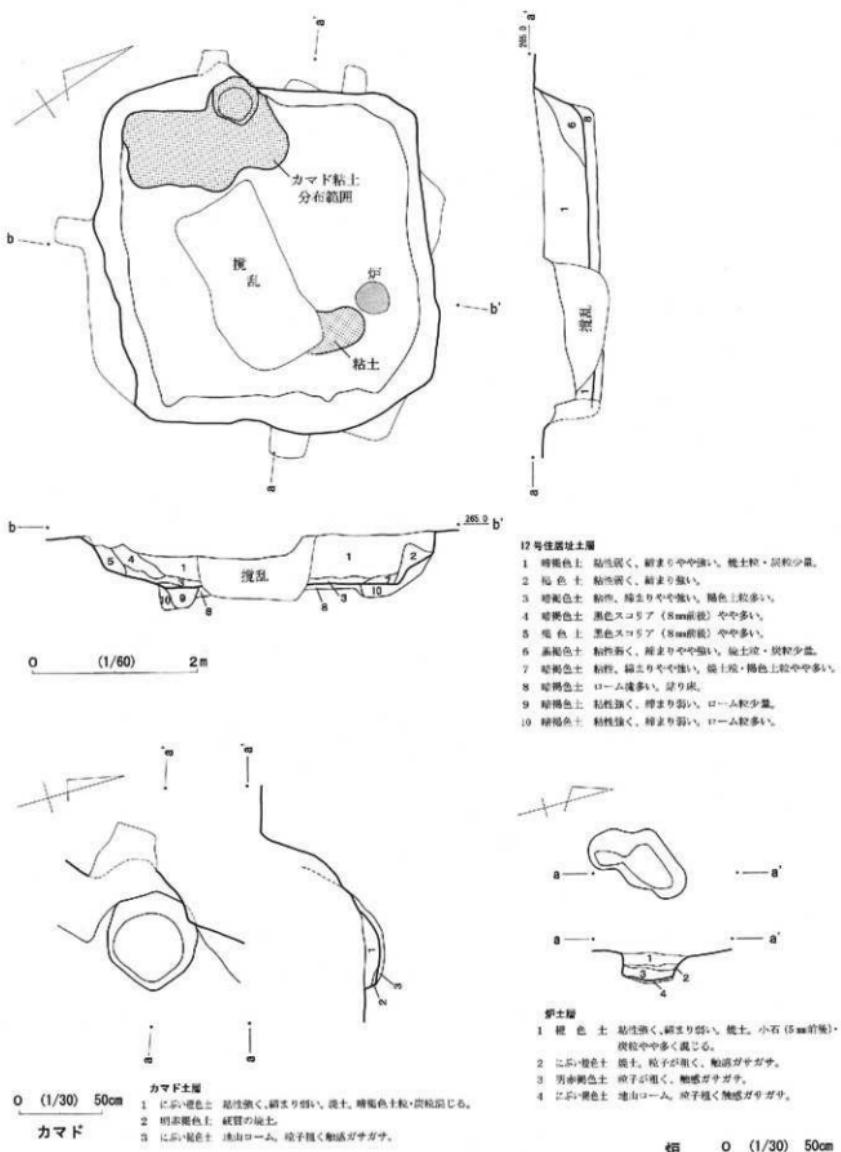
第47図 11号住居址



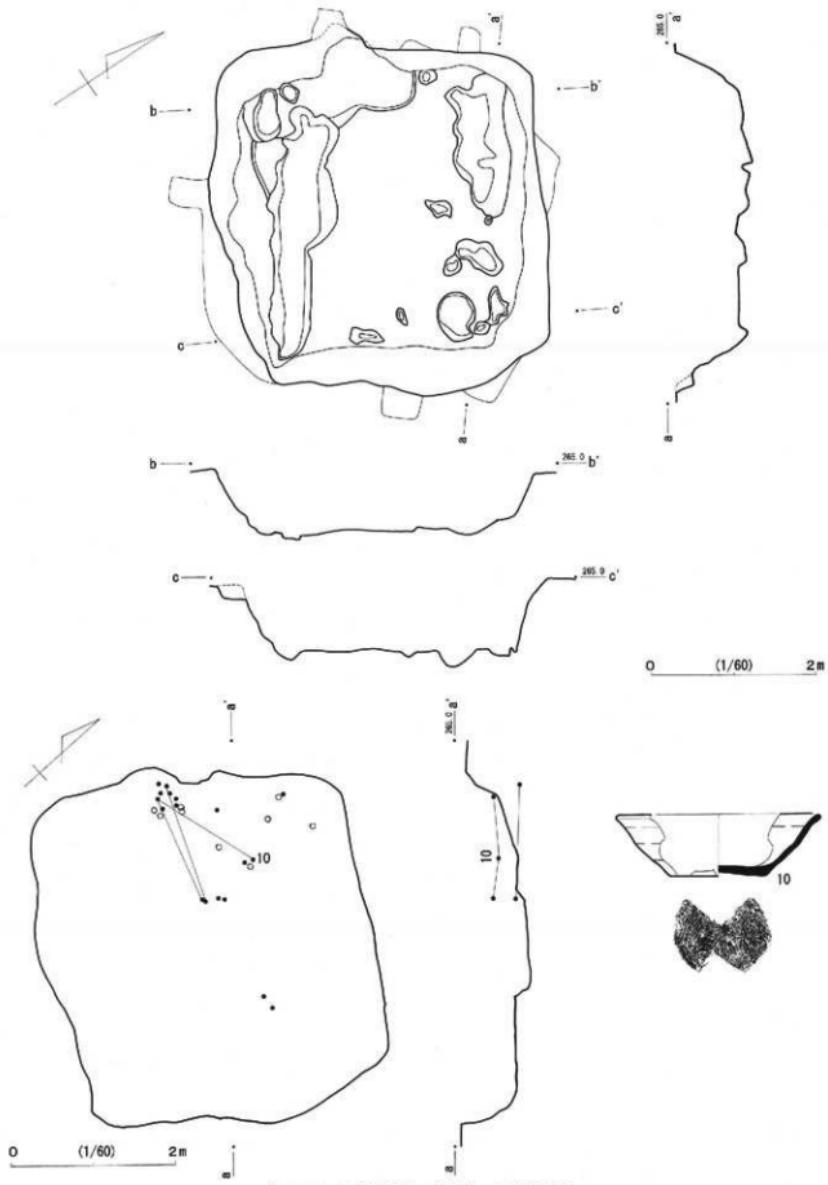
第48図 11号住居址 カマド



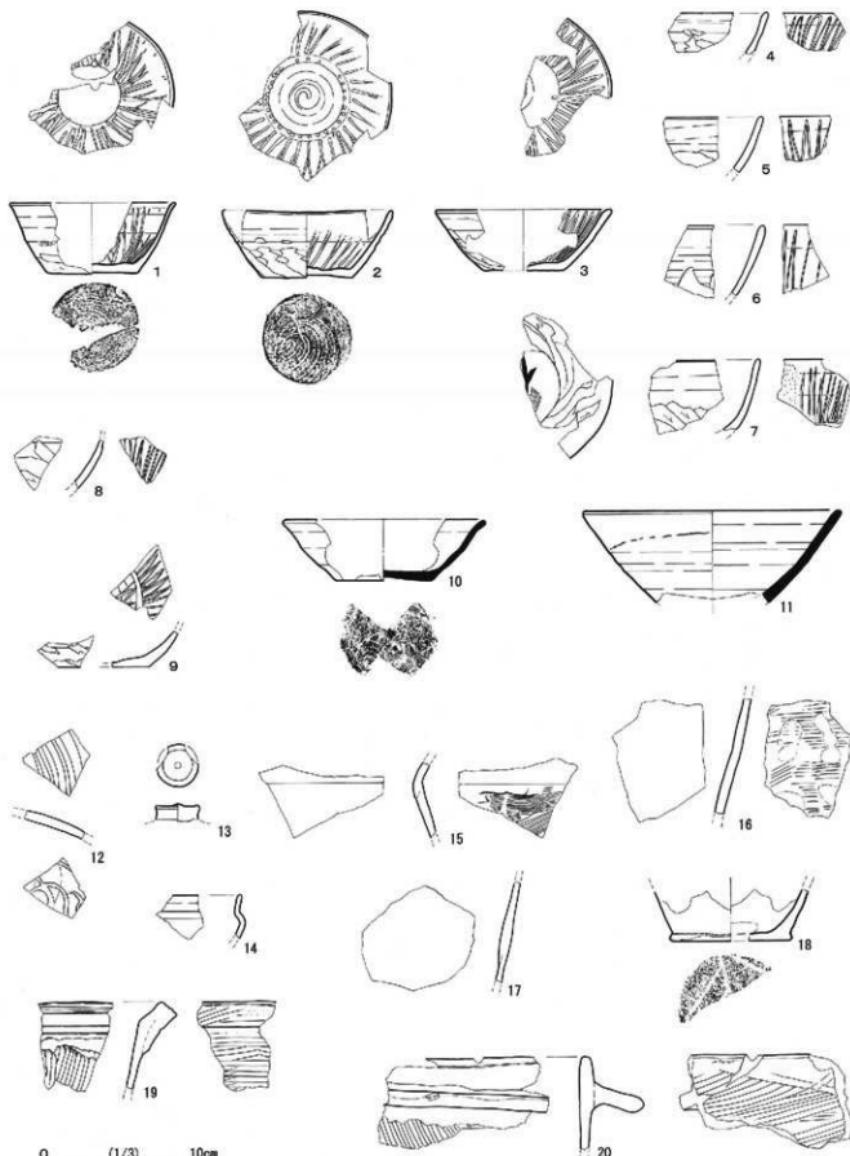
第49圖 11号住居址 遺物分布図、出土遺物



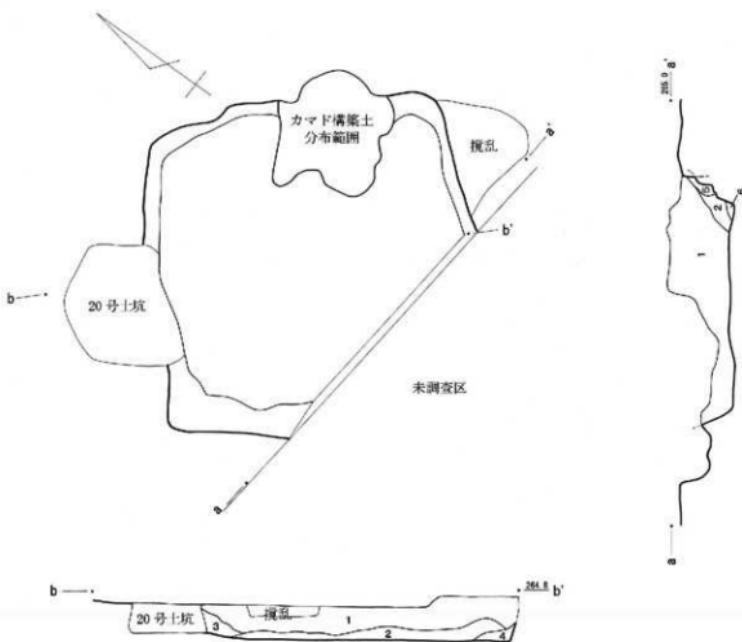
第50図 12号住址 カマド, 炉



第51図 12号住居址 掘り方、遺物接合図



第52図 12号住居址 出土遺物

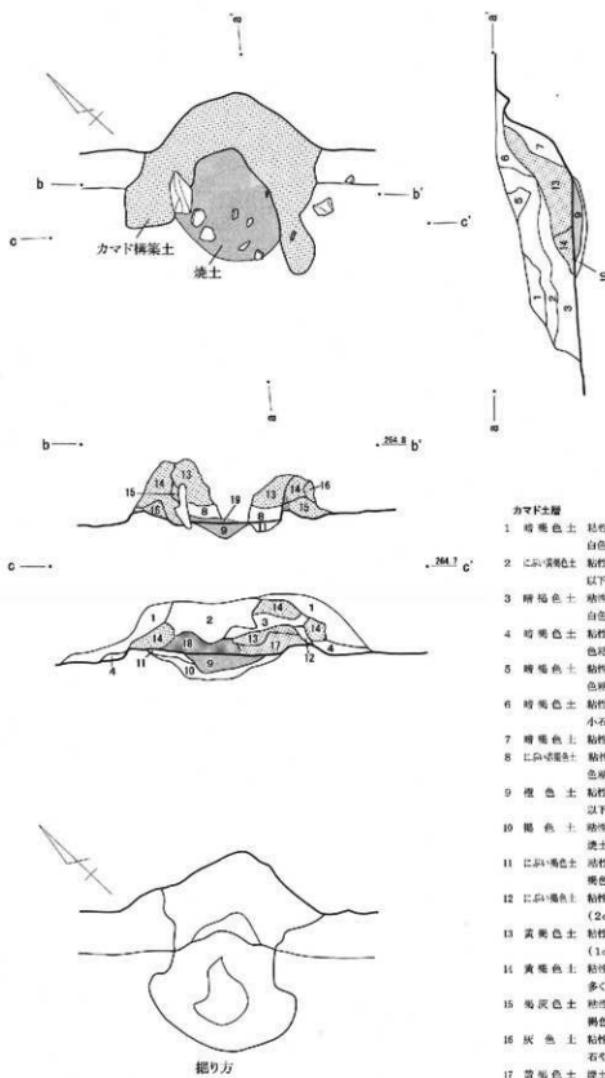


13号住居址土層

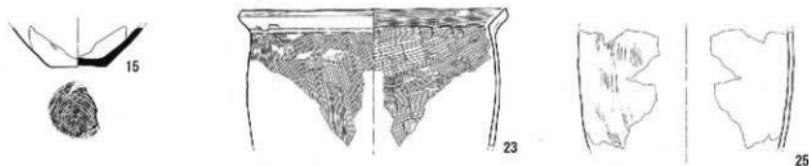
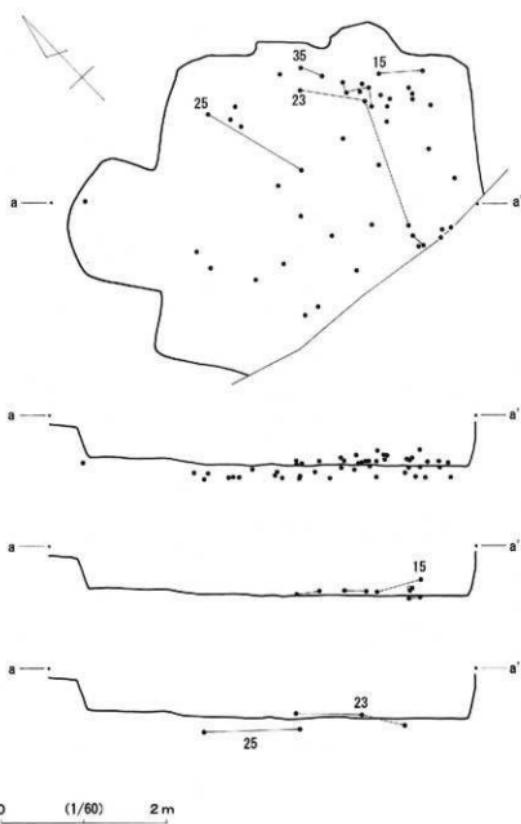
- 1 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。燒土粒・炭粒・灰色粘土塊（2cm～3cm）少量。
- 2 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。燒土粒・炭粒・黄白色粘土粒や多い。
- 3 黒色土 粘性強く、縮まり弱い。燒土粒・黄白色粘土粒少量。
- 4 暗褐色土 粘性、縮まり弱い。燒土粒・黄白色粘土粒少量。
- 5 暗褐色土 縮まり強い。褐色土塊多い。
- 6 暗褐色土 烧土粒や多い。

0 (1/60) 2m

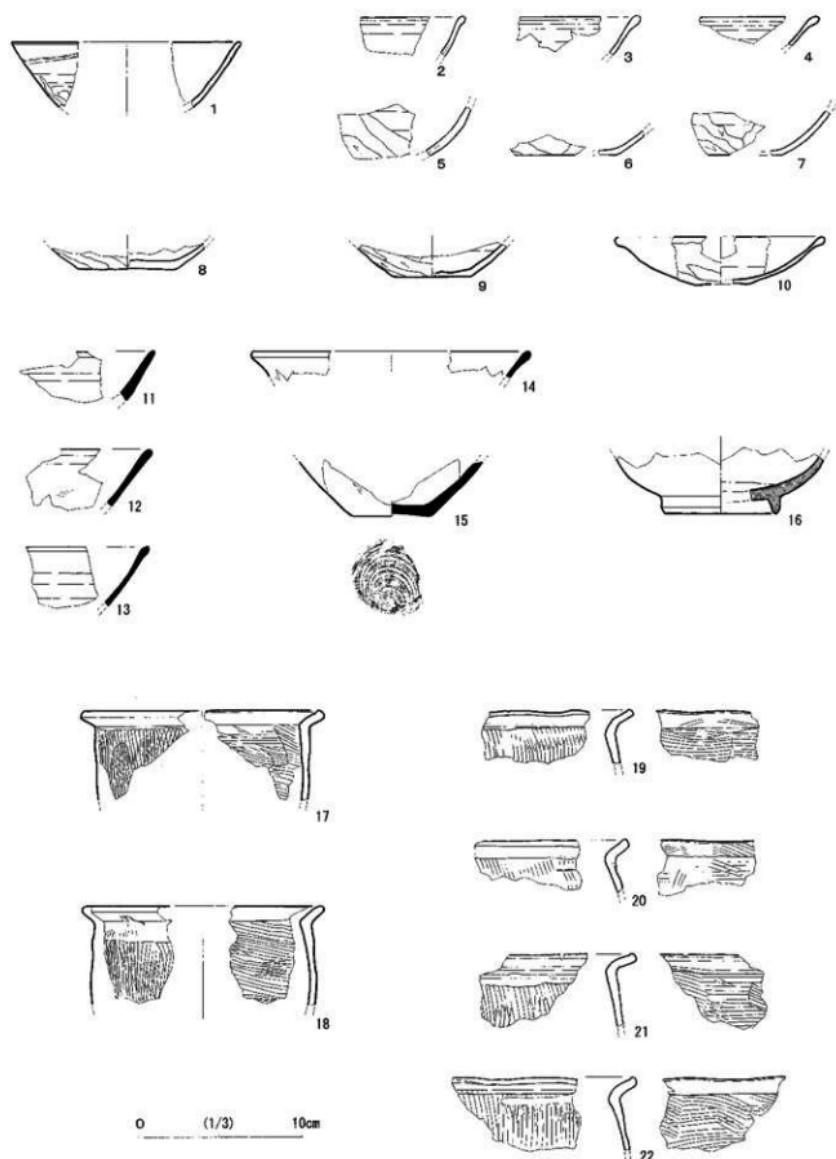
第53図 13号住居址



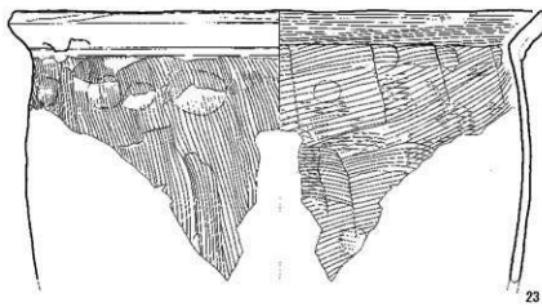
第54図 13号住居址 カマド



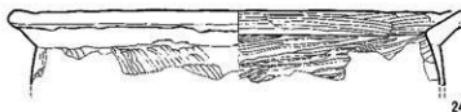
第 55 図 13 号住居址 遺物分布 接合図



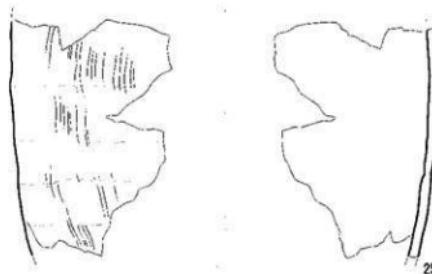
第 56 図 13 号住居址 出土遺物 - 1 -



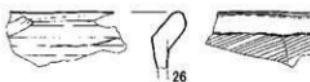
23



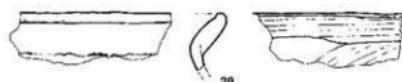
24



25



26



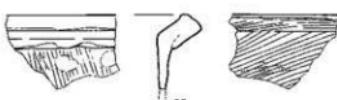
29



27



0 (1/3) 10cm



28



31

第57圖 13號住居址 出土遺物—2—



32



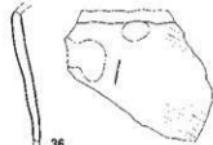
33



34



35



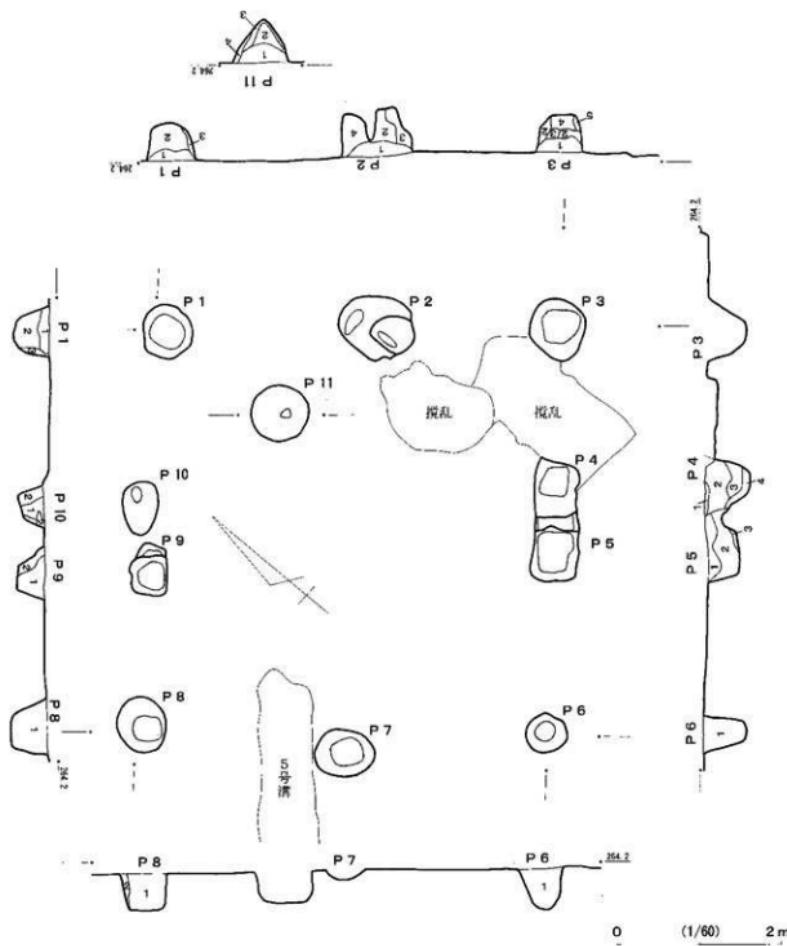
36



37

0 (1/3) 10cm

第58図 13号住居址 出土遺物-3-



第 59 図 1号掘立柱建物址

1号標立柱建物址土層

P 1

- 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。黒色・橙色スコリアやや多い。炭粒少量。

- 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。

- 褐色土 粘性強く、締まり弱い。

P 2

- 暗褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。褐色上塊（10cm以下）含む。焼土粒・炭粒多い。

- 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。焼土粒少量。

- 褐色土 粘性、締まり弱い。地山の褐色土と暗褐色土が斑状に混じる。

- 暗褐色土

P 3

- 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黒色・橙色スコリア・炭粒やや多い。

- 褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。

- 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。

- 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。

- 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。褐色土粒多い。

P 4

- 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。褐色土粒多い。黒色スコリアやや多い。

- 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。黒色スコリアやや多い。

- 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。褐色土（1～2cm）やや多い。

- 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。褐色土が斑状に混じる。

P 5

- 暗褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。褐色土（1～3cm）、黒色・橙色スコリアやや多い。

- 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。

- 褐色土 粘性、締まりやや強い。

P 6

- 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。黒色・橙色スコリア多い。

P 8

- 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。黒色・橙色スコリア多い。褐色土（1～2cm）・焼土粒少量。

- 褐色土 粘性強く、締まり弱い。暗褐色土が斑状に混じる。

P 9・P 10

- 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。

- 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。褐色土・黒色スコリア多い。

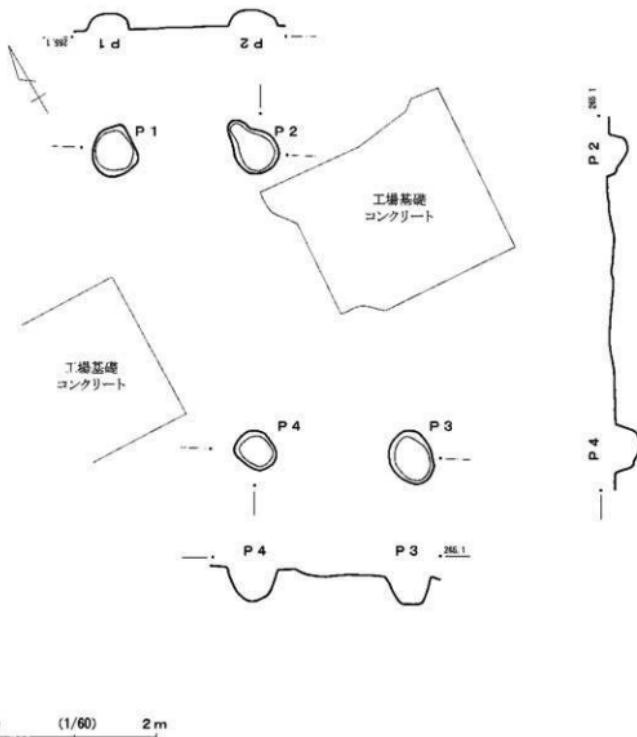
P 11

- 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。炭粒少量。

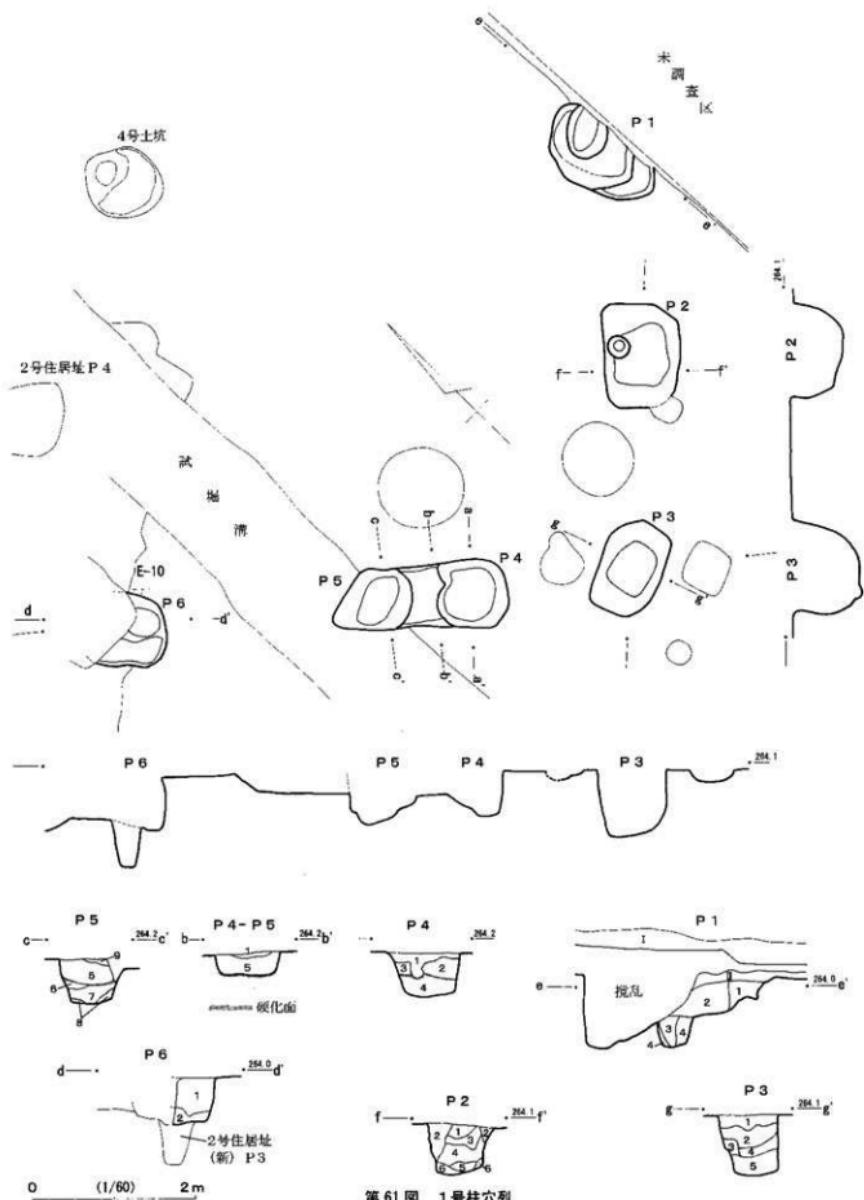
- 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。

- 暗褐色土 粘性、締まり弱い。

- 褐色土 粘性、締まり弱い。



第60図 2号掘立柱建物址



第 61 圖 1号柱穴列

1号柱穴列土層

P 1

- 1 暗褐色土 粘性弱く、締まりやや強い。焼上粒・炭粒少量。
- 2 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。褐色土（1cm以下）やや多い。焼上粒・炭粒少量。
- 3 暗褐色土 粘性やや強い。締まりなく、触感サラサラ。褐色土粒多い。柱痕。
- 4 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。

P 2

- 1 暗褐色土 粘性、締まり弱い。褐色土（1cm以下）・黒色スコリアやや多い。焼土粒少量。
- 2 暗褐色土 第1層を灰調に大粒（5mm）の黒色スコリア多い。
- 3 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。第1層を灰調に褐色ローム土（2cm以下）多く含む。
- 4 黒褐色土 粘性強く、締まり弱い。褐色ローム土（1cm以下）少量。
- 5 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。褐色ローム土が斑状に混じる。
- 6 褐色土 粘性強く、締まり弱い。

P 3

- 1 暗褐色土 粘性、締まり弱い。黒色スコリア多い。褐色土（2cm以下）少量。
- 2 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア・褐色土（2cm以下）多い。
- 3 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。褐色土（2cm以下）少量。
- 4 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。
- 5 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。褐色土（4cm以下）多い。黒色スコリアやや多い。

P 4・P 5

- 1 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア多い。橙色スコリア少量。
- 2 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア・褐色土（1cm～3cm）多い。
- 3 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。黒色スコリアやや多い。
- 4 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。本層上面は硬く締まる。黒色スコリアやや多い。
- 5 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア・褐色土（1cm以下）やや多い。
- 6 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。本層上面は硬く締まる。
- 7 暗褐色土 粘性強く、締まり弱い。本層上面は硬く締まる。
- 8 褐色土 粘性強く、締まり弱い。暗褐色土（1cm～3cm）含む。
- 9 黄褐色土 硬質のローム塊。

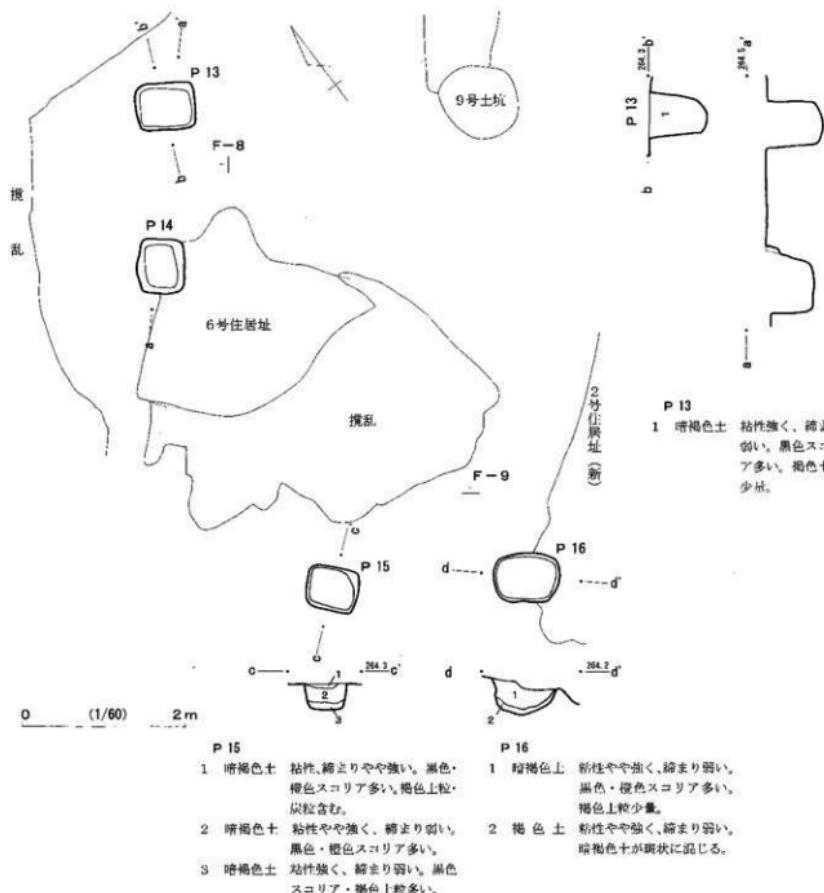
P 6

- 1 暗褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。黒色・橙色スコリアやや多い。
- 2 褐色土 粘性強く、締まり弱い。褐色ローム土多い。

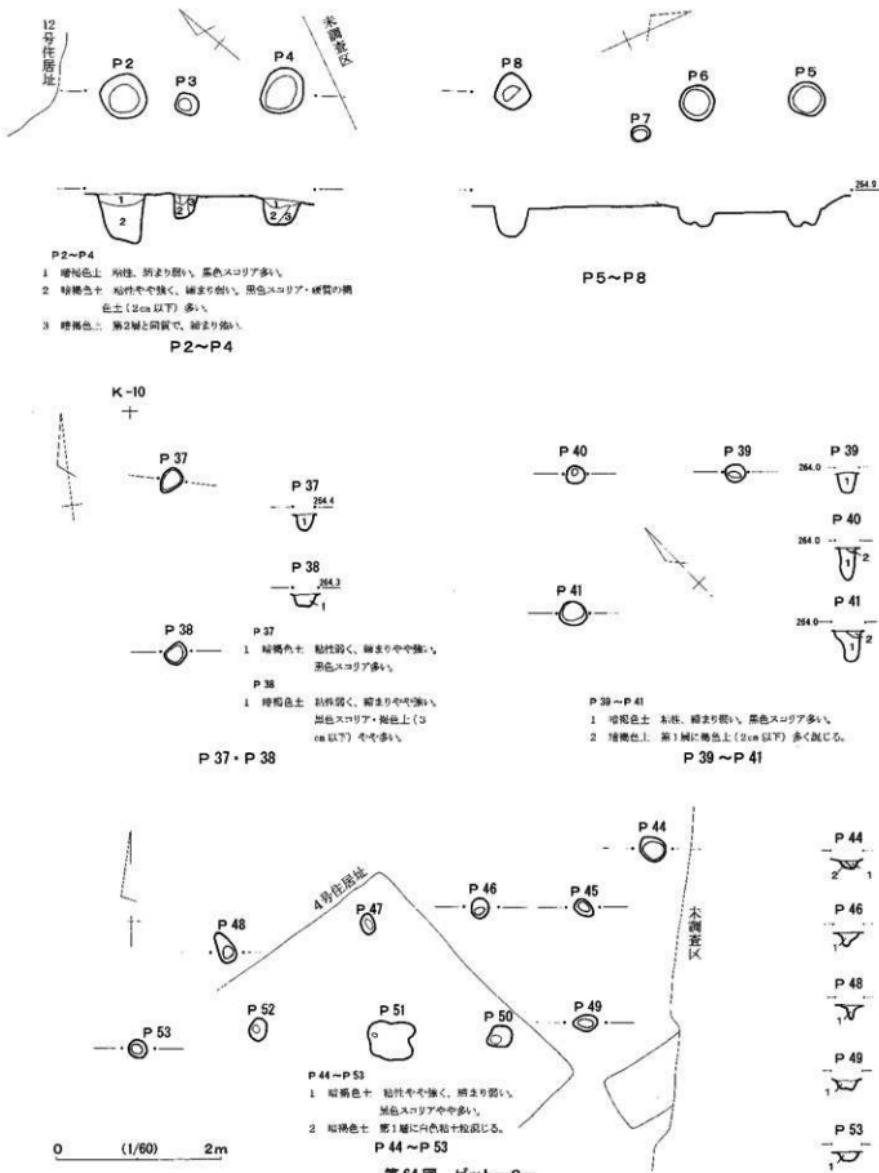


第62図 1号柱穴列 出土遺物

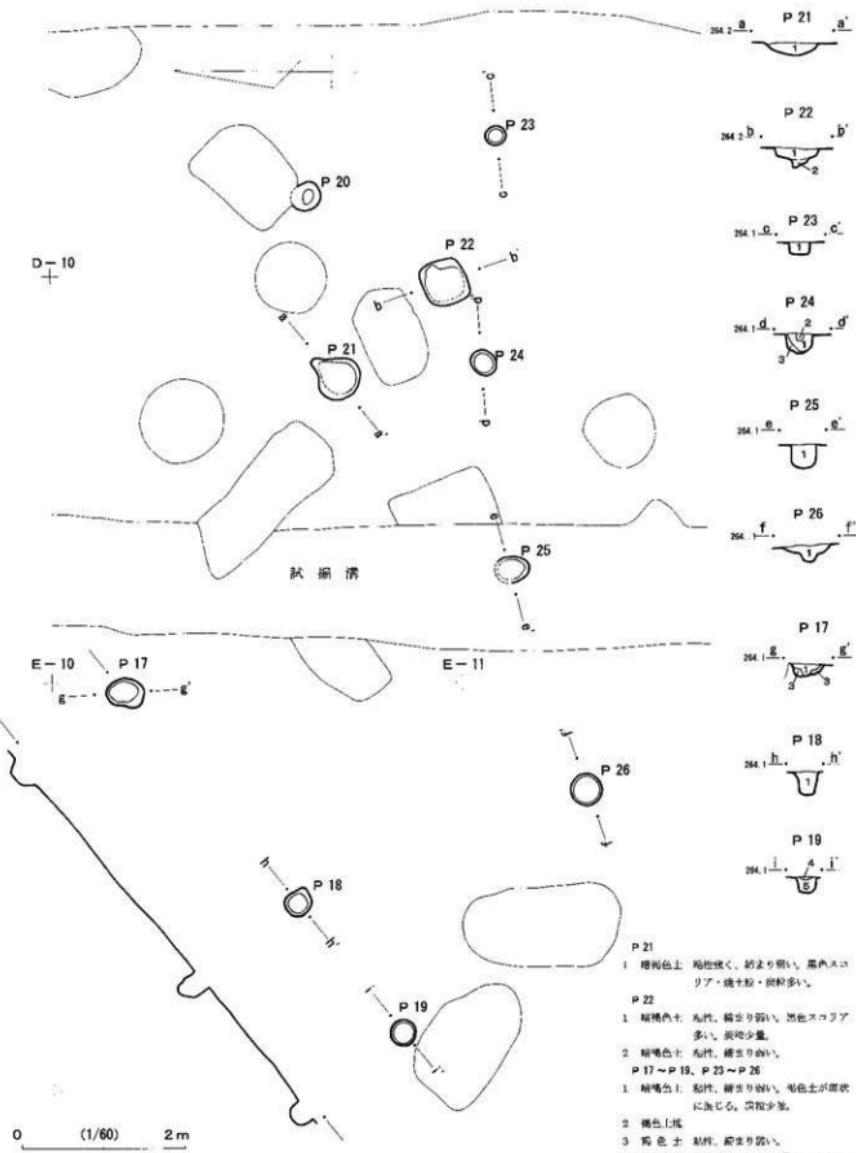
0 (1/3) 10cm



第63図 ピットー1-

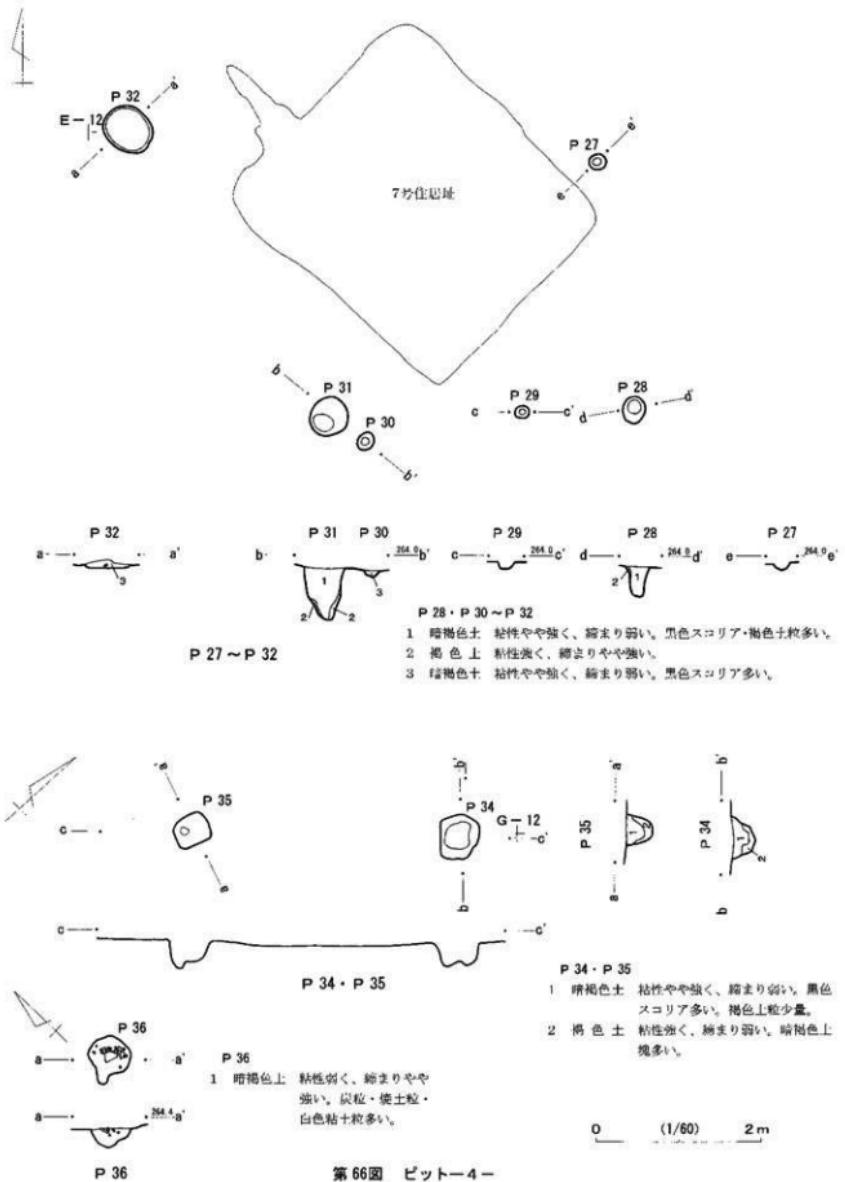


第64図 ピット-2-

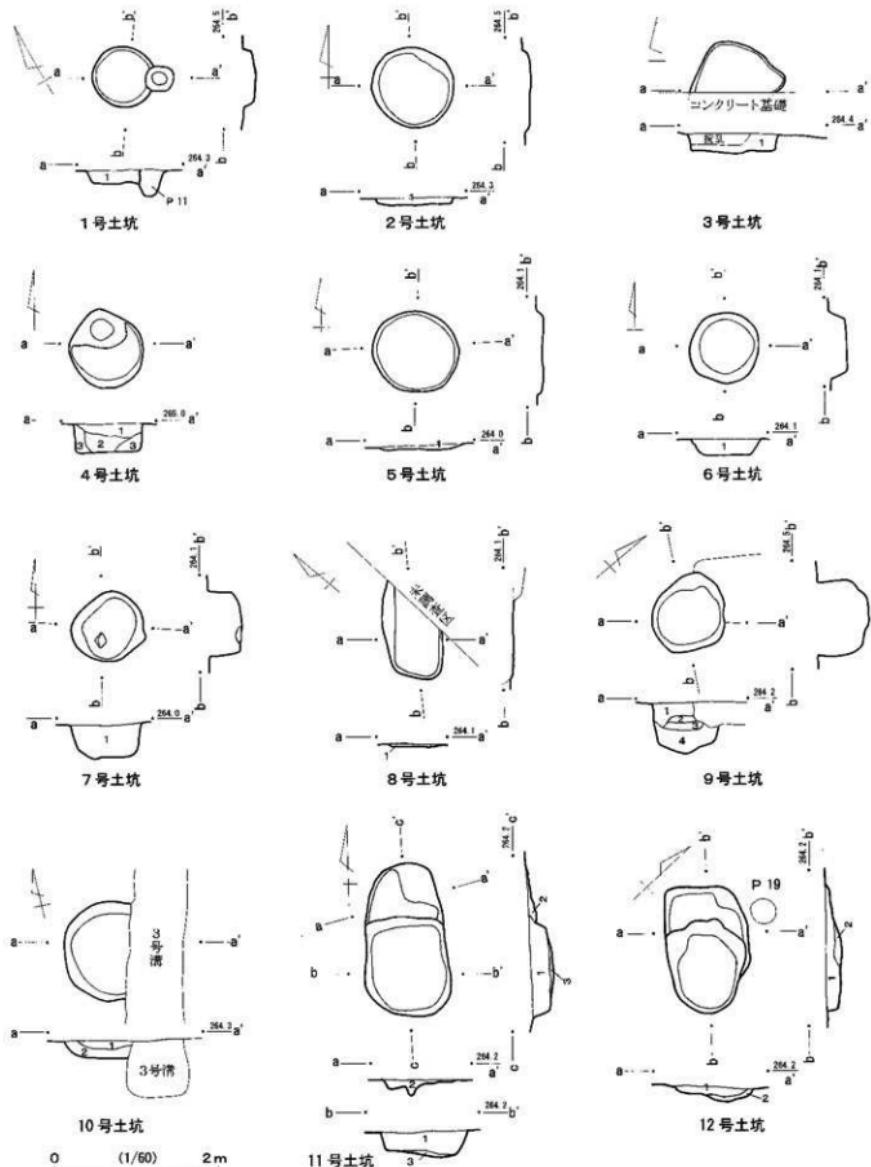


第65図 ピット-3-

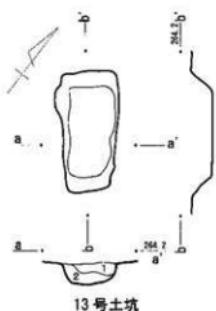
1. 墓色土：粘性低く、含水量多く、黑色スコラブリア、塊状・塊状多く。
2. 墓色土：粘性、含水量多い。炭化少。
3. 墓色土：粘性、含水量多い。
4. 墓色土：粘性、含水量多い。黑色スコラブリア、塊状・塊状多く。
5. 黑色土：第4層と同質。



第66図 ピット—4—



第 67 圖 土坑-1 -



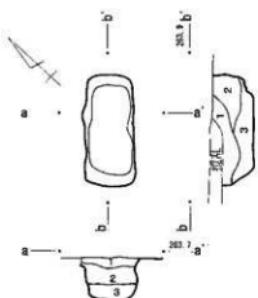
13号土坑



14号土坑



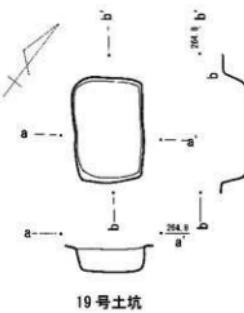
15号土坑



16号土坑



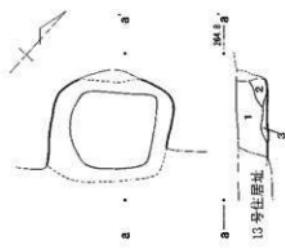
17号土坑



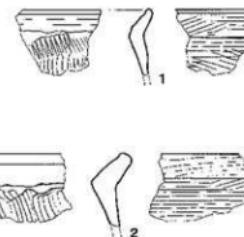
19号土坑



18号土坑



20号土坑



第68图 土坑—2—, 出土遗物

0 (1/60) 2m

0 (1/3) 10cm

1号土坑

1 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。黒色スコリア多い。

2号土坑

1 暗褐色土 粘性・縮まりやや強い。黒色スコリア多い。

3号土坑

1 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。黒色スコリア多い。

4号土坑

1 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。褐色土（2cm以下）・黒色スコリア多い。

2 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。黒色スコリア多い。

3 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。褐色土（2cm以下）多い。

5号土坑

1 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。褐色土（2cm以下）・黒色スコリア多い。

6号土坑

1 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。黒色スコリア多い。

7号土坑

1 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。黒色スコリア多い。

8号土坑

1 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。黒色スコリア多い。

9号土坑

1 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。褐色土粒やや多い。

2 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。褐色土塊（1～2cm）多い。

3 褐色土 粘性・縮まりやや強い。

4 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。褐色土粒・塊やや多い。

10号土坑

1 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。褐色土粒・黒色・橙色スコリアやや多い。炭粒・白色粘土粒少量。

2 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。黒色・橙色スコリアやや多い。炭粒少量。

11号土坑

1 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。黒色スコリア多い。

2 暗褐色土 粘性・縮まり弱い。褐色土・黒色スコリア多い。炭粒少量。

3 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。褐色土・黒色スコリアやや多い。炭粒・焼土粒少量。

12号土坑

1 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。黒色スコリア多い。橙色スコリア・褐色土・炭粒少量。

2 暗褐色土 粘性弱く、縮まりやや強い。黒色スコリア少量。

13号土坑

1 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。褐色土・黒色スコリア多い。燒土粒少量。

2 暗褐色土 1に似るが、褐色土が多く立つ。

14号土坑

1 暗褐色土 粘性弱く、縮まり強い。黒色スコリア多い。炭粒・焼土粒やや多い。褐色土（1～2cm）少量。

15号土坑

1 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。炭粒・焼土粒・白色粘土粒・褐色土（2cm以下）やや多い。黒色スコリア少量。

2 暗褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。黒色スコリアやや多い。

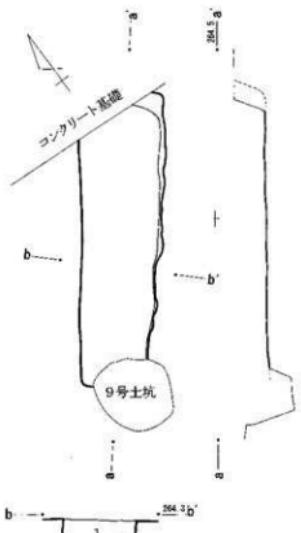
3 暗褐色土 粘性強く、縮まり弱い。褐色土（3cm以下）やや多い。焼土粒・白色粘土粒・黒色スコリア少量。

20号土坑

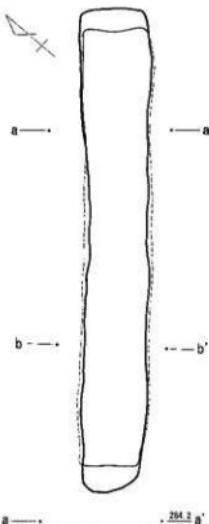
1 暗褐色土 粘性・縮まり弱い。黒色スコリア多い。褐色土粒（1cm以下）やや多い。

2 にぶい褐色土 粘性やや強く、縮まり弱い。黒色スコリアやや多い。

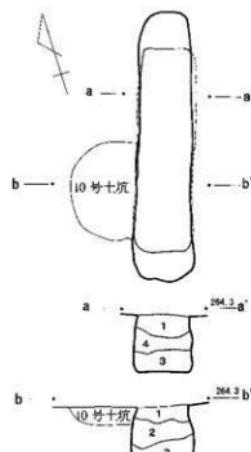
3 にぶい褐色土 粘性やや強く、縮まり強い。



1. 暗褐色土 黄色土(2cm以上)やや多い。
1号溝

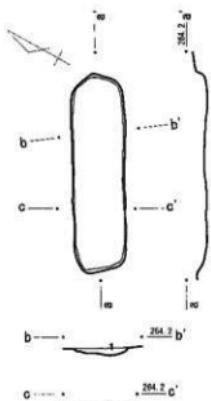


1. 暗褐色土 黄色土(2cm以下)・炭酸
塩・粘土やや多い。
2号溝



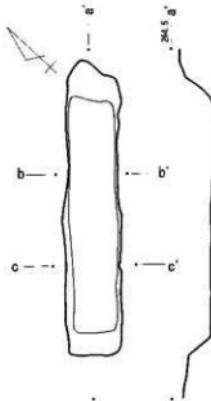
1. 暗褐色土 黄色土(1cm)やや多い。
2. 黑色土 黄色土(3cm以下)多い。
3. 暗褐色土 黄色土(3cm以上)やや多い。
4. 黑色土 黄色土・炭酸少々。

3号溝



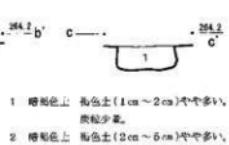
1. 暗褐色土 黄色土(1cm~2cm)少々。
4号溝

0 (1/60) 2m



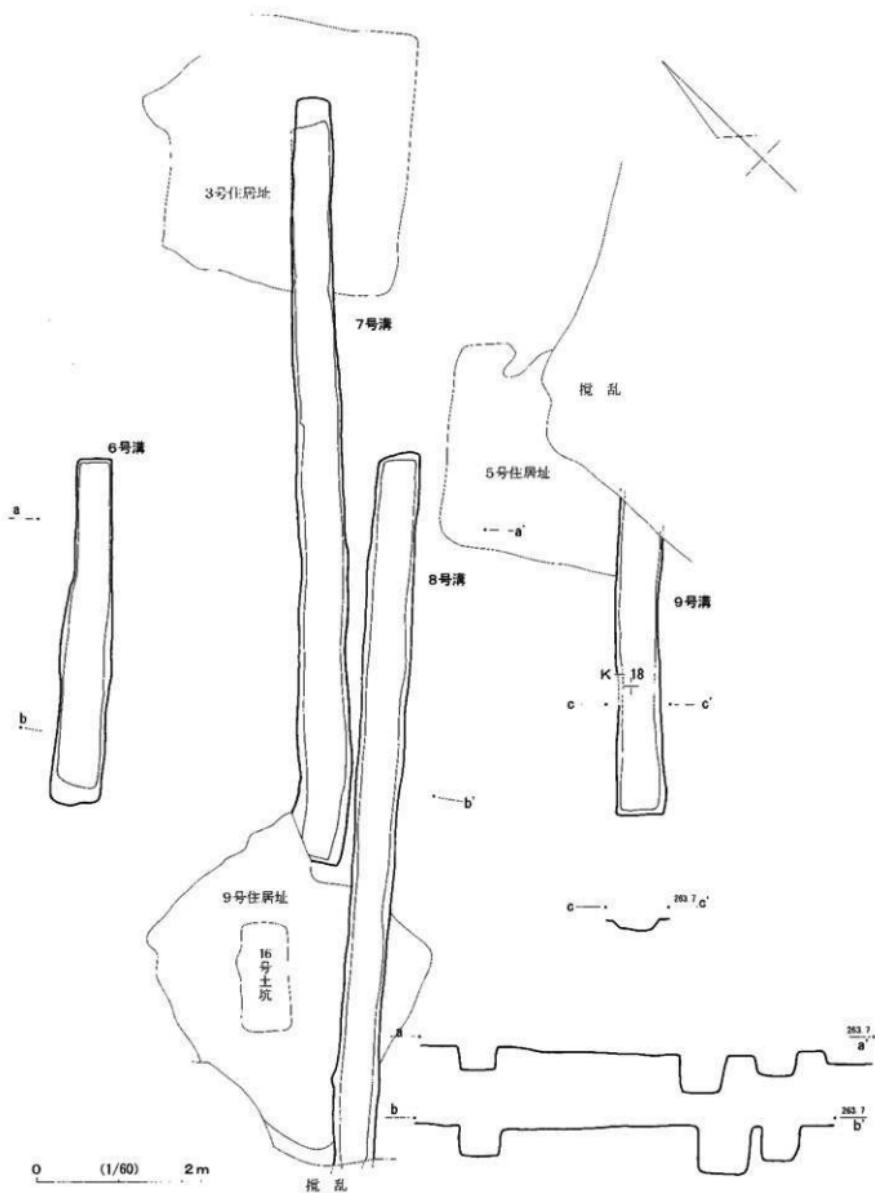
1. 暗褐色土 黄色土(1cm~2cm)やや多い。
炭酸少々。

10号溝



1. 暗褐色土 黄色土(1cm~2cm)やや多い。
炭酸少々。
2. 暗褐色土 黄色土(2cm~5cm)やや多い。

第69図 溝状遺構-1-



第70図 溝状遺構—2—

第14表 遺構出土遺物観察表

1号住居址

| 回 | 番号 | 出土位置 | 種別 | 寸法(cm) | | | 色調 | 胎土 | 施成 | 調査 | 備考 |
|---|----|---------------|------------|--------|--------|-------|--------------------------|-----------------|----|----------------------|---------------|
| | | | | 口径 | 高さ | 底径 | | | | | |
| 8 | 1 | 本面 | 土器器 小型器 | (16.1) | (12.6) | | 外：にぶい褐色 内：褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、金雲母 | 白 | 胎部内外面ナグ | 外面に塗 |
| 8 | 2 | カマド火床由 土器器 | 土器器 | (20.0) | (11.7) | — | にぶい褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、金雲母 | 又 | 胎部内外面ナグ | 外面に塗 |
| 8 | 3 | 床底 | 土器器 | | (10.5) | 7.4 | にぶい褐色 | 赤・白色粒子、黑、金雲母、砂粒 | 赤 | 胎部内外面ナグ | 北部木製板 外面に塗 |
| 8 | 4 | カマド覆土 | 土器器 | — | (22.1) | — | にぶい褐色 外：にぶい褐色 内：褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、金雲母 | 良 | 胎部内外面ナグ | 内部木製板 外面に塗 |
| 8 | 5 | カマド覆土 | 土器器 | — | (3.0) | (8.2) | にぶい褐色 | 砂粒、白色粒子 | 良 | 胎部内外面ナグ | 底部木製板 外面に塗 |
| 8 | 6 | 火床底上7層 | 土器器 | — | (7.4) | — | 褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、金雲母 | 良 | 胎部内外面ナグ | 外面に塗 |
| 8 | 7 | カマド火床 土器器 | 土器器 | (4.4) | (7.4) | — | にぶい褐色 外：にぶい褐色 内：褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、金雲母 | 良 | 胎部内外面ナグ、底部下位ヘラ削 り | 底部木製板 外面に塗 |
| 8 | 8 | 床面 | 副陶成具 | | | | 貢5.0、最大幅4.7、最大厚1.0、重量61g | | | | |

2号住居址(新)

| 回 | 番号 | 出土位置 | 種別 | 寸法(cm) | | | 色調 | 胎土 | 施成 | 調査 | 備考 | |
|----|----|------------|------|--------|-------|-------|-------------------|------------------|--------|-------------------------|----------------------------|-------|
| | | | | 口径 | 高さ | 底径 | | | | | | |
| 10 | 1 | 覆土 P2下層 | 土器器 | (10.8) | 3.3 | (4.0) | 褐褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、金雲母 | 良 | 胎部・底部外表面ヘラ削り | | |
| 10 | 2 | 覆土 | 土器器 | — | | | 褐色 | 赤・白色粒子、石英、金雲母 | 良 | 胎部外表面ヘラ削り | | |
| 10 | 3 | 覆土 P2上層 | 土器器 | (12.6) | (3.8) | (5.0) | 褐褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、金雲母 | 良 | 胎部・底部外表面ヘラ削り | 裏者「化」 ^ア 外面に塗 | |
| 10 | 4 | P2上層 | 土器器 | — | — | — | 外：褐色 内：にぶい黄褐色 | 赤・白色粒子、金雲母 | 良 | コクロナゲ | | |
| 10 | 5 | 覆土 | 土器器 | — | | | 褐褐色 | 赤・白色粒子、砂粒 | 良 | コクロナゲ | 裏者「基」 | |
| 10 | 6 | 覆土 | 土器器 | — | — | — | 外：褐色 内：明褐色 | 赤・白色粒子、金雲母 | 良 | コクロナゲ | 裏者「基」 ^ア | |
| 10 | 7 | 覆土 | 土器器 | — | — | — | 明褐色 | 赤・白色粒子、金雲母 | 良 | ハラ磨き(外表面、内面側) | | |
| 10 | 8 | 覆土 | 土器器 | — | — | — | 褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、金雲母 | 良 | ハラ磨き | 相模型坏 | |
| 10 | 9 | 覆土 | 土器器 | — | — | — | 褐色 | 赤・白色粒子、金雲母 | 良 | 胎部内面ヘラ削り、 内面吹瓶状ヘラ磨き | | |
| 10 | 10 | 覆土 | 土器器 | (12.5) | (2.5) | 3.7 | 褐褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、金雲母 | 良 | 胎部内面ヘラ削り、 外周ヘラ削り | | |
| 10 | 11 | P6下層 | 土器器 | (13.2) | (2.8) | (3.9) | 褐色 | 赤・白色粒子、石英、金雲母 | 良 | 胎部外表面ヘラ削り | 裏者「基」 ^ア | |
| 10 | 12 | 覆土 | 土器器 | (25.0) | (5.7) | — | 褐褐色 | 石英、金、黑曜石 | 良 | ハラ磨ナガ、擦ハケ、 内面吹瓶状ヘラ磨き | | |
| 10 | 13 | 覆土 | 土器器 | — | | | 明褐色 | 赤・黑曜石、金英 | 良 | ハラ磨ナガ、擦ハケ、 内面吹瓶状ヘラ磨き | | |
| 10 | 14 | 覆土、焼土 | 土器器 | — | — | — | 外：赤褐色 内：にぶい赤褐色 | 赤・金雲母、石英、 小石子 | 良 | ハラ磨ナガ、擦ハケ、 内面吹瓶状ヘラ磨き | | |
| 10 | 15 | P6下層 | 土器器 | — | (3.8) | (8.7) | 褐色 | 赤・褐色 内：褐色 | 石英、黑曜石 | 良 | 内面吹瓶状ヘラ磨き | 相模木製板 |
| 10 | 16 | 覆土 | 陶器 | — | | | 褐色 | 砂粒、白・赤褐色粒子 | 良 | コクロナゲ | | |
| 10 | 17 | 覆土 | 陶器 | — | — | — | 外：灰褐色 内：灰褐色 | 白色粒子、砂粒 | 良 | 外周磨き、内面吹瓶状 | | |
| 10 | 18 | 覆土 | 灰無釉器 | — | — | — | 灰・灰褐色 内：灰褐色 | 石英 | 良 | 外周磨き。 | 内面不夷切削 完復 | |

2号住居址(旧)

| 回 | 番号 | 出土位置 | 種別 | 寸法(cm) | | | 色調 | 胎土 | 施成 | 調査 | 備考 |
|----|----|---------------|-----|--------|-------|-------|----------------|---------------------|----|----------------------|-------|
| | | | | 口径 | 高さ | 底径 | | | | | |
| 17 | 1 | 床底 (P4 内周) | 土器器 | (13.0) | (5.0) | 4.3 | 褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、 金、黑曜石 | 赤 | 胎部・底部外表面ヘラ削り | 裏者「本」 |
| 17 | 2 | 床底 (P4 外周) | 土器器 | (13.3) | (4.3) | 4.4 | 褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、金 雲母 | 良 | 胎部・底部外表面ヘラ削り | 裏者「丈」 |
| 17 | 3 | 覆土 | 土器器 | (13.3) | 3.5 | (3.8) | 赤褐色 | 赤・白色粒子、砂粒、 金、黑曜石 | 赤 | 胎部・底部外表面ヘラ削り | |
| 17 | 4 | 床底熱土面 | 土器器 | (13.1) | (4.3) | (5.0) | 外：赤褐色 内：灰褐色 | 赤・白色粒子、砂粒 | 赤 | 胎部内面ヘラ削り後、 外周ヘラ削り | 内墨 |
| 17 | 5 | 覆土 | 土器器 | — | — | — | 灰・灰褐色 内：灰褐色 | 石英 | 良 | 胎部外表面ヘラ削り | |

| 組 | 番号 | 出土位置 | 種別 | 計量 (cm) | | | 色調 | 地上 | 地城 | 構造 | 構造 | 備考 |
|----|----|------------|-------------|---------|--------|--------|----------------------|----------------------|---------|-------------------------------|-------------------|----|
| | | | | 上(往) | 高さ | 底深 | | | | | | |
| 17 | 6 | カマド底土 | 土器部品 | (15.5) | (3.9) | - | 外：褐色 内：灰褐色 | 帶・白色粒子、砂 粒、金雲母 | 良 | 体部外周へフリ | | |
| 17 | 7 | 床裏焼土 | 土器部品 | (14.8) | (3.4) | - | 明褐色 | 帶・白色粒子、砂 粒、金雲母 | 良 | 体部外周へフリ | | |
| 17 | 8 | 床裏焼土 | 土器部品 | (15.0) | (3.3) | - | 外：褐色 内：灰褐色 | 帶・白色粒子、砂 粒、金雲母 | 良 | 体部外周へフリ | | |
| 17 | 9 | 床裏焼土 | 土器部品 | (15.5) | 5.0 | (4.6) | 棕色 | 帶・白色粒子、白色 母、砂粒 | 良 | 体部・底部外周へフリ | | |
| 17 | 10 | 床裏焼土 | 土器部品 | (14.0) | 5.3 | (3.9) | 棕色 | 帶・白色粒子、金雲 母、砂粒 | 良 | 体部・底部外周へフリ | | |
| 17 | 11 | 覆土下層 | 土器部品 | (12.9) | (3.5) | - | 灰褐色 | 帶・白色粒子、砂粒、金 雲母、石英 | 良 | 体部・底盤外周へフリ | 灰部に僅、ターン 状付着物。 | |
| 17 | 12 | 床裏 | 土器部品 | - | - | - | 褐色 | 少・白色粒子、砂粒、金 雲母 | 良 | 体部外周へフリ | | |
| 17 | 13 | 覆土中層 | 土器部品 | - | - | - | 外：明褐色 内：黑色 | 帶・白色粒子、砂 粒、金雲母、黑色 | 良 | 体部外周へフリ | 内墨 | |
| 17 | 14 | 覆土 | 土器部品 | - | - | - | 灰褐色 | 少・白色粒子、石 英、金雲母、砂粒 | 良 | 口縁・クロナゲ | 底盤 | |
| 17 | 15 | 頭方覆土 | 土器部品 | - | - | - | 黑色 | 帶・白色粒子、金雲 母 | 良 | 底盤周縁を切り後、一部へフリ | 内墨 | |
| 17 | 16 | 床裏焼土 | 土器部品 | (12.0) | (4.6) | にぶい橙褐色 | 少・白色粒子、金雲 母、砂粒 | 良 | 底盤周縁を切り | | | |
| 17 | 17 | 裏方覆土 | 土器部品 | - | - | - | 外：明褐色 内：兰色 | 帶・白色粒子、砂 粒、金雲母 | 良 | 底盤周縁を切り | 内墨 | |
| 17 | 18 | 覆土 | 土器部品 | - | - | - | 羽褐色 | 帶・白色粒子、金雲 母 | 良 | 口縁周縁を切り後、外周へフリ | | |
| 17 | 19 | 床裏 | 土器部品 | - | - | - | 灰褐色 | 少・白色粒子、金雲 母 | 良 | 底盤周縁を切り後、外周へフリ | | |
| 17 | 20 | 床裏焼土 | 土器部品 | - | - | - | 外：明褐色 内：黑色 | 帶・白色粒子、金雲 母 | 良 | 底盤外周へフリ | | |
| 17 | 21 | 床裏焼土 | 土器部品 | - | - | - | 外：明褐色 内：黑色 | 少・白色粒子、石 英、金雲母 | 良 | 底部外周へフリ | 大墨 | |
| 17 | 22 | 覆土 | 土器部品 | - | - | - | 明褐色 | 帶・白色粒子、金雲 母 | 良 | ハニカミ (外表面、内墨痕、 白) | | |
| 18 | 23 | 床裏 | 痕跡跡跡 | 13.3 | 4.2 | 3.0 | 灰色 | 砂粒 | 良 | クロナゲ。底盤周縁を切り | 外表面に僅 | |
| 18 | 24 | 床裏 | 痕跡跡跡 | - | (2.6) | (5.3) | 灰色 | 砂粒、带・白色 粒子、金雲母 | 良 | クロナゲ。底盤周縁を切り | | |
| 18 | 25 | 床裏 | 痕跡跡跡 | (15.5) | (3.4) | - | 灰色 | 砂粒、白色粒子、石 英 | 良 | クロナゲ | | |
| 18 | 26 | 床裏焼土 | 土器部品 | (13.9) | (3.2) | (3.0) | 灰褐色 | 少・白色粒子、石 英、砂粒、金雲母 | 良 | 底盤周縁を切り後、一部へフリ | 小墨 | |
| 18 | 27 | 補土 | 土器部品 | (13.5) | (2.3) | 4.8 | 灰褐色 | 少・白色粒子、石 英、砂粒、金雲母 | 良 | 体部外周へフリ。 | 墨痕 | |
| 18 | 28 | 覆土 | 土器部品 | (16.0) | (7.5) | - | 外：暗褐色 内：にぶい赤褐色 | 帶・黑色、石英 | 良 | 底盤周縁を切り | | |
| 18 | 29 | 覆土中層、床 | 土器部品 | (15.2) | (6.3) | - | にぶい赤褐色 | 石英、带・白色 粒子、石英 | 良 | 口縁周縁をフリ | | |
| 18 | 30 | 床裏焼土 | 土器部品 小型器 | (17.5) | (3.6) | - | にぶい赤褐色 | 石英、带・黑色 粒子、石英 | 良 | 口縁周縁をフリ | 内墨、白 | |
| 18 | 31 | 床裏焼土 | 土器部品 小型器 | (18.0) | (8.8) | - | 外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐色 | 石英、带・黑色 粒子、石英 | 良 | 口縁周縁をフリ | 内墨、白 | |
| 18 | 32 | 覆土下層、床 | 土器部品 | (31.0) | (12.3) | - | 灰褐色 | 带・黑色、石英 | 良 | 口縁周縁をフリ | 内墨、白 | |
| 18 | 33 | 床裏焼土 | 土器部品 | - | (16.6) | - | 灰褐色 | 带・黑色、带・黑色 粒子、石英 | 良 | 脚部ハケ (外表面、内墨痕、白) | | |
| 18 | 34 | 覆土下層 | 土器部品 | (30.0) | (4.3) | - | 明褐色 | 金、黑雲母、石英、 白云母 | 良 | 口縁ナゲ。横ハケ。 脚部ハケ (外表面、内墨痕) | | |
| 18 | 35 | 床裏焼土 | 土器部品 | (31.2) | (5.2) | - | 灰褐色 | 石英、金、黑雲母 | 良 | 口縁ナゲ。横ハケ。 脚部ハケ (外表面、内墨痕) | | |
| 18 | 36 | カマド底土 | 土器部品 | (29.0) | (7.2) | - | 灰褐色 | 石英、金、黑雲母 | 良 | 口縁ナゲ。横ハケ。 脚部ハケ (外表面、内墨痕) | | |
| 18 | 37 | 床裏 | 土器部品 | (28.0) | (4.7) | - | 明褐色 | 金、黑雲母、石英 | 良 | 口縁ナゲ。横ハケ。 脚部ハケ (外表面、内墨痕、白) | | |
| 18 | 38 | カマド火床 | 土器部品 | - | - | - | 棕色 | 金、黑雲母、石英 | 良 | 口縁ナゲ。横ハケ。 脚部ハケ (外表面、内墨痕) | | |
| 18 | 39 | 床裏 | 土器部品 | - | - | - | にぶい赤褐色 | 石英、金、黑雲母、 带・黑色粒子 | 良 | 口縁ナゲ。横ハケ。 脚部ハケ (外表面、内墨痕) | | |
| 18 | 40 | 覆土 | 土器部品 | - | - | - | 灰褐色 | 石英、金、黑雲母 | 良 | 口縁ナゲ。横ハケ。 脚部ハケ (外表面、内墨痕) | | |
| 18 | 41 | カマド底土 | 土器部品 | - | - | - | 外：赤褐色 内：灰褐色 | 石英、金、黑雲母、 带・黑色粒子 | 良 | 口縁ナゲ。横ハケ。 脚部ハケ (外表面、内墨痕、白) | | |
| 18 | 42 | カマド火床 | 土器部品 | - | - | - | 赤褐色 | 金、黑雲母、石英 | 良 | 脚部ハケ (外表面、内墨痕、白) | 方に輪積み痕 | |
| 18 | 43 | 覆土 | 土器部品 | - | (3.5) | (8.0) | 外：にぶい赤褐色 内：灰褐色 | 石英、金、黑雲母、 带・黑色粒子 | 良 | 脚部ハケ (外表面、内墨痕、白) | 底盤木瘤痕 | |
| 18 | 44 | 床裏焼土 | 土器部品 | - | - | - | にぶい赤褐色 | 石英、金、黑雲母、 带・黑色粒子 | 良 | 脚部ハケ (外表面、内墨痕、白) | 底盤木瘤痕 | |
| 18 | 45 | 覆土中層 火床 | 土器部品 | - | (8.3) | (9.2) | 外：赤褐色 内：灰褐色 | 石英、金、黑雲母、 带・黑色粒子 | 良 | 脚部ハケ (外表面、内墨痕、白) | 底盤木瘤痕 | |
| 18 | 46 | 床裏焼土 | 土器部品 | - | (3.1) | (9.5) | 外：赤褐色 内：にぶい赤褐色 | 石英、金、黑雲母、 带・黑色粒子 | 良 | 脚部ハケ (外表面、内墨痕) | 底盤木瘤痕 | |

| 番号 | 番号 | 出土位置 | 種別 | 寸法(cm) | | | 色調 | 断土 | 焼成 | 調査 | 備考 |
|----|----|-------|-----------|--------------------------|-------|-------|-----------------------|------------------------|----|----------------------------|-------|
| | | | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | |
| 20 | 47 | 覆土上層 | 一部器表 | - | (6.9) | (5.3) | 外: 小褐釉 内: 黑褐釉 | 金、黒褐斑、石英、 金、黒褐斑、石英 | 良 | 網部ハケ (外面斜、内面横・斜) | 底部本焼灰 |
| 20 | 48 | カット火床 | 上層灰 | - | (3.5) | (6.0) | 外: 淡赤褐色 内: 淡赤褐色 | 金、黒褐斑、石英 金、黒褐斑、石英 | 良 | 網部ハケ (外面斜、斜、内面斜) | 底部本焼灰 |
| 20 | 49 | 床面 | 十四指器 | - | (6.9) | (5.7) | 外: 素燒器 内: にごい赤褐色 | 石英、黒褐斑、赤、 石英、黒褐斑、赤 | 又 | 網部ハケ (外面斜、内面横) | |
| 20 | 50 | 床面 | 上層灰 | - | (4.9) | (8.4) | 外: 素燒器 内: にごい赤褐色 | 石英、黒褐斑、 石英、黒褐斑、 | 良 | 網部ハケ (外面斜、内面横) | 底部本焼灰 |
| 20 | 51 | 床面燒土面 | 十五指器 灰 | (19.0) | (4.8) | - | 外: 明るい褐釉 内: にごい赤褐色 | 墨青斑、茶色粒子、 石英 | 良 | 網部内面横ハケ | |
| 20 | 52 | 覆土、床面 | 工具器 剝削 | (20.0) | (6.8) | - | 外: 白芯褐色 内: 仁宗茶色 | 万葉、墨青斑、茶色 万葉、墨青斑、茶色 | 良 | 網部ハケ (外面斜、内面横) | |
| 20 | 53 | 床面燒土面 | 土師器灰 | - | - | - | 外: 白芯褐色 内: 仁宗茶色 | 茶、白色粒子、石 英、黒褐斑 | 良 | 白焼機ナダ。剥削外側面へラ原 及、大研削ハケ。 | |
| 20 | 54 | 床面燒土面 | 細窓器灰 | - | - | - | | | | | |
| 20 | 55 | 火葬土上面 | 須彌輪灰 | - | - | - | | | | | |
| 21 | 56 | 覆土 | 知窓器灰 | - | - | - | | | | | |
| 21 | 67 | 床面燒土面 | 須彌輪灰 | - | - | - | | | | | |
| 21 | 38 | 覆土下面 | 須彌輪灰 | - | - | - | | | | | |
| 21 | 39 | 床面燒土面 | 病窓器灰 | - | - | - | | | | | |
| 21 | 60 | カマド火床 | 灰陶輪盤皿 | - | - | - | 外: 赤褐色 内: オリーブ灰陶 | 白色粒子 | 良 | | |
| 21 | 61 | カマド覆土 | 土器 | 長さ3.2、幅2.0、厚2.7 重量62g | - | - | 外: 淡赤褐色 内: 茶褐色 | 茶灰、金、黒褐斑、 茶、白色粒子 | 良 | | |
| 21 | 62 | 床面 | 器灰 | 長さ8.1、幅3.2、厚1.3、重量61g | | | | | | 右付: 烧茎 | |

3号住居址

| 測定番号 | 出土位置 | 種別 | 寸法(cm) | | | 色調 | 断土 | 焼成 | 調査 | 備考 | |
|------|------|----|--------------|----|-------|-------|------------------------|-----------------------|----|----------------------------|---------|
| | | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | |
| 23 | 1 | 床面 | 十指器 | - | - | - | 外: にごい赤褐色 内: にごい赤褐色 | 茶、白色粒子、砂粒 金、黒褐斑、石英 | 良 | 1.植株ナダ、 網部外側面へラ原り、内山ナダ。 | 口付上端に沈跡 |
| 23 | 2 | 覆土 | 上層灰 | - | (8.6) | - | 外: 粉褐色 内: 粉褐色 | 金、黒褐斑、石英 | 良 | 網部ハケ (外面斜、内面横) | |
| 23 | 3 | 床面 | 十指器 | - | (4.8) | (9.0) | 外: 黄褐色 内: 黄褐色 | 金、黒褐斑、石英、 茶色粒子 | 良 | 網部外側面ナダ | 底部本焼灰 |
| 23 | 4 | 床面 | 十四指器 灰カマド | - | - | - | 外: 淡赤褐色 内: 小赤褐色 | 金、黒褐斑、石英、 茶色粒子 | 良 | 日焼模ナダ。 網部外側面ハケ、内面指印跡。 | |
| 23 | 5 | 床面 | 土師器 灰カマド | - | - | - | 外: にごい赤褐色 内: 茶褐色 | 茶、白色粒子、 茶色粒子 | 良 | 2.一塊ハケ、鐵ナダ | |
| 23 | 6 | 床面 | 十指器 灰カマド | - | - | - | 外: 茶褐色 内: 茶褐色 | 石英、金、黒斑、 茶色粒子 | 良 | 第一期ハケ、鐵ナダ | |

4号住居址

| 測定番号 | 出土位置 | 種別 | 寸法(cm) | | | 色調 | 断土 | 焼成 | 調査 | 備考 | |
|------|------|----|------------|--------|-------|-------|----------------------|---------------------------------|----|-------------------------------|----------|
| | | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | |
| 25 | 1 | 覆土 | 十指器 | - | - | - | 棕褐色 | 茶、白色粒子、石英、 金、黒斑 | 良 | 体部内面へク刷り | |
| 25 | 2 | 覆土 | 上層灰 | - | - | - | 明褐色 | 茶、白色粒子、砂 粒、金、黒斑 | 良 | 体部内面へク刷り | |
| 25 | 3 | 覆土 | 土師器灰 | (13.6) | (3.2) | - | 明褐色 | 茶、白色粒子、 砂粒、金、黒斑 | 良 | 2.体部内面へク刷り | |
| 25 | 4 | 覆土 | 上層器 | - | (2.0) | (5.7) | 明褐色 | 砂粒、茶、白色粒子、 金、黒斑 | 良 | 体部、近部外壁へク刷り | |
| 25 | 5 | 覆土 | 灰窓器 | - | - | - | 灰色 | 石英、白色粒子 | 良 | エクロナダ | |
| 25 | 6 | 覆土 | 須彌輪灰 | - | - | - | 灰色 | 白、茶色粒子、石英 | 良 | 地部四輪舟切り | |
| 25 | 7 | 覆土 | 上層器 小型器 | (9.6) | (4.7) | - | 外: 淡赤褐色 内: にごい赤褐色 | 茶、白色粒子、金、 茶、黑色粒子、石英、 金、黒斑 | 良 | 口縁模ナダ、網部内面板模へク 刷り、内面模へラナダ。 | 口縁部に接合痕跡 |
| 25 | 8 | 覆土 | 上層灰 | - | - | - | 外: 茶褐色 内: にごい赤褐色 | 茶、黑色粒子、石英、 金、黒斑 | 良 | コロナダ、焼ハケ。 | |
| 25 | 9 | 覆土 | 土師器灰 | - | - | - | にごい赤褐色 | 茶色粒子、石英、 金、黒斑 | 良 | 網部ナダ (外面斜、内面横) | 外面に落灰痕 |
| 25 | 10 | 覆土 | 上層器 | - | - | - | にごい赤褐色 | 茶色粒子、石英、 金、黒斑 | 良 | 網部ナダ、焼ハケ。 | |
| 25 | 11 | 覆土 | 土師器灰 | (22.4) | (3.9) | - | 外: 茶褐色 内: にごい赤褐色 | 茶、白色粒子、石英、 金、黒斑 | 良 | コロナダ、焼ハケ。 | |

| 回 | 番号 | 川上住處 | 種別 | 法面 (cm) | | | 色調 | 植生 | 施成 | 調整 | 備考 |
|----|----|-------|--------|---------|--------|-------|----------------|---------------------------------|-----------------------|-------------------|----------------|
| | | | | 口徑 | 最高 | 最低 | | | | | |
| 25 | 12 | 西土 | 上部沿岸 | (22.0) | (5.0) | - | 外：黒褐色 内：濃緑色 | 白、黒葉子、木、黄、 赤色斑子 | 長 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) |
| 25 | 13 | 坂上 | 土壠路地 | (29.2) | (4.0) | - | に赤い帶地 | 石英、金、黒雲母、 赤色斑子 | 丸 斜傾ハケ (外面傾、内面傾・斜) | 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) |
| 25 | 14 | 西土 | L.V.路地 | - | (13.3) | - | 外：に赤い帶地 | 小葉、木、白雲母、 白、赤色斑子 | 直 斜傾外斜傾ハケ | 斜傾外斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | 斜傾外斜傾 |
| 26 | 15 | 坂上 | 土壠路地 | - | (8.1) | - | 黒褐色 | 木、白色斑子、木、 金、金、黒葉子、木、 赤色斑子 | 丸 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) |
| 25 | 16 | 西土 | 土壠路地 | - | (3.7) | (6.3) | に赤い帶地 | 金、黒葉子、石英、 赤色斑子 | 丸 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | 斜傾本坂地 |
| 25 | 17 | 坂上、坂下 | 上部路地 | - | (6.1) | (5.8) | に赤い帶地 | 金、赤葉子、赤色斑子、 石英 | 丸 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | 斜傾本坂地 |

5号住居址

| 回 | 番号 | 出土位置 | 種別 | 法面 (cm) | | | 色調 | 植生 | 施成 | 調整 | 備考 |
|----|----|-------|------|---------|-------|--------|-------|-----------------------|---------|---------------------------|-------------------------|
| | | | | 口徑 | 最高 | 最低 | | | | | |
| 26 | 1 | カマド屋上 | 土の堅不 | (12.6) | (4.1) | 4.6 | 明赤褐色 | 木、白色斑子 | 丸 | 斜傾外斜傾切り後、一部ヘラ削り、 斜傾外斜傾 | 堅不 (外 内斜傾) |
| 26 | 2 | カマド便下 | 土壠路地 | (11.0) | (4.3) | - | 赤褐色 | 砂、白色斑子、木、 金、白雲母、石英 | 丸 斜傾 | ロクロナナデ | |
| 26 | 3 | 坂上 | 土の堅不 | - | - | - | 赤褐色 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母、石英 | 丸 | 11月傾ナナデ、 斜傾外斜傾へツ削り。 | 11月23日検査痕 |
| 26 | 4 | カマド屋上 | 土の堅不 | - | - | - | 赤褐色 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母、石英 | 丸 | 斜傾ナナデ、 斜傾外 (外面傾、内面傾) | 斜傾ナナデ、 斜傾外 (外面傾、内面傾) |
| 26 | 5 | 坂上 | 上部路地 | (30.6) | (3.6) | - | に赤い帶地 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母、石英 | 丸 | 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | |
| 26 | 6 | カマド火穴 | 土壠路地 | - | (6.7) | (10.4) | 赤褐色 | 石英、木、白雲母、 白色斑子 | 丸 | 斜傾ハケ (外面傾、内面傾) | |

6号住居址

| 回 | 番号 | 出土位置 | 種別 | 法面 (cm) | | | 色調 | 植生 | 施成 | 調整 | 備考 |
|----|----|------------------|-------|---------|--------|-------|--------------------|---|----|---------------------------------|------------------------------|
| | | | | 口徑 | 最高 | 最低 | | | | | |
| 28 | 1 | 坂上 | 上部路地 | - | - | - | 明赤褐色 | 木、白色斑子、金雲母 | 丸 | コクロナナデ | |
| 28 | 2 | カマド火穴 | 土壠路地 | - | - | - | 褐色 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母 | 丸 | ロクロナナデ | |
| 28 | 3 | 坂上 | 土の堅不 | - | - | - | 暗赤褐色 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母、石英 | 丸 | ロクロナナデ、 斜傾外 (外面傾、内面傾) | |
| 28 | 4 | カマド屋上 | 土の堅不 | - | - | - | 赤：に赤い帶地 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母、石英 | 丸 | ロクロナナデ | |
| 28 | 5 | 坂上 | 灰堆荷物地 | - | - | - | 褐色 | 木、褐色オーバー荷物 | 丸 | ロクロナナデ | |
| 28 | 6 | カマド火穴 | 土の堅不 | (16.2) | (15.6) | (8.0) | に赤い帶地 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母 | 丸 | コクロナナデ、横ハケ、斜傾ハケ (外面傾、内面傾・斜) | 灰堆木底窓 |
| 28 | 7 | 坂上 | 土の堅不 | - | - | - | 附赤褐色 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母、石英 | 丸 | 11月傾ナナデ、横ハケ、斜傾ハケ (外面傾、内面傾・斜) | |
| 28 | 8 | カマド屋上 | 土の堅不 | - | - | - | 赤：に赤い帶地 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母、石英 | 丸 | ロクロナナデ、横ハケ、斜傾ハケ (外面傾、内面傾・斜) | |
| 28 | 9 | カマド屋上 | 土の堅不 | (29.8) | (11.4) | - | 外：に赤い帶地 内：に赤い帶地 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母、石英、白雲母、 赤色斑子、木、白雲母、 金、白雲母、石英 | 丸 | ロクロナナデ、斜傾ハケ (外面傾、 内面傾・斜) | 側面外側に丸ナナ 希、底部内側に白 面積が細 |
| 28 | 10 | カマド屋上、 火床面、板石 | 土壠路地 | (28.6) | (13.1) | - | 赤：赤褐色 | 木、赤褐色 | 丸 | コクロナナデ、横ハケ、斜傾ハケ (外面傾、内面傾・斜) | 側面外側に特上付 合 |
| 28 | 11 | カマド屋上、 火床面、板石 | 土の堅不 | (22.3) | (16.2) | - | 木褐色 | 石英、木、白雲母、 木、白色斑子 | 丸 | ロクロナナデ、横ハケ、斜傾ハケ (外面傾、内面傾・斜) | 内面に陰陥み進 化 |
| 28 | 12 | 坂上 | 上部路地 | - | (14.9) | (9.4) | 外：赤褐色 内：赤褐色 | 木、白色斑子、木、 金、白雲母、石英、白雲母、 木、白色斑子 | 丸 | ロクロナナデ、斜傾ハケ (外面傾、 内面傾・斜) | 内面に陰陥み進 化 |
| 28 | 13 | カマド火床 | 土の堅不 | (21.0) | (12.3) | - | 外：赤褐色 内：赤褐色 | 木、赤褐色 | 丸 | ロクロナナデ、斜傾ハケ (外面傾、 内面傾) | 内面に劣化痕 |

7号住居址

| 回 | 番号 | 川上住處 | 種別 | 法面 (cm) | | | 色調 | 植生 | 施成 | 調整 | 備考 |
|----|----|------|------|---------|----|----|----------------|-------------------|----|--------------------------|--------|
| | | | | 口徑 | 最高 | 最低 | | | | | |
| 33 | 1 | 坂上 | 土壠路地 | - | - | - | 褐色 | 木、白色斑子、 金雲母 | 丸 | ロクロナナデ | |
| 33 | 2 | 坂上 | 上部路地 | - | - | - | 外：赤褐色 内：赤褐色 | 木、白色斑子、 金雲母 | 丸 | ロクロナナデ、 斜傾外 (外面傾、内面傾) | 内面 |
| 33 | 3 | 坂上 | 土壠路地 | - | - | - | 褐色 | 木、白色斑子、 木、白色斑子 | 丸 | ロクロナナデ | |
| 33 | 4 | 坂上 | 土壠路地 | - | - | - | 外：褐色 内：褐色 | 木、白色斑子、 金雲母 | 丸 | ロクロナナデ、 斜傾外 (外面傾、内面傾) | 内面に劣化痕 |

| 区 | 番号 | 岩土立質 | 判別 | 位置 (cm) | | | 色調 | 地上 | 樹皮 | 調査 | 備考 | |
|----|----|--------|-------|---------|--------|-------|--------------------|--------------------------|--------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------|
| | | | | 日陰 | 蔽蔭 | 直射 | | | | | | |
| 33 | 5 | 覆土 | 土源露下 | - | - | - | 赤褐色 | 赤、褐色吹子、石英、金、黒雲母、砂 | 白 | ロクロナデ | | |
| 33 | 6 | 覆土・5層 | 土源露下 | - | - | - | 褐色 | 赤、褐色吹子、金雲母、砂 | 白 | 地盤外露面へ刷り | | |
| 33 | 7 | 覆土 | 土源露下 | | | | 褐帶褐色 | 赤、褐色吹子、黒雲母、砂 | 白 | 地盤外露面へ刷り | 内面タル状付着 | |
| 33 | 8 | 覆土 | 土源露下 | - | (3.4) | (4.9) | 外:明小褐色 内:茶褐色 | 赤、褐色吹子、金雲母、砂 | 白 | 地盤外露面へ刷り。 地盤外露面へ刷り。一部脱落。 | 内露 | |
| 33 | 9 | 覆土 | 上部露下 | (12.7) | (4.0) | (3.0) | 汚帶褐色 | 赤、褐色吹子、金雲母、砂 | 白 | 内移、底部外露面へ刷り | | |
| 33 | 10 | 覆土 | 土源露下 | (13.7) | (3.9) | - | 汚褐色 | 赤、褐色吹子、金雲母、砂 | 白 | 地盤外露面へ刷り | | |
| 33 | 11 | 覆土 | 上部露下 | (13.7) | (4.4) | - | 外:淡褐色 内:オリ、薄黒色 | 赤、褐色吹子、金雲母、砂 | 白 | 地盤外露面へ刷り | 内露 | |
| 33 | 12 | カマツ根莖上 | 土源露下 | (12.2) | (4.0) | (3.6) | に赤い斑紋 | 赤、褐色吹子、石英、黒雲母、砂 | 白 | 地盤外露面へ刷り。地盤外露面へ刷り。一部脱落。 | 根茎上:1. 黄褐色 2. 黑褐色 | |
| 33 | 13 | 覆土・5層 | 土源露下 | (12.6) | (2.3) | - | 褐色 | 赤、褐色吹子、石英、金、黒雲母、砂 | 白 | 地盤外露面へ刷り | | |
| 33 | 14 | 底面 | 上部露下 | (12.0) | (2.9) | (2.3) | 褐色 | 赤褐色、赤、褐色吹子 | 白 | 地盤外露面へ刷り。 地盤外露面へ刷り。一部脱落。 | 露書(前) | |
| 33 | 15 | 覆土 | 植生帶带 | - | - | - | 灰色 | 白、褐色吹子、石英 | 白 | 地盤外露面へ刷り | | |
| 33 | 16 | 覆土 | 微露露下 | - | - | - | 灰色 | 白灰、白、赤褐色吹子 | 白 | 地盤外露面へ刷り | | |
| 33 | 17 | 覆土 | 底面露下 | (19.7) | (4.7) | - | 灰白 | 沙粒、石英、白、褐色吹子 | 白 | ロクロナデ | | |
| 33 | 18 | 覆土 | 底面露下 | - | - | - | 外:暗灰褐色 内:灰色 | 沙粒、白、褐色吹子、石英 | 白 | ロクロナデ | | |
| 33 | 19 | 覆土 | 上部露下 | - | - | - | に赤い斑紋 | 赤、褐色吹子、金、黒雲母、砂 | 白 | 地盤ナゲ、地盤外露面へ刷り。内面露へナゲ。 | 洞跡に被合葉 | |
| 33 | 20 | 覆土 | 土源露下 | (22.9) | (6.6) | - | 外:灰褐色吹子 内:に赤い斑紋 | 赤、褐色吹子、石英、赤褐色吹子、石英、砂 | 白 | 地盤ナゲ、地盤外露面へ刷り。内面露へナゲ。 | 洞隙に被合葉 | |
| 33 | 21 | 覆土 | 土源露下 | - | - | - | に赤い斑紋 | 赤、褐色吹子、石英、砂 | 白 | ナゲ | 内面に被合葉 | |
| 33 | 22 | 覆土下層 | 土源露下 | | | | 明灰褐色 | 砂粒、白、褐色吹子、金、黑雲母 | 白 | 川跡ナデ、噴ハケ。 | 内面に被合葉 | |
| 33 | 23 | 覆土 | 土源露下 | - | - | - | 外:灰褐色吹子 内:に赤い斑紋 | 赤、褐色吹子、石英、赤褐色吹子、石英 | 白 | 川跡ナゲ、噴ハケ。(外露面、内面露) | 内面に被合葉 | |
| 33 | 24 | 覆土 | 土源露下 | | | | 灰褐色 | 赤、褐色吹子、石英、黑雲母、砂 | 白 | 川跡ナゲ、噴ハケ。(外露面、内面露) | 内面に被合葉 | |
| 33 | 25 | カマツ根上 | 土源露下 | - | - | - | に赤い斑紋 | 赤、褐色吹子、白、褐色吹子、石英、金、黑雲母、砂 | 白 | 川跡ナゲ、噴ハケ。(外露面、内面露) | 内面に被合葉 | |
| 33 | 26 | 覆土下層 | 土源露下 | | | | 外:褐色 内:に赤い斑紋 | 赤、褐色吹子、石英、赤褐色吹子、石英 | 白 | 川跡ナゲ、噴ハケ。 | 内面に被合葉 | |
| 34 | 27 | カマツ大木 | 土源露下 | - | (4.6) | (9.8) | 赤、褐色 | 石英、金、黑雲母、砂 | 白 | 川跡ナゲ | 高橋木床底 | |
| 34 | 28 | 底面 | 土源露下 | - | (8.5) | (7.9) | 外:灰褐色吹子 内:灰褐色 | 石英、金、黑雲母、砂 | 白 | 川跡ナゲ (外露面、内面露) | 底面木床底 | |
| 34 | 29 | 覆土上層 | 土源露下 | (38.6) | (5.2) | | に赤い斑紋 | 赤、褐色吹子、石英、白、褐色吹子、砂 | 白 | 川跡ナゲ、噴ハケ。(外露面、内面露) | | |
| 34 | 30 | カマツ根土 | 土源露下 | (37.2) | (8.6) | - | 明灰褐色 | 赤、褐色吹子、金雲母、砂 | 白 | 川跡ナゲ、噴ハケ。(外露面、内面露) | | |
| 34 | 31 | カマツ根上 | 土源露下 | (37.7) | (14.1) | - | 明灰褐色 | 赤、褐色吹子、金、黑雲母、砂 | 白 | 川跡ナゲ (外露面、内面露) | | |
| 34 | 32 | 底面 | 土源露下 | - | -- | - | 多灰白 | 赤、褐色吹子、石英、黑雲母、不黄、砂 | 白 | 川跡ナゲ、噴ハケ。(外露面、内面露) | 内面に指標痕 | |
| 34 | 33 | 底面 | 土源露下 | - | -- | - | 外:褐色吹子 内:灰褐色 | 赤、褐色吹子、石英、白、褐色吹子、砂 | 白 | 川跡ナゲ、噴ハケ。(外露面、内面露) | 内面に指標痕 | |
| 34 | 34 | 底面 | カマツ根土 | 底面露下 | 22.0 | 31.3 | (11.3) | 暗灰褐色 無:無色 | 石英、赤、白、褐色吹子、石英、黑雲母 | 白 | 川跡ナゲ、噴ハケ。砂拂トド、頭拂外面ナゲ、内面拂トド。 | 片面に自然剥離、乾燥に触感變化の位置。 |
| 34 | 35 | 底面 | 土源露下 | | | | 外:灰褐色吹子 内:灰褐色 | 石英、赤、白、褐色吹子、石英、黑雲母 | 白 | 川跡ナゲ | | |
| 34 | 36 | 覆土 | 植生露下 | - | - | - | 赤色 | 赤、褐色吹子、金雲母 | 白 | 各面剥き | | |
| 34 | 37 | カマツ根土 | 土源露下 | - | - | - | 外:灰褐色吹子 内:灰褐色 | 砂粒、白、褐色吹子、金雲母 | 白 | 内面に同心円状の剥離痕 | | |
| 34 | 38 | 覆土上層 | 植生露下 | | | | 外:灰褐色吹子 内:灰褐色 | 砂粒、白、褐色吹子、金雲母 | 白 | 内面剥き、内面端て剥離 | | |
| 34 | 39 | 底面 | 植生露下 | - | - | - | 灰色 | 白、褐色吹子、石英 | 白 | 外露剥き、内面端て剥離 | 外面に自然剥離 | |
| 34 | 40 | 覆土上層 | 微露露下 | - | - | - | 外:灰褐色吹子 内:褐色 | 白、褐色吹子、石英 | 白 | 外露剥き、内面端て剥離 | 外面に自然剥離 | |

8号住居址

| 回 | 番号 | 計上位置 | 種別 | 法面(cm) | | | 色調 | 埴土 | 焼成 | 調査 | 備考 |
|----|----|------|------------|--------|--------|-------|-----------------|----------------------|----|--|---|
| | | | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | |
| 40 | 1 | 床面 | 上部器 小形甕 | (15.8) | 14.9 | 9.8 | 外：に赤い褐色 内：褐色 | 砂岩、石英、赤、褐色 子 | 良 | 口縁焼ナゲ、腹部内外面ナゲ。 | 近江木葉焼 |
| 40 | 2 | 床面 | 下部器 小形甕 | (14.3) | (11.5) | - | 外：に赤い褐色 内：褐色 | 赤、白色淀下、砂 粒、金、黒雲母 | 良 | 口縁焼ナゲ、腹部内外面、斜へア 削り、内面焼ヘタケ。 | 結合焼羽焼、白林 上部火炎部、近江 木葉焼と形状で不規 則、底部内外面に 燒。 |
| 40 | 3 | カマツ | 二脚器 | (23.0) | (27.9) | - | 褐色 | 赤、白色淀下、砂 粒、金、黒雲母 | 良 | 口縁焼ナゲ、腹部内外面ナゲ。 | 外表面の滑面に浅 く凹 |
| 40 | 4 | カマツ | 七脚器 | (23.2) | (5.4) | - | 褐色 | 赤、白色淀下、砂 粒、金、黒雲母 | 良 | 口縁焼ナゲ、腹部内外面ナゲ。 | |
| 40 | 5 | カマツ | 上部器西 | (23.9) | - | - | 外：褐色 内：に赤い褐色 | 赤、白色淀下、砂 粒、金、黒雲母 | 良 | 頂部内外面ナゲ | 複合焼 |
| 41 | 6 | 小明 | 土師器 | - | (3.6) | (9.0) | 外：に赤い褐色 内：褐色 | 赤、白色淀下、砂 粒、金、黒雲母 | 良 | 内面焼ナゲ | 六角木葉焼 |
| 41 | 7 | 床面 | 大的器 | (25.3) | (33.2) | (9.3) | 外：褐色 内：紫色粘土 | 砂岩、赤、白色淀下、 紫、金雲母 | 良 | 口縁焼ナゲ、腹部内外面ナゲ。 底部火炎部、斜へア 削りの結合焼羽焼。 | 近畿大葉焼、斜へ ア削り |
| 41 | 8 | 床面 | 底部器 | - | - | - | 褐色 | 石英、赤、白色淀下 | 良 | 外表面凹、内面焼心内底に凹 陥れ。 | 内面に結露痕。 點斑焼。 |
| 41 | 9 | 壁上部 | 二脚器 小形器 | 5.8 | 4.9 | 3.8 | 外：褐色 内：褐色 | 白、褐色淀下、赤、 黑色粘土、砂粒 | 良 | コクコナゲ、底部四輪系切り | |

9号住居址

| 回 | 番号 | 計上位置 | 種別 | 法面(cm) | | | 色調 | 埴土 | 焼成 | 調査 | 備考 | |
|----|----|------|-------|--------|-------|--------|-----------------|-------------------|-------------------|---------------------------------|---------------|--------------|
| | | | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | |
| 44 | 1 | 壁上 | 上部器 | - | - | - | 外：に赤い褐色 内：褐色 | 石英、赤色淀子、黑 雲母 | 良 | 口縁焼ナゲ、腹部内外面ハケ、内 面焼ナゲ | 淡黄色に暗褐色 | |
| 44 | 2 | 壁土 | 下部器 | - | - | - | 外：に赤い褐色 内：褐色 | 石英、黑雲母、白、 赤、褐色 | 良 | 口縁焼ナゲ、斜へア、斜へア、斜へア 削り、内面焼、斜へア | | |
| 44 | 3 | 壁土 | 上部器 | - | (4.2) | (10.6) | 外：に赤い褐色 内：褐色 | 石英、黑雲母、白、 赤、褐色 | 良 | 斜へア (外面焼、底、内面焼) | 近江木葉焼 | |
| 44 | 4 | 壁上 | カマツ火灰 | 七脚器 | - | (11.7) | - | 外：に赤い褐色 内：褐色 | 石英、金、黑雲母、 白、褐色 | 良 | 斜へア (外面焼、内面焼) | 内面に暗褐色 焼。 |
| 44 | 5 | 壁土 | 下部器 | - | - | - | に赤い褐色 | 石英、金、黑雲母、 白、褐色 | 良 | 斜へアナゲ、斜へア | 斜へア | |

10号住居址

| 回 | 番号 | 計上位置 | 種別 | 法面(cm) | | | 色調 | 埴土 | 焼成 | 調査 | 備考 |
|----|----|------|-----|--------|--------|-------|-----------------|-------------------------|----|------------------------------|-----------------|
| | | | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | |
| 45 | 1 | 壁土 | 上部器 | - | - | - | 褐色 | 赤、白色淀子、砂 粒、黑雲母、石英 | 良 | 口縁焼ナゲ | |
| 45 | 2 | 壁土下部 | 土師器 | - | - | - | 褐色 | 赤、白色淀子、砂 粒、黑雲母、石英 | 良 | 口縁焼ナゲ。体部外壁ケズリ。 | |
| 45 | 3 | 壁土下部 | 下部器 | (16.6) | (7.1) | (8.5) | 外：に赤い褐色 内：褐色 | 砂岩、赤、白色淀子、 黑雲母、白、黑雲母 | 良 | 口縁焼ナゲ。体部外壁ケズリ。 | |
| 45 | 4 | 壁土下部 | 上部器 | - | (14.7) | - | 外：褐色 内：褐色 | 赤、白色淀子、砂 粒、黑雲母、石英 | 良 | 斜へア外へア削り板、一部へア削 り、内面ヘタケナ。 | |
| 45 | 5 | 壁土 | 土師器 | - | (14.7) | - | 褐色 | 赤、白色淀子、砂 粒、黑雲母、石英 | 良 | 斜へア面へア削り板、内面ヘタケ ナ。 | |
| 45 | 6 | 壁土下部 | 下部器 | (16.6) | (9.1) | 8.4 | 外：明褐色 内：褐色 | 赤、白色淀子、砂 粒、黑雲母 | 良 | 斜へア内外面ナゲ | 内側に隠し焼 近江木葉焼 |

11号住居址

| 回 | 番号 | 計上位置 | 種別 | 法面(cm) | | | 色調 | 埴土 | 焼成 | 調査 | 備考 | |
|----|----|------|-----|--------|--------|-------|---------------|-------------------|-------------------|------------|-------------------------------|--|
| | | | | 口径 | 器高 | 底径 | | | | | | |
| 49 | 1 | 床面 | 上部器 | - | 10.0 | 4.2 | 5.3 | 明褐色 | 赤、白色淀子、砂 粒、黑雲母 | 良 | 底部四輪系切り後、外壁へア削 り。体部内面放射状焼。 | |
| 49 | 2 | 壁土下部 | 上部器 | - | - | - | 外：褐色 内：明褐色 | 砂粒、白色淀子 | 良 | 内面放射状焼。 | | |
| 49 | 3 | 壁土下部 | 土師器 | - | - | - | 明褐色 | 赤、白色淀子、砂 粒 | 良 | 口縁ロクロナゲ | 内側タール穴付着 | |
| 49 | 4 | 壁土 | 上部器 | - | (15.3) | (5.6) | に赤い褐色 | 赤、白色淀子、砂 粒、黑雲母 | 良 | 体部、斜へア削り板。 | 内面放射状焼。 | |
| 49 | 5 | 壁土 | 底部器 | - | - | - | 暗褐色 | 赤、白色淀子、砂 粒、黑雲母 | 良 | ロクロナゲ | | |

| 回 | 番号 | 川土の高さ | 種別 | 岩場 (ca) | | | 色調 | 地上 | 造成 | 調査 | 備考 |
|----|----|-------|--------------------|---------|-------|-------|-------------------------------|--------------------------------|----|-------------------------------|--------|
| | | | | 日差 | 最高 | 底場 | | | | | |
| 49 | 6 | 床面 | 土師器 小型瓦 | (16.8) | (5.6) | - | に赤い褐色 外:に赤い褐色 内:赤褐色 | 黒、金雲母、石英、 白、白色粘土、 灰、少し黒化 | 瓦 | 堆積ナダ、焼ハケ、 鋼筋ハケ (外底面、内面側・頂) | |
| 49 | 7 | 段上・床 | 土師器瓦 | - | (6.4) | (6.5) | 外:に赤い褐色 内:赤褐色 | 黒、少しあ紫化、 白、白色粘土、 灰、少し黒化 | 瓦 | 鋼筋ハケ (外底面、内面側・頂) | 底盤木薙底 |
| 49 | 8 | 壁土・層 | 土師器瓦 | - | - | - | に赤い褐色 砂粒、石英、白、青 白粘土、金雲母 | 黒、 白、 灰 | 瓦 | 鋼筋外表面へラ削り | |
| 49 | 9 | 段上 | 土師器瓦 | - | - | - | 褐色 砂粒、白、黑云母、 白粘土 | 黒、 白、 灰 | 瓦 | 11枚横ナダ。頭部内外面うづ。 | 頭部に接合痕 |
| 49 | 10 | 壁土・層 | 土師器瓦 | - | - | - | 褐色 砂粒、白、白粘土、 白、黑云母 | 黒、 白、 灰 | 瓦 | 断面内外面ナダ | 独立地 |
| 49 | 11 | 壁土下層 | 瓦底表土層 小瓦底 瓦底 | - | - | - | 暗灰褐色 白、赤褐色 白、石英 | 白、 灰 白 | 瓦 | ロクロナダ | |

12号住居址

| 回 | 番号 | 出土位置 | 種別 | 岩場 (ca) | | | 色調 | 地上 | 造成 | 調査 | 備考 |
|----|----|-------|-------------------|---------|-------|-------|----------------------------|---------------------------------|------------------------------------|--|-----------------------|
| | | | | 日差 | 最高 | 底場 | | | | | |
| 52 | 1 | 壁土 | 土師器瓦 | (10.1) | 4.2 | 5.5 | 褐色 | 黒、白色粘土、砂 粒、金雲母 | 瓦 | 底部外表面へラ削り、外底へラ削 り、砂質外表面射状痕 有 | 底部に穴孔 |
| 52 | 2 | 壁上 | 土師器瓦 | (10.4) | 4.2 | 3.5 | 褐色 | 砂粒、白、白色粘 土、金雲母 | 瓦 | 底部外表面へラ削り、内面放射状痕 有 | 底部外表面へラ削り |
| 52 | 3 | 壁土 | 土師器瓦 | (10.9) | (3.8) | (4.9) | 褐色 | 砂粒、白、白粘土 等、金雲母 | 瓦 | 底部外表面へラ削り、砂粒へラ削 り、底部外表面射状痕 有 | 底部外表面へラ削り |
| 52 | 4 | カマン板上 | 土師器瓦 | - | - | - | 褐色 | 砂粒、白、白色粘 土、金雲母 | 瓦 | 底部外表面へラ削り、内面放射状痕 有 | 底部外表面へラ削り、内面放射状痕 有 |
| 52 | 5 | 壁土 | 土師器瓦 | - | - | - | 暗灰褐色 | 白、白色粘土、金 雲母、砂粒 | 瓦 | 底部外表面へラ削り、内面放射状痕 有 | 底部外表面へラ削り |
| 52 | 6 | 壁土 | 土師器瓦 | - | - | - | に赤い褐色 砂粒、白、白色粘 土、金雲母 | 瓦 | 底部外表面へラ削り、内面放射状痕 有 | 底部外表面へラ削り | |
| 52 | 7 | 壁上 | 土師器瓦 | - | - | - | 褐色 | 白、白色粘土、砂 粒、金雲母 | 瓦 | 底部外表面へラ削り、内面放射状痕 有 | 底部外表面へラ削り |
| 52 | 8 | 貼り床土 | 七厘瓦 | - | - | - | 褐色 | 白、白色粘土、砂 粒、金雲母 | 瓦 | 底部外表面へラ削り、内面放射状痕 有 | 底部外表面へラ削り |
| 52 | 9 | 壁土 | 土師器瓦 | - | - | - | に赤い褐色 砂粒、白、白色粘 土、金雲母 | 瓦 | 底部外表面へラ削り、外底へラ削 り、砂質外表面射状 痕有 | 底部と底盤の間に 穴孔 | |
| 52 | 10 | 壁上 | 瓦底表土 | (12.3) | (3.9) | (2.8) | 灰色 | 白、白色粘土、砂 粒、金雲母 | 瓦 | 底部四軒名切リ | |
| 52 | 11 | 壁土下層 | 須恵器底 | (15.2) | (5.7) | - | 灰色 | 砂粒、白、白色粘 土、白灰 | 瓦 | ロクロナダ | 外間に露、13号住 居上層と接合 |
| 52 | 12 | 壁土 | 土師器瓦 | - | - | - | 内: 棕褐色 外: 棕褐色 | 金雲母、砂粒、白、 黑色粘土 | 瓦 | ロクロナダ。外表面色。内面紅褐色 有 | |
| 52 | 13 | 壁上 | 土師器瓦 | - | - | - | 褐色 | 金雲母、砂粒、白、 黑色粘土 | 瓦 | ロクロナダ | 電球状つまみ |
| 52 | 14 | 壁上・上層 | 須恵器底 小口加 工品 | - | - | - | 外: 褐色 内: 暗灰褐色 | 白灰、白、白色粘 土、砂粒 | 瓦 | ロクロナダ | 外間に露 |
| 52 | 15 | 壁上 | 土師器瓦 | (14.0) | (4.0) | - | 褐色 | 白、白色粘土、白、 砂粒、金雲母 | 瓦 | 底部外表面ナダ。内底板・鉄ハケ | 内墨 |
| 52 | 16 | カマド火床 | 土師器瓦 | - | - | - | に赤い褐色 砂粒、白、白色粘 土、金雲母 | 白、白色粘土、砂 粒、金雲母 | 瓦 | 底部外表面ナダ。内底板・鉄ハケ | 内墨 |
| 52 | 17 | カマド火床 | 土師器瓦 | - | - | - | 浅青褐色 | 砂粒、白、白色粘 土、金雲母 | 瓦 | 内面剥ナダ | 火側に接合痕 |
| 52 | 18 | 壁上・上層 | 土師器瓦 | - | - | - | 外: 棕褐色 内: 棕褐色 | 砂粒、白灰、白、 白色粘土、白、黑色粘 土、金雲母 | 瓦 | 内面剥ナダ | 底部木薙底 |
| 52 | 19 | 壁土 | 土師器瓦 | - | - | - | 外: 棕褐色 内: 棕褐色 | 白灰、白、白、 白色粘土、白、黑色粘 土、金雲母 | 瓦 | ロクロナダ。底部内面 に接合ナダ、焼ハケ、 鋼筋ハケ (外底面、内面側) | |
| 52 | 20 | 壁土・上層 | 土師器瓦 | - | - | - | 外: 棕褐色 内: 棕褐色 | 白灰、白、白、 白色粘土、白、黑色粘 土、金雲母 | 瓦 | 11枚横ナダ。底部内面古削れハケ | 瓦墨 |

13号住居址

| 回 | 番号 | 出土位置 | 種別 | 岩場 (ca) | | | 色調 | 地上 | 造成 | 調査 | 備考 |
|----|----|-------|------|---------|-------|----|--------------------|----------------------------------|----|-----------|----|
| | | | | 日差 | 最高 | 底場 | | | | | |
| 56 | 1 | 床面 | 土師器瓦 | (14.0) | (4.0) | - | 外: に赤い褐色 内: 黑褐色 | 白、白色粘土、金 雲母 | 瓦 | 底部外表面へラ削り | 内墨 |
| 56 | 2 | 壁上・上層 | 土師器瓦 | - | - | - | 外: に赤い褐色 内: 黑褐色 | 白、白色粘土、砂 粒、金雲母 | 瓦 | ロクロナダ | 内墨 |
| 56 | 3 | 壁土・層 | 七厘瓦 | - | - | - | 褐色 | 白、白色粘土、砂 粒、金雲母 | 瓦 | 底部外表面へラ削り | |
| 56 | 4 | 壁土・層 | 土師器瓦 | - | - | - | 外: 棕褐色 内: 棕褐色 | 白、白色粘土、白、 黑色粘土、金雲母、 白、白色粘土 | 瓦 | ロクロナダ | |
| 56 | 5 | 壁土 | 土師器瓦 | - | - | - | 外: 棕褐色 内: 棕褐色 | 砂粒、金雲母、白、 白色粘土 | 瓦 | 底部外表面へラ削り | 瓦墨 |

| 区 | 番号 | 凸十位数 | 種別 | 法基 (cm) | | | 色調 | 粒度 | 構成 | 品質 | 備考 |
|----|----|--------|--------------|---------|--------|-------|------------------------|--|----------|-------------------------|-------------------|
| | | | | 凸 | 底高 | 底厚 | | | | | |
| 56 | 6 | 板上上層 | 土の新作 | - | - | - | 明赤褐色 外：灰紫褐色 内：黑色 | 砂、白色粒子、金云母 外：白色粒子、赤 内：黑色 | 良 | 困難な面へラメ入り | |
| 56 | 7 | 木面 | 土壁苔類 | - | - | - | 外：灰紫褐色 内：黑色 | 砂、白色粒子、赤 内：黑色 | 良 | 体形外側へラメ入り | 内面 |
| 56 | 8 | 木面 | 土壁露地 | - | (1.7) | (3.6) | 外：灰紫褐色 内：黑色 | 砂、白色粒子、赤 内：黑色 | 良 | 体形、此端外側へラメ入り | 内面 |
| 56 | 9 | 壁土 | 土壁苔類 | - | (2.1) | (1.8) | 褐色 | 砂、白色粒子、赤 内：黑色 | 良 | 体形、底部外側へラメ入り | |
| 56 | 10 | 板土 | 土壁苔類 | (12.6) | (3.0) | (2.9) | 外：灰紫褐色 内：明赤褐色 | 砂、白色粒子、金云母 内：白色粒子、石英 内：黑色 | 良 | 体形表面へラメ入り。 成形難易あり。 | |
| 56 | 11 | 床面 | 底層苔類 | - | - | - | 灰色 | 石英、灰雲母、白 内：白色粒子 | 良 | ロクロナダ | |
| 56 | 12 | 場上 | 粗面苔類 | - | - | - | 外：(紅)灰紫褐色 内：灰紫褐色 | 砂、白色粒子、赤 内：白色粒子、金云母 内：黑色 | やや小 良 | ロクロナダ | 小品 |
| 56 | 13 | 壁土 | 底層苔類 | - | - | - | 灰黑色 | 白色粒子、砂粒、赤 内：白色粒子、金云母 内：黑色 | 良 | ロクロナダ | |
| 56 | 14 | 壁土 | 粗面苔類 | - | - | - | 灰色 | 砂、黑色粒子、砂 内：白色 | 良 | ロクロナダ | |
| 56 | 15 | カット火床 | 底層苔類 | - | (3.4) | (4.9) | 灰白色 | 石英、砂粒、白色 内：白色粒子、金云母 内：白色 | やや小 良 | ロクロナダ。北西田舎系入り。 外側に灰 | |
| 56 | 16 | 覆土下層 | 灰褐色帶 高台付近 | - | (1.1) | (7.6) | 灰白色 外：灰褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、砂粒 内：白色粒子、砂粒 内：白色 | 良 | ロクロナダ | 体調内面に触 |
| 56 | 17 | 床面 | 土壁苔 小型葉 | (14.2) | (5.6) | - | 外：朝鮮褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、砂粒 内：白色粒子、砂粒 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | |
| 56 | 18 | 床面 | 土壁苔 小型葉 | (14.4) | (6.2) | - | 外：朝鮮褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、砂粒 内：白色粒子、砂粒 内：白色 | 良 | コロナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | |
| 56 | 19 | 壁土 | 土壁苔 小型葉 | - | - | - | 明赤褐色 | 砂、白色粒子、砂 内：白色粒子、砂 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | |
| 56 | 20 | 壁上上層 | 土壁苔 小型葉 | - | - | - | 赤褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | ロクロナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | |
| 56 | 21 | 壁土上層 | 土壁苔 小型葉 | - | - | - | 灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | |
| 56 | 22 | 壁上下層 | 土壁苔 小型葉 | - | - | - | 外：灰褐色 内：白色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | |
| 56 | 23 | 壁土 | 土壁苔類 | (23.0) | (16.8) | - | 灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 内外面に鉛錆斑 |
| 56 | 24 | カット壁上 | 上部苔類 | (23.0) | (4.6) | - | 明赤褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | |
| 56 | 25 | 床面、壁土 | 上部苔類 | (14.0) | - | - | 外：灰褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 外側に塗合斑 |
| 56 | 26 | 壁土 | 土壁苔類 | - | - | - | 灰褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 外側に塗合斑 |
| 56 | 27 | 壁土 | 土壁苔類 | - | - | - | 灰褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 外側に塗合斑 |
| 56 | 28 | カット壁上 | 上部苔類 | (23.0) | (4.6) | - | 明赤褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 外側に塗合斑 |
| 56 | 29 | 壁土 | 上部苔類 | - | - | - | 外：灰褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 外側に塗合斑 |
| 56 | 30 | 壁土 | 土壁苔類 | - | - | - | 灰褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 外側に塗合斑 塗合黒斑 |
| 56 | 31 | 壁土 | 土壁苔類 | - | (4.0) | (7.7) | 灰褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 底面木底膜 |
| 56 | 32 | 壁土上層 | 上部苔類 | - | - | - | 灰褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 内面に指画痕 |
| 56 | 33 | 壁土 | 土壁苔類 | - | - | - | 灰褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 内面に指画痕 |
| 56 | 34 | 壁土上層 | 上部苔類 | - | - | - | 褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 外側に塗合斑 塗合黒斑 |
| 56 | 35 | カット壁上 | 上部苔類 | - | - | - | 褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 内面に指画痕 |
| 56 | 36 | カット壁土 | 上部苔類 | - | - | - | 灰褐色 内：灰褐色 | 砂、白色粒子、石英、黑雲母 内：白色粒子、石英、黑雲母 内：白色 | 良 | 日高横ナダ 胡麻ハケ (外表面、内面側) | 内外面に鉛錆斑 内面に指画痕 |
| 56 | 37 | カット火床下 | 底層苔類 | - | - | - | 灰色 | 石英、白、白色粒子 内：白色 | 良 | ロクロナダ | |

柱穴列、土坑

| 区 | 番号 | 出土位置 | 種別 | 法基 (cm) | | | 色調 | 粒度 | 構成 | 備考 | |
|----|----|----------------|--------------|---------|----|----|----|---------|----|----------|--|
| | | | | 凸 | 底高 | 底厚 | | | | | |
| 62 | 1 | 1号柱穴内 3段上4層 | 土壁苔類 | - | - | - | 褐色 | 石英、砂粒 | 良 | 内面弱い塗合ハケ | |
| 62 | 2 | 2号柱穴内 3段上4層 | 上部苔類 明赤褐色 | - | - | - | 褐色 | 砂粒 | 良 | 底面木底膜 | |
| 68 | 1 | 3号上或下層 | 土壁苔類 小型葉 | - | - | - | 褐色 | 白色粒子、砂粒 | 良 | 内面ハケ | |
| 68 | 2 | 20号土層 | 土壁苔類 | - | - | - | 褐色 | 白色粒子、砂粒 | 良 | 内面ハケ | |

付篇 大間々遺跡における自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山梨県上野原市に所在する大間々遺跡は、桂川左岸の河岸段丘の平坦面上に位置している。当段丘面には、古代～平安時代の集落跡が確認されており、過去に分析調査を行った上野原小学校遺跡等も立地している。本遺跡の発掘調査では、平安時代と考えられる竪穴住居跡や掘立柱建物跡、土坑等の遺構や、当該期の土器や土師器、須恵器、施釉陶器、さらに、金属遺物等の遺物が確認されている。

本報告では、これらの住居跡より出土した炭化材や種実遺体、金属遺物などについて、その種類や成分を調べることにより、当該期における植物利用や遺物の材質について検討する。また、上記した炭化材については、放射性炭素年代測定を行い、遺構の年代に関する資料を作成する。

1. 試料

試料は、炭化材、種実遺体、金属遺物である。以下に、各試料の概要を示す。

・炭化材

炭化材は、8号住居跡内から採取されている。住居跡中心部に焼土や炭化物粒の集中部が確認され、住居跡壁際付近より原形を推定しうる炭化材が多数出土している。これらの炭化材は、発掘調査時に形状観察及び記録した上で採取されている。これらの炭化材より、炭化材同定用試料として18点が選択され、さらに、同試料中の炭化材2点(炭F'・炭T)については放射性炭素年代測定も合わせて行う。

・種実遺体

種実遺体は、10軒の住居跡(1・2・4・5・7～9・11～13号)から採取された27点、1号掘立柱建物跡より採取された3点、20号土坑より採取された1点の計31点(試料番号1～31)である。これらの種実遺体は、発掘調査時に採取された試料と、水洗選別によって得られた試料がある。これらの試料を対象に、種実遺体同定を行う。

・金属遺物

金属遺物は、1号住居跡床面より出土した鉗具と呼ばれる金具である。当遺物の肉眼観察では、破損等による欠損はなく、遺物表面に土壤の付着や腐食による緑青が認められるのみである。当試料については、蛍光X線分析を行う。

分析試料とした炭化材及び種実遺体の形状や採取された地点・遺構等の詳細は、各分析結果とともに示す。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、 β 線計数法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5570年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。なお、曆年校正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における曆年校正曲線を用いる条件を与え計算を行っている。

(2) 炭化材同定

木口(横断面)・杼目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

(3)種実遺体同定

試料を双眼立体顯微鏡下で観察し、同定可能な果実、種子などを抽出する。種実の形態的特徴を所有の現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川,1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか,2000)等と比較し、種類を同定し、個数を数えた。分析後の種実は、種類毎に乾燥剤とともにビンに入れ、保存する。

(4)蛍光X線分析

蛍光X線分析はサンプリングが困難な文化財の材質調査に広く用いられている手法である。なお、ごく表面層を測定対象とするため、出土遺物表面が風化等の外的な汚染を受けている場合、遺物本来の元素組成を導くことは難しい。ただし、遺物の保存といった点を考慮すると、外観上の変化を伴わない本分析法は概略の元素組成を知るためには極めて有効な手法となる。

材質調査に用いた装置はセイコーアンスツルメンツ(株)製エネルギー分散型蛍光X線分析装置(SEA2120L)である。測定条件を表1に示す。

試料は、前述したように一様に緑青に覆われ、さらに緑青表面には土粒子の付着が観察された。本報告では、遺物破損の回避を条件とし、非破壊を前提とした材質調査を目的とするため、分析の前処理としてこれらの緑青や土粒子等の付着物のクリーニングは行わず調査を行うこととした。なお、測定箇所は、肉眼観察でこれらの付着物の最も少ない箇所を選択した。

表1 測定条件

| 測定装置 | SEA2120L |
|-----------|-----------|
| 管球ターゲット元素 | Rh |
| 動起電圧(kV) | 15 50 |
| 管電流(μA) | 自動設定 自動設定 |
| 測定時間(秒) | 300 300 |
| 有効時間(秒) | 216 222 |
| コリメータ | Φ10.0mm |
| フィルター | なし |
| マイラー | OFF |
| 雰囲気 | 真空 |

3結果

(1)放射性炭素年代測定

結果を表2・3に示す。試料の測定年

代(補正年代)は、炭F'は約1600年前、炭Tは約3600年前の値を示す。一方、

炭F'は約1600年前の値を示す。一方、
年較正年代のうち相対比の高い年代

を見ると、炭F'は5世紀前半～6世紀中頃、炭Tは約3700～3900年前の年代となる。

これらの試料は、同一住居跡より採取された炭化材であるが、考古学的に考えられている遺構の年代よりも古い値を示している。このような古い年代値が得られる要因としては、心材部を利用したことによる年代差とは考え難いことから古材の利用や、周囲の土壤中に含まれる腐植の影響を受けた可能性などが考えられる。

表2 放射性炭素年代測定結果

| 試料名 | 出土遺構 | 試料の質 | 樹種 | 補正年代 BP | δ 13C (‰) | Code.No. |
|-----|------|------|-----|------------|--------------|----------|
| 炭F' | 8号住 | 炭化材 | カツラ | 1570±80 | -26.4 | IAA-413 |
| 炭T | 8号住 | 炭化材 | ケヤキ | 3550±80 | -24.4 | IAA-414 |

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5730年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値

表3 年較正結果

| 試料 | 補正年代 (BP) | 年較正年代(cal) | | | | | | 相対比 | Code No. |
|-----|--------------|--------------|---|--------------|--------------|---|-------|-------|----------|
| | | cal AD 411 | - | cal AD 583 | cal BP 1,539 | - | 1,387 | | |
| 炭F' | 1570±80 | cal AD 590 | - | cal AD 596 | cal BP 1,360 | - | 1,354 | 0.030 | IAA-413 |
| 炭T | 3550±80 | cal BC 2,013 | - | cal BC 1,999 | cal BP 3,963 | - | 3,949 | 0.054 | IAA-414 |
| | | cal BC 1,978 | - | cal BC 1,856 | cal BP 3,928 | - | 3,806 | 0.572 | |
| | | cal BC 1,852 | - | cal BC 1,789 | cal BP 3,802 | - | 3,719 | 0.367 | |
| | | cal BC 1,756 | - | cal BC 1,754 | cal BP 3,706 | - | 3,704 | 0.007 | |

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver

付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

(2)炭化材同定

結果を表4に示す。炭化材は、針葉樹1種類(カヤ)と広葉樹4種類(エノキ属・ケヤキ・カツラ・ケンボナシ属)に同定された。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

・カヤ(*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

輪方向組織は仮道管のみで構成され、早材部から晚材部への移行はやや急で、晚材部の幅は狭い。仮道

管内壁にかすかにらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1~10細胞高。

・エノキ属(*Celtis*) ニレ科

環孔材で、孔圈部は1~3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1~15細胞幅、1~50細胞高で精細胞が認められる。

・ケヤキ(*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圈部はほぼ1列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。

放射組織は異性、1~6細胞幅、1~50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・カツラ(*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1~2細胞幅、1~30細胞高。

・ケンボナシ属(*Hovenia*) クロウメモドキ科

環孔材で、孔圈部は1~3列、孔圈外で急激に管径を減じたのち漸減する。大道管は管壁厚は中庸、横断面では横円形、単独、小道管は管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独および放射方向に2~3個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1~5細胞幅、1~40細胞高。

(3)種実遺体同定

結果を表5に示す。木本3種類(クリ、モモ、ミズキ)、草本8種類(イネ、アワヒエ、オオムギ、コムギ、イネ科、ササゲ属、タケニグサ、エノキグサ)の種実が検出された。タケニグサ、エノキグサを除き全て炭化した状態で遺存状況は不良である。この他に、木の芽や鱗茎、炭化物なども検出された。木材組織が認められない、部位・種類共に不明の炭化物は、不明炭化物と表示した。

これらの同定された種実遺体について、造構別出土種類構成をみると、2号住居跡からは木本3種類、草本はイネとエノキグサを除く6種類が検出された。特に、焼土面からはアワヒエが多く検出された。また、4号住居跡からはイネとコムギ、7号住居跡からはモモとコムギ、ササゲ属、9号住居跡からはアワヒエ、コムギ、イネ科、エノキグサ、11~13号住居跡からはアワヒエとコムギ、1号掘立柱建物からはモモが検出された。なお、5~8号住居跡及び20号土坑からは同定可能な種実は検出されなかった。以下に、同定された種実や鱗茎の形態的特徴などを記述する。

<木本種実>

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

子葉が検出された。完全に炭化しており、黒色。三角状広卵形、一側面は偏平で反対面はわずかに丸みがある。長さ17mm、幅21mm程度。木質で、表面には内果皮(洪皮)の圧痕の筋線が走る。

・モモ(*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)の完形、破碎片と種子(仁)が検出された。全個体とも完全に炭化しており、黒色を呈す。核は広楕円形でやや偏平。先端部はやや尖り、基部は切形で中央部に窓入した臍がある。長さ20~30mm、幅16~20mm、厚さ10~14mm程度。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線に沿って半分に割れた個体がみられる。

表4.樹種同定結果

| 遺構 | 試料名 | 分類 | 樹種 |
|-----|-----|------|--------|
| 6号住 | 炭B | 柱状 | カヤ |
| | 炭C | 柱状 | ケンボナシ属 |
| | 炭C | 柱状 | カヤ |
| | 炭D | 馬蹄状 | エノキ属 |
| | 炭E | 柱状 | カツラ |
| | 炭F | 馬蹄状 | カツラ |
| | 炭H | 馬蹄状 | エノキ属 |
| | 炭K | 柱状 | ケンボナシ属 |
| | 炭L | 柱状 | カヤ |
| | 炭M | 馬蹄状 | エノキ属 |
| | 炭N | 形狀不明 | ケンボナシ属 |
| | 炭O | 形狀不明 | ケンボナシ属 |
| | 炭P | 馬蹄状 | カヤ |
| | 炭Q | 柱状 | カヤ |
| | 炭R | 柱状 | ケンボナシ属 |
| | 炭T | 板状 | ケヤキ |
| | 炭U | 板状 | カヤ |
| | 炭V | 馬蹄状 | カヤ |

内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。内側表面は平滑で、仁が入る横円形の窪みが見られる。仁は広楕円形で偏平。長さ 10mm、幅 8mm 程度。表面は粗面。

・ミズキ (*Cornus controversa* Hemsl.) ミズキ科ミズキ属

核(内果皮)の破片が検出された。炭化しているため黒色、偏球形で径 4mm 程度。基部に大きく深い孔がある。内果皮は厚く硬く、表面にはやや深い縦溝が数本走る。

<草本種実>

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳の破片が検出された。完全に炭化しており、黒色。完形ならば長椭円形でやや偏平、長さ 4~6mm、幅 2.5mm、厚さ 1.5mm 程度。一端に胚が脱落した凹部があり、両面はやや平滑で 2~3 本の縦溝がある。

・アワヒエ (*Setaria itarica* Beauv.-*Echinochloa crus-galli* Beauv.) イネ科

胚乳が検出された。完全に炭化しており、黒色。広楕円体でやや偏平。長さ 1.5mm、幅 1mm 程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部に胚の凹みがある。表面はやや平滑。

・オオムギ (*Hordeum vulgare* L.) イネ科オオムギ属

胚乳の破片が検出された。完全に炭化しており、黒色。完形ならば鈍錐状長椭円形で先端部は尖り、基部

表5.種実遺体同定結果

| 種類名 クリ | 木本種実 | | | | | | | | 草本種実 | | | | | | | | 樹 木 の 芽 エノキグサ ササゲ タケニグサ 種子 | 質化材 不明 炭化物 |
|-----------|-----------------|----------|-------------|--------|--------|-------------|--------|--------|-------------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---|------------------|
| | モモ | ミズキ | イネ | アワヒエ | オオムギ | コムギ | イネ科 | ササゲ | タケニグサ | モモ | ミズキ | イネ | アワヒエ | オオムギ | コムギ | イネ科 | | |
| | 子葉 | 種 子 | 種 子 | 種 子 | 胚 乳 | 胚 乳 | 胚 乳 | 胚 乳 | 種 子 | 種 子 | 種 子 | 種 子 | 種 子 | 種 子 | 種 子 | 種 子 | | |
| | 状態 | 完形 | 破片 | 破片 | 破片 | 破片 | 破片 | 破片 | 破片 | 完形 | 破片 | 破片 | 破片 | 破片 | 破片 | 破片 | | |
| 試料No. | 出土場所 | 水洗サンプル番号 | 未 炭 化 | 炭 化 | 炭 化 | 未 炭 化 | 炭 化 | 炭 化 | 未 炭 化 | 未 炭 化 | 炭 化 | 炭 化 | 炭 化 | 炭 化 | 炭 化 | 炭 化 | 未 炭 化 | 未 炭 化 |
| 1 | 1号住 | カマド火床部焼土 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 |
| 2 | | 土 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 3 | (新) 塗土遺構 焼土純層 | - | - | 44 | 14 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 4 | (旧) 焼土純層 | - | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 5 | (旧) 焼土土壌 | 7 | - | - | - | - | - | - | 8 | - | - | - | - | - | - | - | 2 | - |
| 6 | (旧) 焼土土壌 | 6 | - | - | - | - | - | 253 | 1 | 3 | - | 1 | 2 | 4 | - | - | 4 | + |
| 7 | (旧) 焼土土壌中 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 8 | (旧) 焼土 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 9 | (旧) カマド火床部 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 5 | - | - | - | - | - | - | - | 6 |
| 10 | 不明 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 11 | (新) 焼土遺構 焼土鉢層直下 | 5 | - | - | 4 | - | 1 | 6 | - | - | - | - | - | - | - | - | 3 | - |
| 12 | (旧) 灰 | 3 | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 2 | 3 |
| 13 | P2 | 8 | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 4 | 4 |
| 14 | カマド火床部 | 10 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 | 1 |
| 15 | 土 | 58 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 16 | 土 燃土 | 11 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 12 | + |
| 17 | 7号住 | 79 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 10 |
| 18 | 土 燃土 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 19 | 54 | - | - | 12 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 20 | 80 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 21 | 12 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 | 4 |
| 22 | カマド火床部 | 12 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 | 4 |
| 23 | 北カマド火床部焼土 | 14 | - | - | - | - | - | - | 9 | - | 1 | - | 1 | - | - | - | 1 | + |
| 24 | 土壌上層(第6層) | 15 | - | - | - | - | - | - | 22 | - | 1 | - | - | - | - | - | 2 | + |
| 25 | 11号住 | 16 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 11 | + |
| 26 | カマド火床部 | 16 | - | - | - | - | - | - | 10 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 27 | 13号住 | 17 | - | - | - | - | - | - | 3 | - | 2 | - | - | - | - | - | 1 | + |
| 28 | カマド火床部 | 19 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | + |
| 29 | 1号石立柱建物 | 20 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 | + |
| 30 | P2 石立柱建物(第1層) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 | - |
| 31 | 20号土壌 土壌上層 | 21 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 | + |

注)(+)は、微細粒子を含むため軽微推定が困難である種類を示す。「数字+(+)」は、数字以上の個数が確定される種類を示す。

は丸い。長さ 5~7mm、幅 3.5mm、厚さ 3mm 程度。腹面には 1 本のやや太く深い縦溝があり、背面基部には胚の

痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

・コムギ(*Triticum aestivum* L.) イネ科コムギ属

胚乳が検出された。完全に炭化しており、黒色。楕円形で全体的に丸みを帯びている。長さ 4.2mm、幅 3.2mm 程度。腹面には1本のやや太く深い縦溝がある。背面基部には胚の痕跡があり、丸く窪む。表面はやや平滑。なお、頂部を欠損するなど遺存状態が悪く、オオムギとの判別が難しいものはムギ類とした。

・イネ科(Gramineae)

胚乳が検出された。完全に炭化しており、黒色。狭卵形でやや偏平。長さ 1mm、幅 0.8mm 程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部に胚の凹みがある。

・ササゲ属(*Vigna*) マメ科

炭化した種子が検出された。黒色、長楕円体。長さ 3~5.5mm、径 2~5mm 程度。焼け崩れているおり遺存状態は悪いが、子葉の合わせ目上に 2mm 程度の長楕円形状で隆起する跡がある。子葉の合わせ目に沿って半分に割れた個体がみられる。子葉の合わせ目は平滑で、中心部がやや凹む。表面はやや平滑で光沢があるが、焼け膨れのため種皮が裂けている。ササゲ属にはササゲ、アズキ、リョクトウなどが含まれ、遺跡出土の炭化マメ類をその形態からを同定する試みが行われている(吉崎, 1992)。一方で、野生種との雜種も多いため、形態のみから現在の特定の種類に比定することは難しいと考えられている(南木, 1991; 南木・中川, 2000 など)。

・タケニグサ(*Macleaya coedata* (Willd.) R. Br.) ケシ科タケニグサ属

種子が検出された。淡黄色、狭倒卵形体で基部は尖る。長さ 2 mm、径 1mm 程度。種子表面は、横長楕円形の深い凹みが継列し網目模様をなす。

・エノキグサ(*Acalypha australis* L.) トウダイグサ科エノキグサ属

種子が検出された。黒色、卵形で長さ 1.5mm、径 1mm 程度。基部はやや尖り、Y字状の筋がある。種皮は薄く硬く、表面は細かな粒状の窪みが配列せざらつく。

〈鱗茎〉

炭化しているため黒色、地下茎の中軸に肉質の鱗茎葉が多数密生し、球体を呈す。径 15mm 程度。鱗茎はネギ属、ユリ属などにみられる。

(4)蛍光X線分析

検出された元素はマグネシウム(Mg)、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、硫黄(S)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、鉄(Fe)、銅(Cu)、ヒ素(As)、ビスマス(Bi)の 10 元素である(図1)。これらの検出元素についてFP法(ファンダメンタルパラメーター法)を用いたノンスタンダード法を行い、定量演算を行った結果、表6に示した定量結果が得られた。なお、測定に関しては表示した条件の他に、測定条件(強度等)や測定箇所を変えた測定も、ほぼ同様な結果を示した。

本分析結果は、金属遺物表面の緑青成分と付着土壤の組成を反映した結果のため、材質を直接的に特定する結果でない。ただし、少なくとも銅を含む金属が利用されたことが示唆できる。

遺物表面に付着していた緑青は、一般的には塩基性炭酸銅($Cu_2CO_3(OH)_2$)が主体となるが、埋蔵環境によっては塩基性塩化銅($CuCl_2 \cdot 3Cu(OH)_2$)が生成される場合もある。これららの緑青成分を特定するためにはX線回折法による調査により判定が可能である。一方、銅を用いた金属材料には、いわゆる純銅以外に、青銅($Cu-Sn[low]$)、黄銅($Cu-Zn$)、白銅($Cu-Sn[high]$)、赤銅($Cu-Au$)、四分一($Cu-Ag$)などの様々な合金が知ら

表6. 元素組成

| | 含有率(%) | 積分強度(cps) |
|----|--------|-------------------|
| Mg | 0.41 | 2,348(± 0.155) |
| Al | 8.52 | 54,787(± 0.517) |
| Si | 22.63 | 309,989(± 1.204) |
| S | 0.13 | 4,665(± 0.210) |
| Ca | 0.59 | 3,886(± 0.155) |
| Ti | 0.13 | 1,489(± 0.122) |
| Fe | 0.79 | 32,188(± 0.402) |
| Cu | 65.98 | 2071,200(± 3.051) |
| As | 0.82 | 12,304(± 0.249) |
| Bi | 0.20 | 2,281(± 0.140) |

れている(馬淵,2003)。当試料についても合金の可能性があるが、本分析の条件下では、スズや亜鉛等の有無については検出できず、詳細な検討は不可能であった。この点については、金属遺物内部の材質調査によって明らかになると考えられる。

4.考察

本項では、大間々遺跡より検出された炭化材や種実遺体の分析結果から、当該期における植物利用について検討を行う。

炭化材は、8号住居跡北半分に集中し、多くが壁沿いの限られた範囲より検出され、断面形態観察から4種類(柱状、馬蹄状、板状、形状不明)に分類されている(表7)。

これらの炭化材の中で柱状のものは、住居跡壁際から住居跡中央へ軸方向が向いているものが多く、垂木などに由来すると考えられる。一方、板材と分類される炭化材は、住居跡南西壁中央付近に集中し、垂木と考えられる炭化材よりも幅広で、壁に平坦面がほぼ平行するように出土している。このことから、壁板の板材に由来する可能性がある。なお、馬蹄状の炭化材は、焼失住居にしばしば確認されるが、焼成時に中まで完全に炭化しなかったため、未炭化部分が腐食し残らず、炭化部分のみが残存し馬蹄状となつたと判断される。したがって、馬蹄状の炭化材は、本来は柱状を呈していたと考えられる。また、形状不明の炭化材も、出土状況が柱状や馬蹄状と同様であり、これらの状況を考慮すると柱状を呈していた可能性がある。

柱状、あるいは柱状を呈すると考えられる炭化材は、ケヤキを除く4種類が確認された。なお、炭化材N・Oは、隣接し直線上に出土し、また2点ともケンボナシ属であることから、同一個体の可能性がある。また、炭化材Cにはケンボナシ属とカヤの2種類が認められている。カヤは隣接する炭化材Bに確認されることから、炭化材C中のカヤは、炭化材Bからの混入の可能性がある。これらのことから、当該期の住居構築材の垂木等には針葉樹・広葉樹のいずれの木材も利用していたと推測される。

炭化材の利用については、上野原小学校遺跡(上野原町)の奈良時代の住居跡よりクヌギ節を確認している(パリノ・サー・ヴェイ株式会社,2003)。また、健康村遺跡(長坂町)の平安時代の住居構築材の調査事例や、隣接する神奈川県や東京都でもクヌギ節や近縁種のコナラ節も用いた事例を多数確認している(高橋・樺木,1994)。本分析結果では、これらのクヌギ節やコナラ節は全く認められず、異なる種類構成を示した。本地域周辺の現存植生(宮脇,1985,1986)等も参考にすると、これらが生育する二次林(雑木林)が広くみられることが指摘され

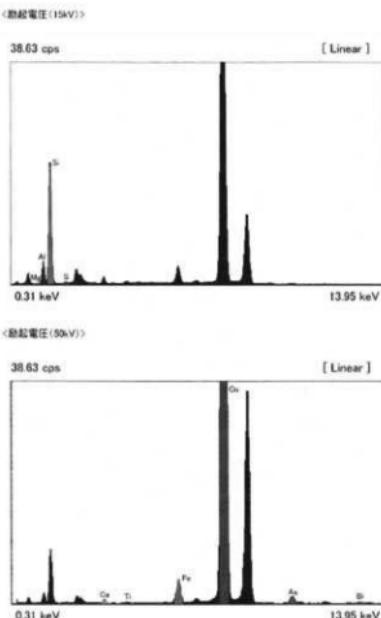


図1. X線スペクトル

表7 炭化材の形状別種類構成

| 遺構・分類 8号住 | 樹種 | | | | 合計 |
|--------------|-------|------|-----|--------|----|
| | エノカヤ属 | ケヤキ属 | カヤ属 | ケンボナシ属 | |
| 板状 | 1 | 1 | | | 2 |
| 柱状 | 4 | | 1 | 3 | 8 |
| 馬蹄状 | 2 | 3 | 1 | | 6 |
| 形状不明 | | | | 2 | 2 |
| 合計 | 7 | 3 | 1 | 2 | 18 |

ており、これらの木材の入手が困難であったとは考え難い。そのため、8号住居跡に認められた木材の種類構成は特異である。そのため、本分析で選択しなかった当住居跡から検出された他の炭化材の樹種についても調査し、再検討することが望まれる。

一方、住居跡や掘立柱建物跡などから採取された種実遺体からは、有用植物とされる種類が多数認められている。有用植物には、大陸などから持ち込まれた栽培植物と、山野に自生していたと考えられる種類がある。栽培植物のモモ、イネ、アワ、オオムギ、コムギ、ササゲ属は、古くから栽培のために持ち込まれた渡来種である(南木,1991)。2・7号住居跡や1号掘立柱建物から検出されたモモは、中国からの渡来種とされ、觀賞用の他、果実や核の中にある仁(種子)などが食用、薬用等に広く利用される。また、穀類のイネや、2号住居跡(旧)床焼土面より特に多く検出されたアワーヒエや、オオムギ、コムギ、ササゲ属などは胚乳や種子が食用される。

山梨県内については、古代～中世の遺跡から検出された炭化種実について時代・地域別に検討が行われ、甲府盆地ではモモ、イネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギが出土例、個体数とともに多いことが指摘されている(櫛原,1999)。本遺跡の分析結果は、当該期における山梨県内における炭化種実の出土例と調和しており、同様な有用植物が利用されていたと言える。一方、山野等に自生する種類であるクリは、前述した山野の二次林(雜木林)内に生育する。果実は生食、長期保存が可能で収量も多いため、古くより里山で保護してきた種類である。この他に、鱗茎などの根茎類は、デンブン質に富むため、古くから採取され、食用に利用されてきた事例がある(山本,2002)。

これらの栽培植物を含む有用植物は、住居址内カマドや床面付近焼土や貼り床等から検出され、いずれも炭化していることなどを考慮すると、当該期に利用されていた植物であると判断される。一方、これらの炭化種実とともに検出されたタケニグサ、エノキグサは、炭化の痕跡は確認されなかった。これらは伐採跡地や人里周辺の明るく開けた場所に生育していたものに由来すると考えられる。ただし、吉崎(1992)の炭化種子以外の解析についての指摘や、上記した炭化種実遺体と比較し未炭化で遺存状況が良好であること等を考慮すると、これらの種実遺体は遺構の埋没過程で混入した可能性もある。そのため、本項ではこれらと炭化種実は区別し、結果報告に留め解析からは除外している。

引用文献

- 櫛原功一,1999.炭化種実から探る食生活—古代～中世を中心に—.食の復元—遺物・遺跡から何を読みとるか.
帝京大学山梨文化財研究所編.岩田書院.81-98.
- 南木 瞳彦,1991.栽培植物・古墳時代の研究 4 生産と流通 I.石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編.
雄山閣,165-174.
- 南木 瞳彦・中川 治美,2000.大型植物遺体.琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 3-2 粟津湖底
遺跡 自然流路(粟津湖底遺跡Ⅲ).滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会.49-112.
- 宮脇 昭(編),1985.日本植生誌 中部・至文堂,604p.
- 宮脇 昭(編),1986.日本植生誌 関東・至文堂,641p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2003.上野原小学校遺跡から出土した炭化材・種実遺体の種類「上野原町埋蔵文化財調査報告書第 10 集 上野原小学校遺跡 II 町立上野原小学校給食施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」,上野原町教育委員会.55-57.
- 中山 至大・井之口希秀・南谷 忠志,2000.日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.
- 高橋 敦・植木 真吾,1994.樹種同定からみた住居構築材の用材選択.PALYNO.2,パリノ・サーヴェイ株式会

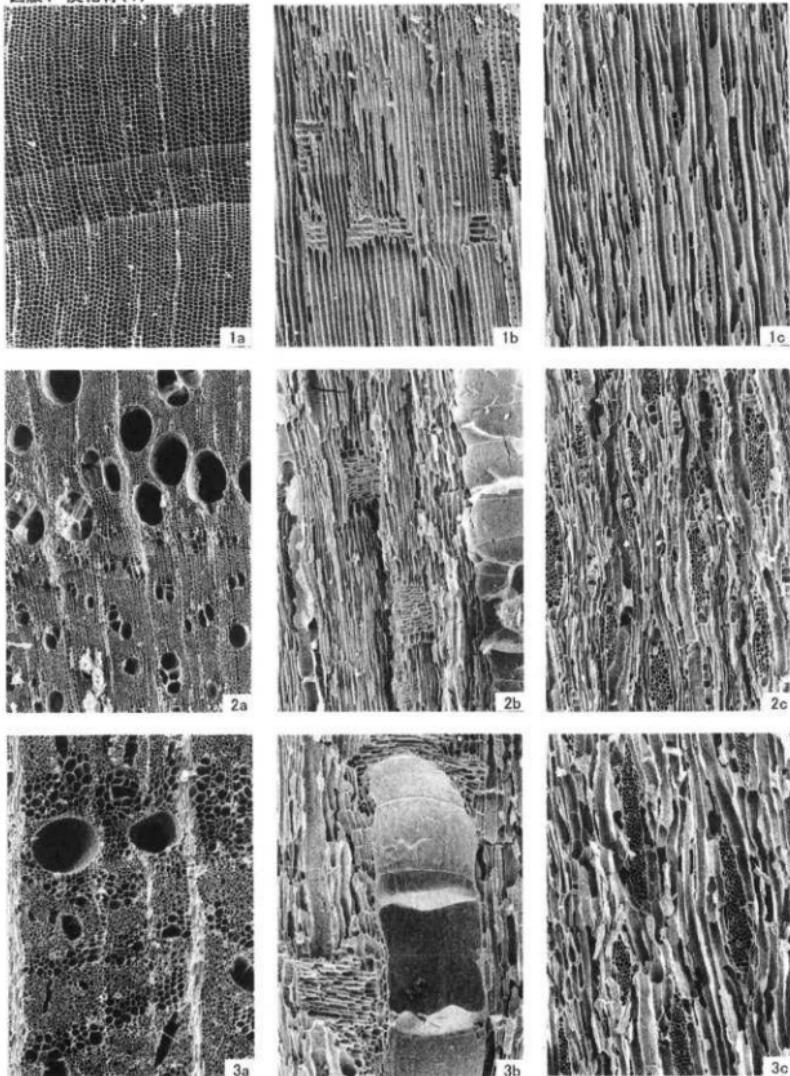
社,5-18.

馬淵 久夫編,2003,文化財科学の事典,朝倉書店,522p.

山本直人,2002,縄文時代の植物採集活動－野生根茎類食料化の民俗考古学的研究－,渓水社,250p.

吉崎 昌一,1992,古代雑穀の検出,考古学ジャーナル,355,ニューサイエンス社,2-14.

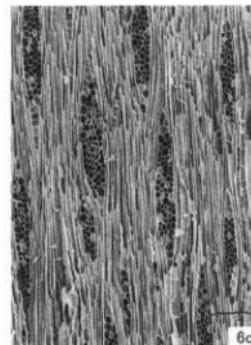
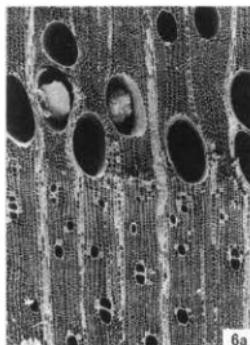
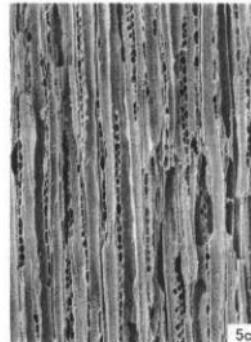
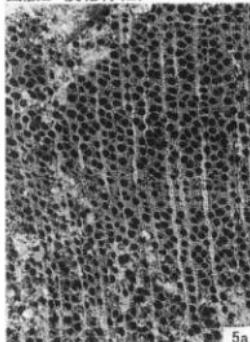
図版1 炭化材(1)



1. カヤ(8号住 炭Q)
 2. エノキ属(8号住 炭M)
 3. ケヤキ(8号住 炭T)
- a:木口, b:柾目, c:板目

— 200 μ m a
— 200 μ m b,c

図版2 炭化材(2)



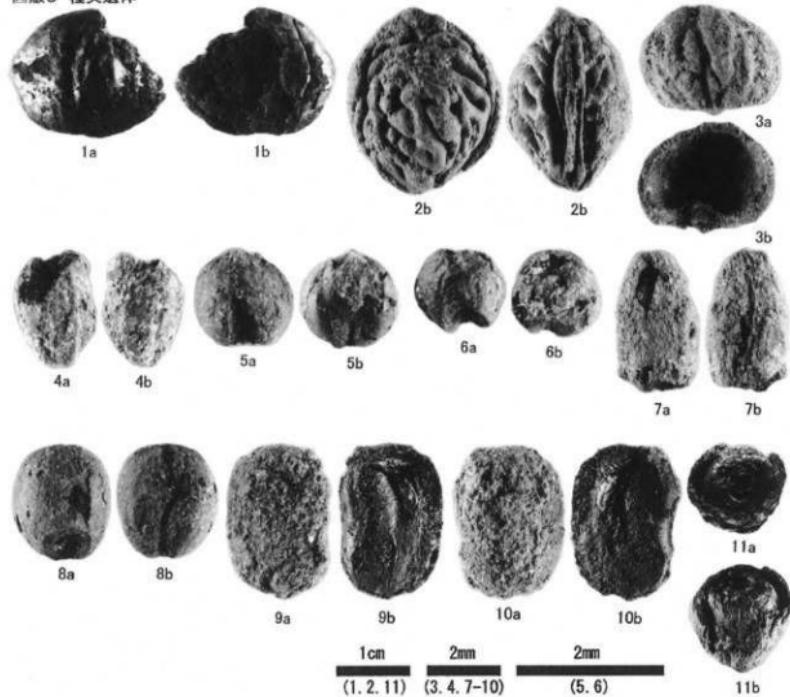
4. カツラ(8号住 炭F)

5. ケンボナシ属(8号住 炭O)

a:木口, b:柾目, c:板目

— 200 μ m: a
— 200 μ m: b,c

図版3 種実遺体



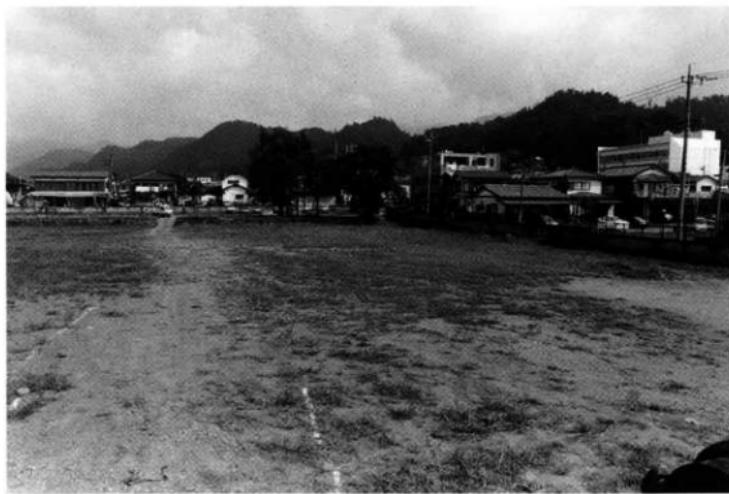
- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1. クリ 子葉(試料番号6;2号住 貼り床中) | 2. モモ 核(試料番号9;2号住) |
| 3. ミズキ 核(試料番号10;2号住 焼土純層直下土) | 4. イネ 胚乳(試料番号13;4号住 床面中央 焼土址) |
| 5. アワーヒ工 胚乳(試料番号5;2号住 覆土 焼土面) | 6. アワーヒ工 胚乳(試料番号5;2号住 覆土 焼土面) |
| 7. オオムギ 胚乳(試料番号5;2号住 覆土 焼土面) | 8. コムギ 胚乳(試料番号5;2号住 覆土 焼土面) |
| 9. ササゲ属 種子(試料番号5;2号住 覆土 焼土面) | 10. ササゲ属 種子(試料番号5;2号住 覆土 焼土面) |
| 11. 鱗茎(試料番号18;7号住 覆土 焼土) | |

写真図版

写真 1



遺跡遠景（南から） 昭和 34 年撮影



調査前近景

写真2



調査区全景

写真3

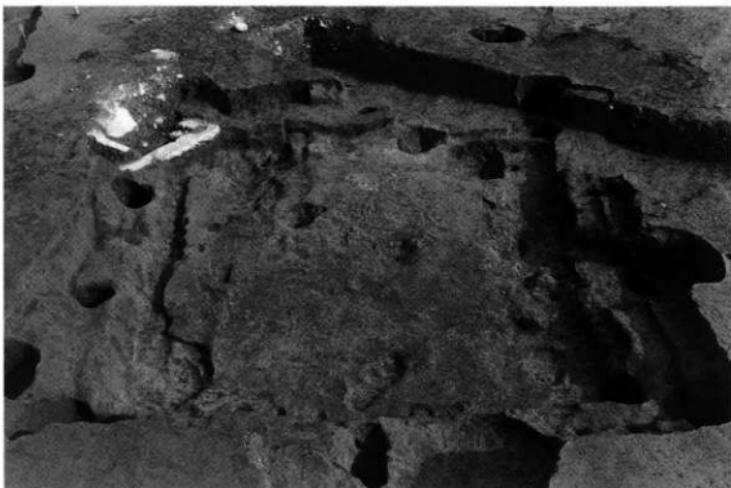


1号住居址（南西から）



1号住居址カマド検出状況

写真4



2号住居址（南西から）



2号住居址（北東から）

写真5



2号住居址（旧）須恵器坏出土状況



2号住居址（旧）P4付近遺物出土状況

写真 6



調査区南端の遺構検出状況（南から）



3号居住址（南から）

写真7



4号住居址（南から）



4号住居址遺物出土状況（南から）

写真 8



5号住居址（南西から）



6号住居址（南西から）

写真9



6号住居址カマド検出状況



6号住居址カマド石組み検出状況

写真 10



7号住居址（南東から）



7号住居址遺物検出状況（南東から）

写真 11



7号住居址カマド検出状況



7号住居址カマド芯材、支脚検出状況

写真 12



8号住居址（南西から）



8号住居址カマド付近遺物出土状況

写真 13



8号住居址カマド検出状況



8号住居址カマド煙道部

写真 14



8号住居址土師器壺出土状況



8号住居址土師器壺出土状況

写真 15



8号住居址遺物出土状況（南西から）



8号住居址炭化材出土状況（西壁中央付近）



9号住居址（南から）



9号住居址北カマド芯材、支脚検出状況

写真 17



10号住居址（北西から）



調査区北端遠景検出状況（南西から）

写真 18



11号住居址



11号住居址カマド

写真 19



12号住居址（南東から）



13号住居址（北西から）

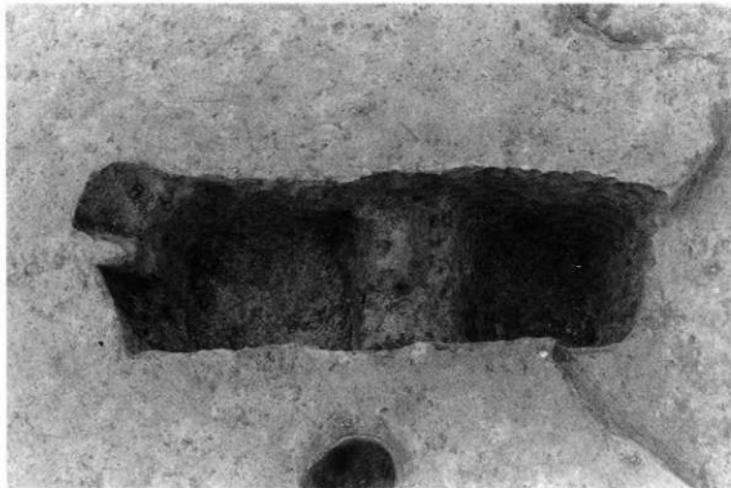


13号住居址カマド



1号柱立柱建物址（南東から）

写真 21



1号据立柱建物址柱穴 (P 4・P 5)



2号据立柱建物址 (南西から)

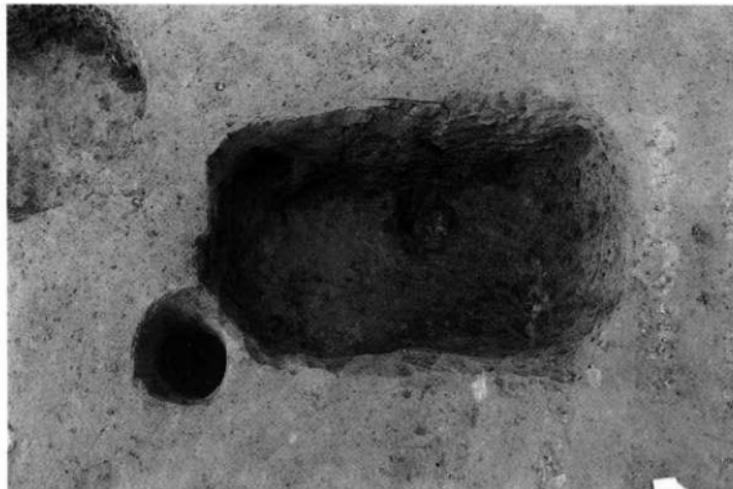


1号柱穴列（南西から）

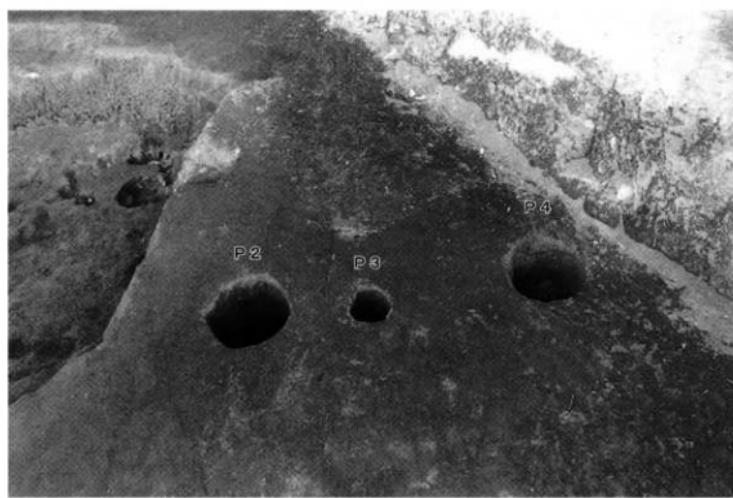


1号柱穴列 柱穴（P 4. P 5）

写真 23



1号柱穴列 柱穴 (P 2)



ピット (南西から)

写真 24



ピット (北西から)



ピット断面 (P 36)

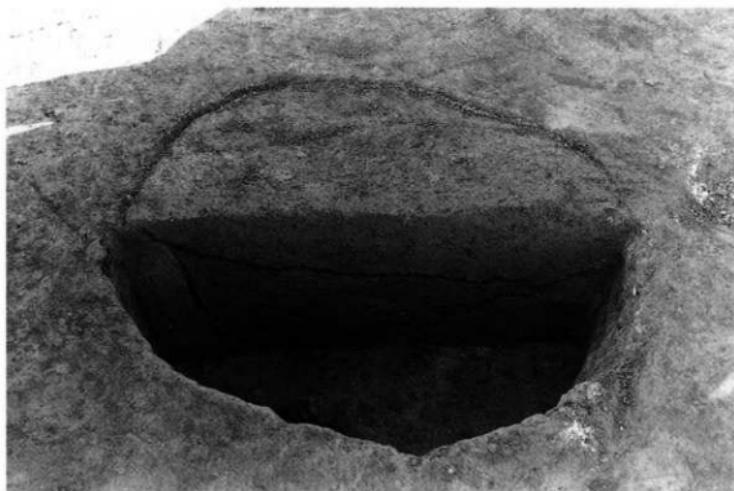
写真 25



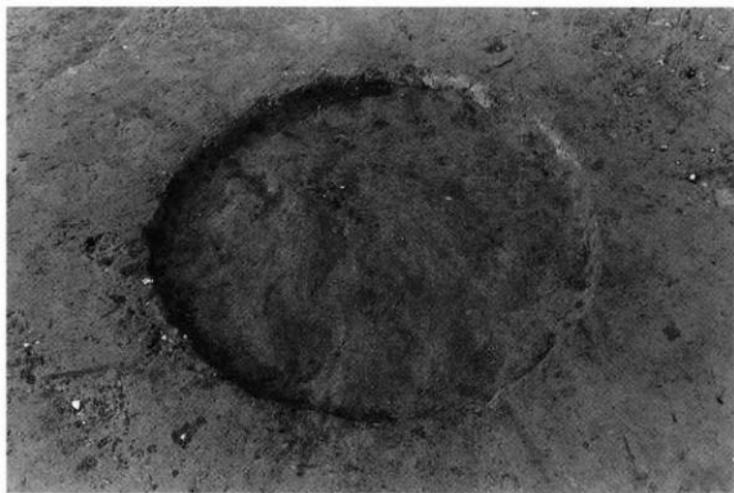
1号土坑（西から）



2号土坑

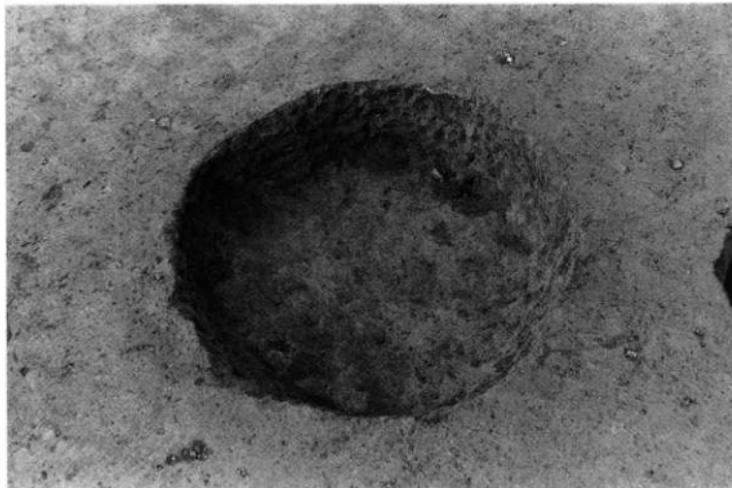


4号土坑土層断面

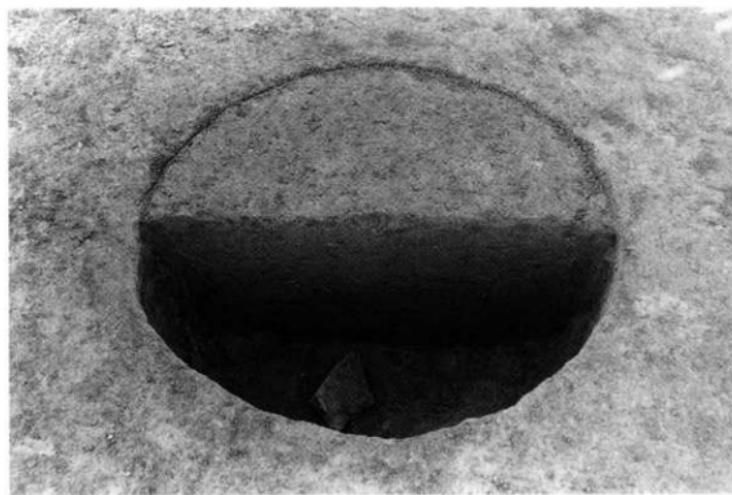


5号土坑

写真 27



6号土坑

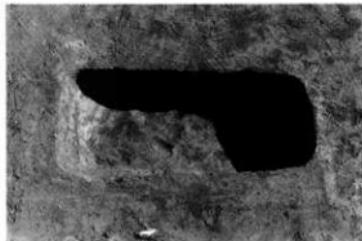


7号土坑土层断面

写真 28



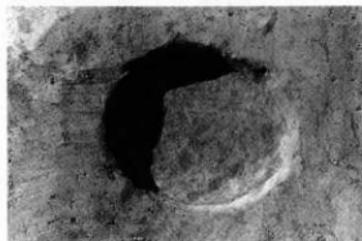
11・12号土坑



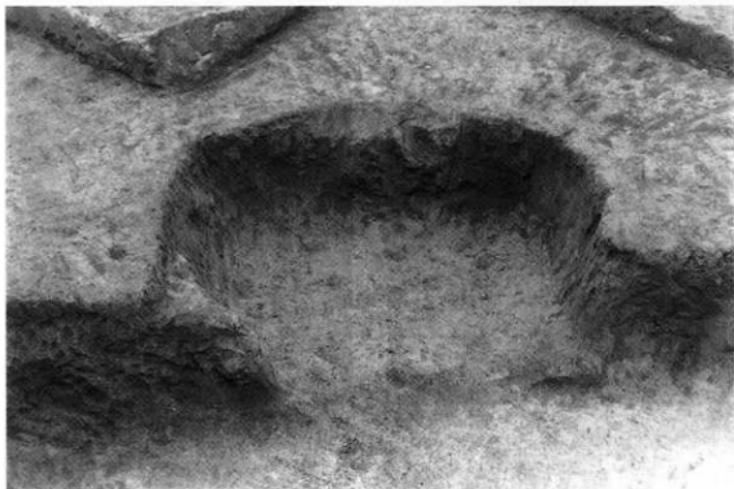
13号土坑



14号土坑



15号土坑



20号土坑

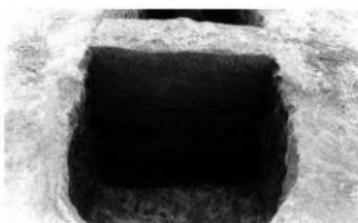
写真 29



2号溝



2号溝土層断面



3号溝土層断面



5号溝



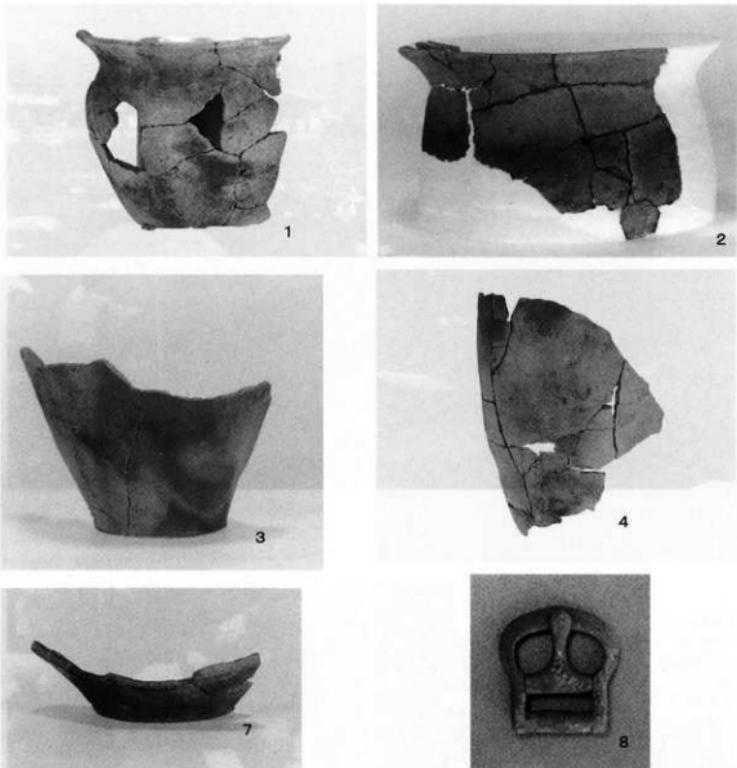
7号・8号溝

写真 30

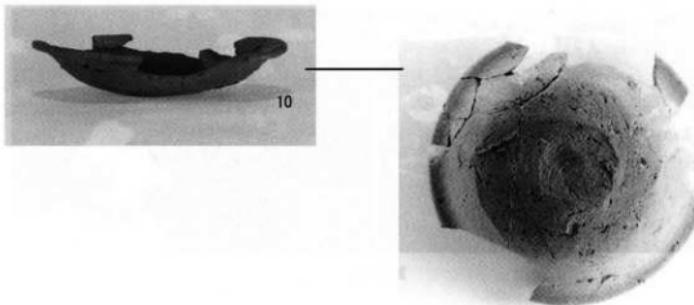


調査風景

写真 31

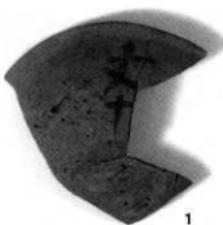


1号住居址出土遺物

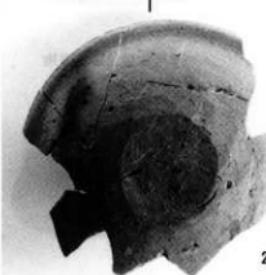
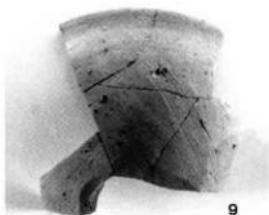
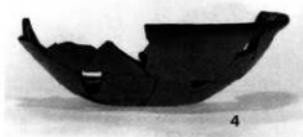
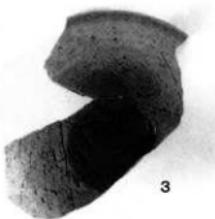


2号住居址（新）出土遺物

写真 32



2号住居址（新）出土遺物

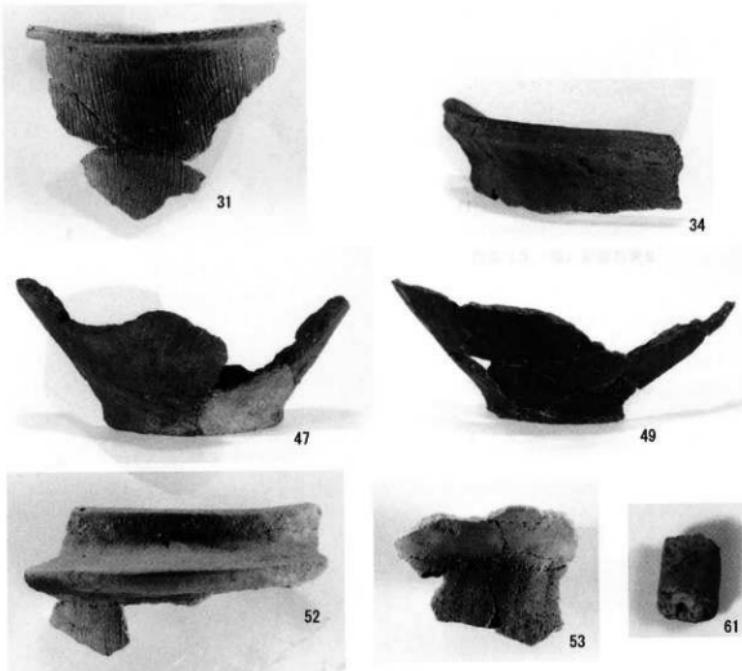


23

27

2号住居址（旧）出土遺物

写真 33



2号住居址(Ⅱ)出土遺物



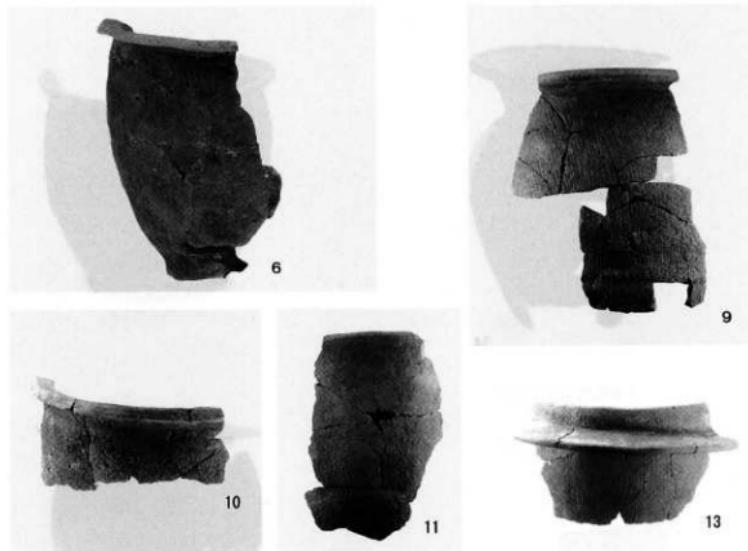
3号住居址出土遺物

4号住居址出土遺物

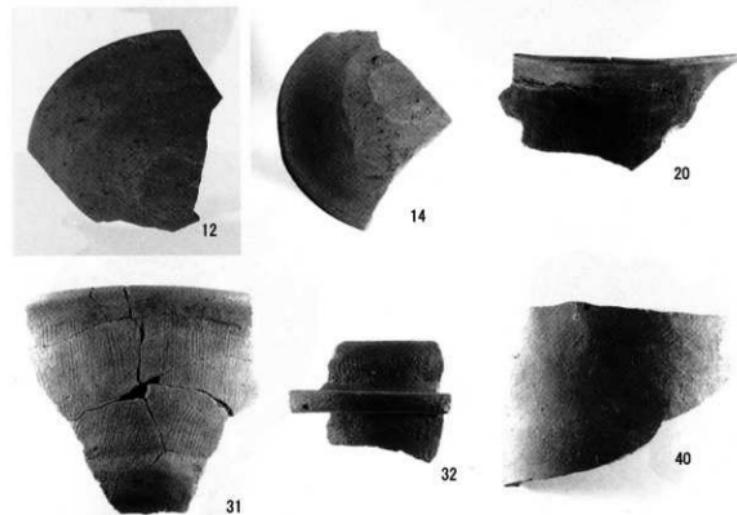


5号住居址出土遺物

写真 34



6号住居址出土遺物



7号住居址出土遺物

写真 35



34



1

7号住居址出土遺物



2



3



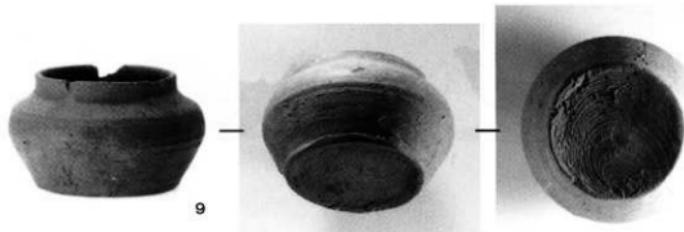
5



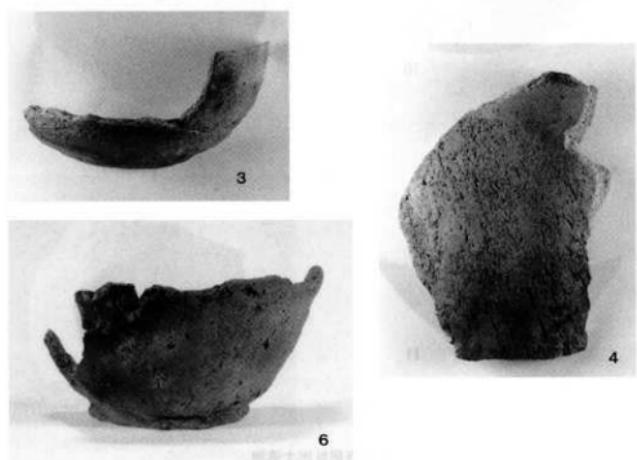
7

8号住居址出土遺物

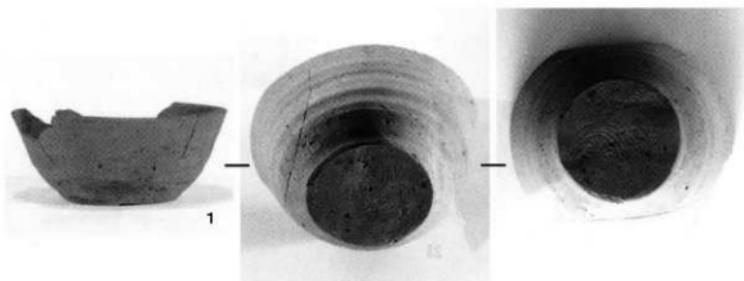
写真 36



8号住居址出土遺物

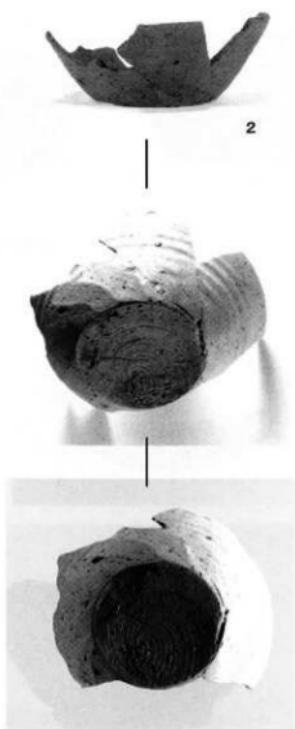


10号住居址出土遺物



11号住居址出土遺物

写真 37



12号住居址出土遺物



23

13号住居址出土遺物

報告書概要

| | | |
|-------|---|---|
| フリガナ | オオママイセキ | |
| 書名 | 大間々遺跡 | |
| 副題 | 上野原市庁舎等建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | |
| シリーズ | 上野原市埋蔵文化財調査報告書第2集 | |
| 著者名 | 小西直樹、早勢加菜 | |
| 発行者 | 上野原市教育委員会 | |
| 編集機関 | 上野原市教育委員会 | |
| 住所・電話 | 〒409-0112 山梨県上野原市上野原 3832 電話 0554-62-3409 | |
| 印刷所 | 中島印刷謹 | |
| 発行日 | 平成19年(2007)3月23日 | |
| 大間々遺跡 | 所在地 | 山梨県上野原市上野原 3832 畠地 |
| | 地図名・位置・標高 | 1/25000上野原 北緯35° 37' 49" 東経139° 6' 32" 標高264m |
| 概要 | 主な時代 | 奈良・平安時代 |
| | 主な遺構 | 堅穴住居址、掘立柱建物址、柱穴列、土坑、ピット |
| | 主な遺物 | 土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品、石製品、金属製品(銅製鉗具)、炭化種子 |
| | 調査期間 | 平成13年(2001)8月29日~12月27日 |

上野原市埋蔵文化財調査報告書 第2集

大間々遺跡

平成19年(2007)3月23日発行

編集・発行 上野原市教育委員会
